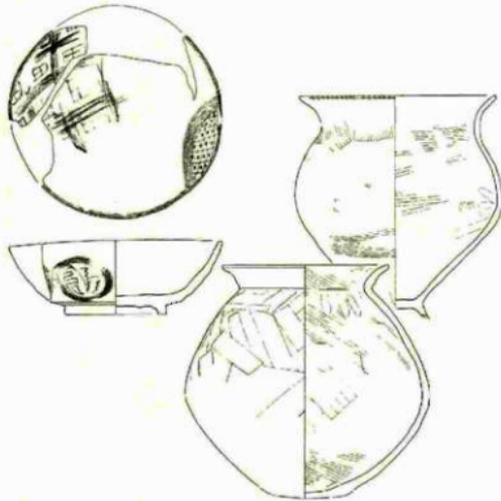


甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)

Kofu jyoukamachi Site

(Castletown of Kofe-Castle in the pre-modern period)

甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書



2007.12

山梨県教育委員会
国土交通省

甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)

Kofu jyoukamachi Site

(Castletown of Kofe-Castle in the pre-modern period)

甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書

2007.12

山梨県教育委員会
国土交通省



甲府城下町遺跡全景：南東から北西をのぞむ（画面中央は平和通り）



甲府城下町遺跡調査区全景：左がⅠ区、右がⅡ区



I区上層①：右端に②につながる（杭が目印）



I区上層②：左端に①につながる（杭が目印）



II区北壁土層：ビット状の落ち込みは3面の遺構
写真より下は黒色粘土が続く



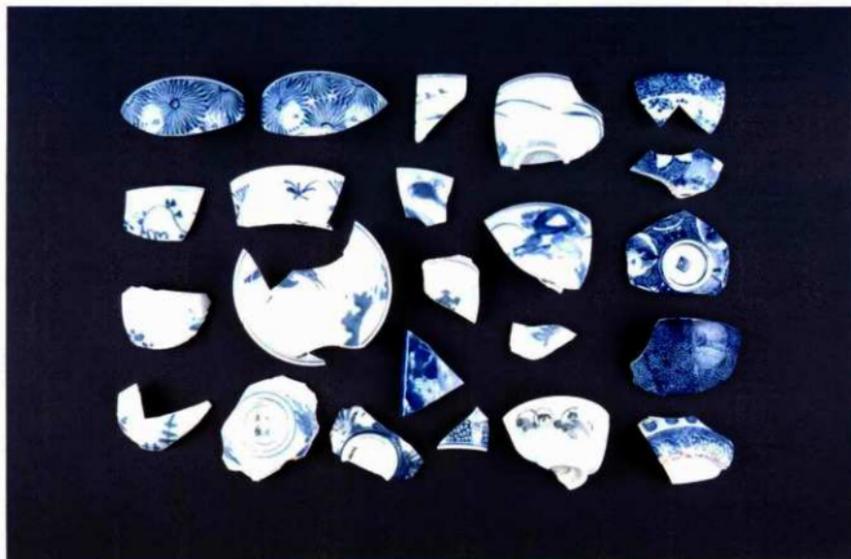
陶磁器類集合（1区出土）



「春岱」銘のある志野焼鉢（1区出土）と底部見込み「春岱」銘のアップ



小倉焼の行平（1区出土）



磁器類 (I区・II区・試掘調査)



磁器類 (I区・II区・試掘調査)



土師器類① (Ⅱ区3面)



土師器類② (Ⅱ区3面)



土師器類③ (Ⅱ区3面)



土師器・須恵器類① (Ⅱ区3面)



土師器・須恵器類② (Ⅱ区3面)



赤彩土器 (Ⅱ区3面)



須恵器 (Ⅱ区3面)



土師器底部 (Ⅱ区3面)



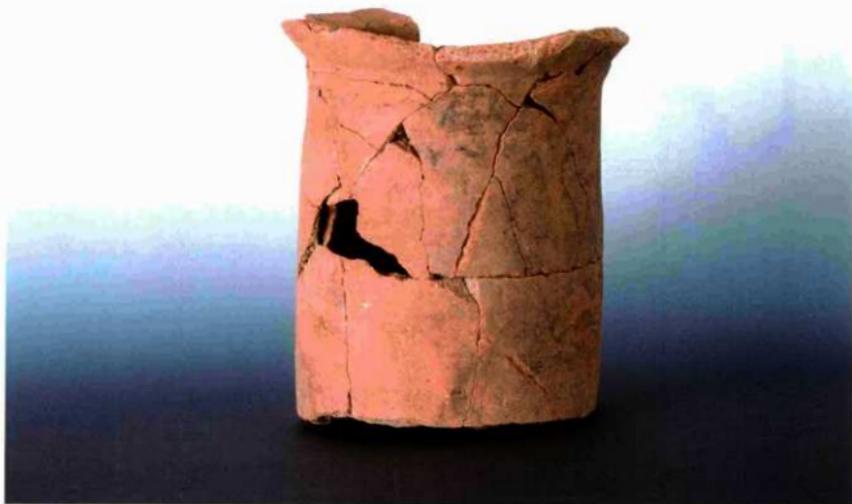
台付甕（Ⅱ区3面：竪穴状遺構1）



甕（Ⅱ区3面：竪穴状遺構2）



火を受けた石（ピット4）



土管（Ⅱ区2面）

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）の概要

甲府城・二の堀・を探す

江戸時代、甲府城は内側から順に「内堀」、「二の堀」、「三の堀」というように3つの堀によって囲まれていました。「二の堀」はその内側の武家地と、その外側の町人地とを隔てていました。今回の調査地点のうちのⅠ区ではこの「二の堀」が見つかる可能性があります。土の積み重なった状況をよく観察してみると・・・



▲Ⅰ区の土層

もともとあった自然の層が削られて、その後別の土が積み重なっている様子が確認されました。これが「二の堀」なのでしょうか？

さらに土をよく観察してみると、あとから積み重なっている土はほぼ平らに重なっていったことがわかりました。「二の堀」は明治時代の初めに埋め立てられたといわれていますが、この土はよく締まっていて、江戸時代や明治時代どころか、ずーっと大昔に自然に積み重なった土のようです。

また江戸時代なかば頃の絵図と今の町並みの地図を重ね合わせたところ、甲府地方裁判所のあたりでは「二の堀」は平和通りの位置を南北方向に走っていたようであることがわかりました。昔の絵図の距離感や位置はほぼ現在の町並みと合致していて、新しい建物や高いビルが乱立している甲府中心市街地にも昔の町並みが息づいているとは思えない感じがします。



▲「甲府御城下絵図」（柳沢文庫）をもとに作成
：調査地周辺の江戸時代中ごろの様子

現れなかった城下町…

調査地周辺には江戸時代には武家屋敷が広がっていました。甲府地方裁判所のある場所は、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった時期（1704～1724年）には「滝口平太左衛門」という800石取りの武士（家老）の屋敷地でした。

800石がどれくらいの年収だったか単純に計算してみると・・・

米1俵=60kg

1石に対して
米1俵が与え
られていたとすれば…

米10kg=4,000円 とすれば…

米1俵=2万4千円

800石では、
年収1,920万円！

というように、年収にしてみるとハイクラスだったことがわかります。まわりと比べて屋敷地も広く、「家老」という身分からかなりの実力者だったと言えるでしょう。これが幕末頃の絵図によると「御薬園」という場所に様変わりします。「御薬園」は薬草などが栽培されていた場所です。

しかしながら調査地からは溝が4本見つただけでした。これは調査地が「滝口邸」の南端にあたり、建物などがなかった場所であったことや、「武家屋敷」から「御薬園」へという大きな土地利用の変化があったことなども理由に挙げられるかも知れません。

甲府の中心地から古墳時代の土器が顔を出す！

現在の地表から1mほど掘り下げたところから、古墳時代を中心に平安時代の土器も若干含む層がでてきました。見つかったものには古墳時代前期の台付甕や古墳時代後期の坏や須恵器（青灰色で固い焼き物）もあります。特に須恵器は、破片ではありますが大甕や長い脚がつく高坏などマツリに使われることが多い器が含まれていました。現在は市街地化が進みかつての地形をうかがい知ることは難しいですが、当時は甲府城がある小山から南に向かって細長い高まりが延びていたものと思われます。江戸時代に掘られた「二の堀」は川が流れていたところを利用しながらつくられたとも言われていますから、日当たりも水はけも良く、近くに水辺もあったこの場所は、人々の暮らしには最適な場所だったといえるでしょう。

甲府城下町遺跡と呼ばれる範囲の中では、これまで城下町以前の人々が暮らしした痕跡がまともに見つかることは少なかったため、今回の発掘調査は甲府市中心地の新たな歴史を紐解いたと言えるでしょう。



序

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）の所在する甲府市中央1丁目付近は、現在では、甲府警察署、甲府地方裁判所、甲府地方検察庁といった官公庁が建ち並び、銀行や証券会社などのオフィスビルも軒を並べるなど、まさに甲府の中心街ですが、江戸時代においては、甲府城の南門である追手門を出たところに広がる武家屋敷地の一角を占める場所でした。絵図によると甲府地方裁判所の場所は、江戸時代中期には「滝口平太左衛門」という800石取りの家老の屋敷地であり、また幕末には「御薬園」と呼ばれる薬草などを栽培する場所だったようです。

今回の甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）の発掘調査は、甲府地方裁判所の新築工事に伴い、その事前調査として2006（平成18）年度に行われました。調査の結果、地表下約1mのところから弥生時代末～平安時代の土器がバックされた層が見つかりました。中には完形に近い台付甕や、胴部の丸い甕なども含まれていました。これまで、周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城下町遺跡」から城下町以前の遺構や遺物がまとまって見つかることは少なかったので今回の発掘調査は貴重な成果を上げたといえます。

江戸時代については上述の通り、甲府城「二の堀」の内側、武家屋敷地の一角にあたる場所で、この「二の堀」跡の東肩部分がかかる可能性もありましたが、これについての明確な痕跡は見あらず、甲府地方裁判所地点付近では「二の堀」はほぼ平和通りの位置を南北方向に走る形で通っていたのではないかと、という結論に達しました。また、武家屋敷地の明確な痕跡については調査面積の制約もあって確認することはできませんでした。しかしながら遺物については興味深いものが見られています。遺構に伴ったものではありませんが、幕末に活躍した尾張の陶工「加藤春岱」の銘が入った志野焼の鉢などが見つっています。このように名の知れた陶工による作品が発掘調査で見られることは珍しいことです。本書に掲載しておりますこれらの調査成果は学術的価値が非常に高く、「甲府城下町遺跡」としてひとくくりにされていたこの地における、城下町以前の歴史の新たな1ページを開いたと言えます。

本報告書が多くの方々に研究学習資料としてご活用いただければ幸甚であります。

末筆ながら、種々ご協力賜りました関係機関各位、地元の方々並びに、調査や整理作業に従事していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2007年12月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 末木 健

例言

1. 本報告書は、平成18(2006)年度に実施した山梨県甲府市中央1丁目1-10-7に所在する甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)の発掘調査報告書である。
2. 本調査は甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う事前調査であり、国土交通省より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3. 発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターが行ない、鶴田博・野代恵子が担当した。
4. 本報告書の編集および執筆は、鶴田博・野代恵子が担当した。関連科学については、第4章 自然科学分析をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
5. 本報告書作成のための主な作業分担は下記のとおりである。

| | |
|-------------------------|----------------------------|
| 遺構写真撮影 | 鶴田博・野代恵子 |
| 遺物写真撮影 | 清水 守(スタジオ トータル アイ) |
| 遺物洗浄・注記・接合 ・復元 | 北野礼子・栗原礼子・齊藤里美・野沢喜美 |
| 遺物実測・拓本・トレース ・遺構トレース | 猪股順子・栗原礼子・齊藤里美・萩原里江子・野沢まゆみ |
| 図版作成 | 野代恵子・栗原礼子・齊藤里美・萩原里江子 |
| 写真図版作成 | 野代恵子 |
| 表作成 | 野代恵子 |
6. 発掘調査および整理事業において下記の業務を委託した。

| | |
|-----------|-----------------|
| 基準杭測量 | : 昭和測量株式会社 |
| 航空写真および測量 | : 株式会社 こうそく |
| 土層測量 | : 株式会社 シン技術コンサル |

¹⁸ C年代測定・花粉分析 : バリノ・サーヴェイ株式会社
遺物写真撮影 : 清水 守(スタジオ トータル アイ)
7. 本報告書にかかる出土品および記録図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
8. 発掘調査から報告書作成に至る過程で、下記の諸氏・諸機関から多大なるご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表わす次第である(順不同・敬称略)。
甲府市教育委員会、甲府地方裁判所事務局会計課、河西 学、川崎昌宏、西川広平、バリノ・サーヴェイ株式会社、昭和測量株式会社、株式会社 こうそく、清水 守(スタジオ トータル アイ)
9. 本報告の遺跡名について
本事業地内の遺跡名は甲府市における遺跡台帳と照らし合わせて「甲府城下町遺跡」として進めてきたが、他の周辺遺跡の多くの名称が「甲府城下町遺跡」であり混同を防ぐため、甲府地方裁判所地点として本報告書では遺跡名を加筆記載することとした。

凡例

1. 掲載した図面の縮尺は、原則として次のとおりである。
縦穴状遺構：S = 1 / 40、遺物：S = 1 / 3
2. 遺物観察表の()は推定値を表す。
3. 遺物実測図の断面黒色は須恵器を表す。
4. 遺物実測図の断面の左側に外面、右側に内面の拓本がある。
5. 赤彩された土器は赤彩箇所をスクリーントーンで表す。
6. 石の摩擦面はスクリーントーンで表す。

目次

口絵

甲府城下町遺跡のあらまし

序文

例言・凡例

目次

| | |
|------------------|----|
| 第1章 調査の経緯と経過 | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査の経過 | 1 |
| 第3節 調査組織 | 2 |
| 第2章 遺跡の位置と環境 | 2 |
| 第1節 地理的環境 | 2 |
| 第2節 歴史的環境 | 2 |
| 第3章 調査の方法と成果 | 6 |
| 第1節 調査の方法 | 6 |
| 1. 調査区の設定 | 6 |
| 2. 調査の目的 | 6 |
| 3. 調査グリッドの設定 | 6 |
| 4. 記録の方法 | 6 |
| 5. 整理作業・報告書作成の方法 | 6 |
| 第2節 基本層序 | 6 |
| 第3節 遺構と遺物 | 9 |
| 1. 調査成果の概要 | 9 |
| 2. I区の遺構 | 9 |
| 3. I区の遺物 | 10 |
| 4. II区の遺構 | 10 |
| 5. II区の遺物 | 10 |
| 第4節 立会い調査 | 11 |
| 1. II区西側部分の立会い調査 | 11 |
| 2. I区南側部分の立会い調査 | 12 |
| 3. 井戸の立会い調査 | 12 |
| 第4章 自然科学分析 | 59 |
| 第5章 まとめ | 63 |
| 第1節 I区 | 63 |
| 1. 遺構 | 63 |
| 2. 遺物 | 63 |
| 第2節 II区 | 64 |
| 1. 遺構 | 64 |
| 2. 遺物 | 66 |
| 第3節 おわりに | 66 |

挿図目次

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 | 4 |
| 第2図 遺跡の位置とその周辺 | 7 |
| 第3図 調査区・立会い調査箇所・試掘トレンチ位置図 | 7 |
| 第4図 基本層序 | 8 |
| 第5図 I区 全体図、土層セクションポイント位置図 | 13 |
| 第6図 I区 遺物出土位置図 | 14 |
| 第7図 I区 土層図 | 15～16 |
| 第8図 I区 出土遺物(1):遺物集中箇所 | 17 |
| 第9図 I区 出土遺物(2):遺物集中箇所 | 18 |
| 第10図 I区 出土遺物(3):遺物集中箇所 | 19 |
| 第11図 I区 出土遺物(4):遺物集中箇所 | 20 |
| 第12図 II区1面 全体図 | 21 |
| 第13図 II区2面 全体図、遺構外遺物出土状況 | 22 |
| 第14図 II区2面 溝 出土遺物 | 22 |
| 第15図 II区3面 全体図 | 23 |
| 第16図 II区3面 ビツト位置図・セクション図、セクションポイント位置図 | 24 |
| 第17図 II区3面 遺構外遺物出土状況図 | 25 |
| 第18図 II区 調査区壁 土層図 | 26 |
| 第19図 竪穴状遺構1 全体図、遺物出土状況図・セクション図 | 27 |
| 第20図 竪穴状遺構2 全体図、遺物出土状況図・セクション図 | 28 |
| 第21図 竪穴状遺構3・4 全体図、遺物出土状況図 | 29 |
| 第22図 竪穴状遺構1 出土遺物(1) | 30 |
| 第23図 竪穴状遺構1 出土遺物(2) | 31 |
| 第24図 竪穴状遺構1 出土遺物(3) | 32 |
| 第25図 竪穴状遺構1 出土遺物(4) | 33 |
| 第26図 竪穴状遺構1 出土遺物(5) | 34 |
| 第27図 竪穴状遺構2 出土遺物(1) | 35 |
| 第28図 竪穴状遺構2 出土遺物(2) | 36 |
| 第29図 竪穴状遺構3・4 出土遺物(1) | 37 |
| 第30図 竪穴状遺構3・4 出土遺物(2) | 38 |
| 第31図 遺構外出土遺物(1) | 39 |
| 第32図 遺構外出土遺物(2) | 40 |
| 第33図 遺構外出土遺物(3) | 41 |
| 第34図 遺構外出土遺物(4) | 42 |
| 第35図 遺構外出土遺物(5) | 43 |
| 第36図 遺構外出土遺物(6) | 44 |
| 第37図 立会い調査 トレンチ平面図・セクション図 | 45 |
| 第38図 立会い調査 出土遺物 | 46 |
| 第39図 試掘調査 トレンチ平面図 | 47 |
| 第40図 試掘調査 トレンチ1 出土遺物(1) | 48 |
| 第41図 試掘調査 トレンチ1 出土遺物(2) | 49 |
| 第42図 調査地点周辺の江戸時代中頃における土地利用 | 64 |
| 第43図 「甲府御城下絵図」の地区割りと現在の街並み | 65 |

表目次

| | |
|----------------------------|----|
| 表1 甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点) 周辺遺跡 | 5 |
| 表2 陶磁器類観察表 | 50 |
| 表3 土器類観察表 | 54 |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

甲府地方裁判所は、文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡のなかにある。甲府地方裁判所の改築に伴い、県埋蔵文化財センターは2002（平成14）年6月25～26日の期間で仮設庁舎予定地における埋蔵文化財の範囲を確定するための試掘調査を行った。調査箇所については第3図に示す通りである。その結果、現地表面より約50cm～60cmの深さから江戸時代と考えられる配石状遺構や石列のほか、青磁皿や播鉢などの遺物が確認された（注1）。この調査による出土遺物は本報告中におさめた（第40・41図）。

2004（平成16）年6月、国土交通省関東地方整備局営繕部、甲府地方裁判所事務局会計課、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターの担当者が集まり、甲府地方裁判所の改築に関する協議を行った。その中で、同年度から翌年度にかけて仮設庁舎を建設し、2006（平成18）年度に新庁舎建設予定地内にある既存の建物の基礎を解体する各年度の計画が出された。また、仮設庁舎については埋蔵文化財に影響を及ぼさない範囲で建設するように設計され、影響がある場合にはその都度立会い調査などで対応することを確認した。それに伴い、2004（平成16）年8月にはボーリング調査に伴う立会い調査を（注2）、2005（平成17）年9月には水槽タンク設置に伴う立会い調査を実施した（注3）。

2006（平成18）年9月、国土交通省関東地方整備局営繕部および甲武営繕事務所、甲府地方裁判所事務局会計課、県教育委員会学術文化財課、県埋蔵文化財センターの担当者により、本格的な発掘調査に関する協議を行った。その中で、既存建物の基礎が3mほどの深さで入り込んでいることから、既存建物の基礎工事を行った際に掘削が及んでいない範囲を中心に調査を行い、基礎部分については立会い調査などで対応することを確認した。そして、同年11月より発掘調査に着手した。

なお、法的な手続きは以下のとおりである。

平成18年 11月1日 文化財保護法第99条第1項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成19年 1月4日 文化財保護法第100条第2項に基づく埋蔵文化財発見通知を甲府警察署長に提出

（注1）山梨県埋蔵文化財センター（2003、9）『年報19（平成14年度）』

山梨県教育委員会（2006、3）『甲府城跡周辺確認調査報告書 県庁構内及び甲府城下町遺跡関係立会・発掘調査等報告』

（注2）山梨県埋蔵文化財センター（2005、10）『年報21（平成16年度）』

（注3）山梨県埋蔵文化財センター（2006、10）『年報22（平成17年度）』

第2節 調査の経過

発掘調査は平成18年9月より諸準備を整え、同11月1日より着手し12月25日に終了した。調査期間中には高等裁判所や甲府地方裁判所職員の方々の現地見学などもあった。調査をしていく中で当初設定した調査区外で工事による破壊が及ぶ範囲に遺物包含層が広がっていることが確認されたため、調査終了後、平成19年1月22日から24日にかけて、この箇所についての立会い調査を行なった。また「二の堀」跡に関わる調査として、同2月27日に立会い調査を行なった。本調査終了後、平成19年1月9日から3月19日まで基礎的整理作業を行なった。同3月17日には山梨県考古学会主催の平成18年度下半期遺跡発表会において調査成果についての発表を行なった。また同3月17日から4月8日にかけて「山梨の遺跡展2006」において出土遺物の展示を含め、調査成果についての紹介を行なった。平成19年6月8日には工事中に井戸が発見されたため、立会い調査を行なった。

第3節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

平成18年度発掘調査・基礎的整理作業

担当 : 調査研究課 鶴田 博・野代恵子

発掘調査作業員: 天野きみ子・石井弘文・入倉和代・岡和子・岡部豊雄・小沢正臣・加賀美昌友・金丸恵美・北野礼子・児玉和子・五味護・齊藤里美・佐藤武光・田中ふみ江・田辺君代・土屋幹夫・手塚房子・中澤久雄・野沢喜美・深沢和樹・村田勝利

整理作業員: 北野礼子・栗原礼子・齊藤里美・野沢喜美

平成19年度本格的整理作業

担当 : 資料普及課 野代恵子

整理作業員: 猪股順子・栗原礼子・齊藤里美・萩原里江子・野沢まゆみ

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

甲府地方裁判所の所在地は山梨県甲府市中央1-10-7で、JR甲府駅から南に伸びている主要地方道甲府敷島釜崎線(通称平和通り)を南方向へ約750m進んだ先にある。平和通り沿いには山梨県庁をはじめ、甲府市役所、甲府警察署、甲府地方裁判所、甲府地方検察庁といった官公庁が建ち並び、銀行や証券会社などのオフィスビルも軒を並べるなど、市街地化がかなり進んでいるところである。調査地点の標高は約266mで、甲府駅から南へ目を向けると緩やかに続く下り坂が甲府市役所付近より平坦になっている先にある。

調査地点は甲府盆地の北部を流れる相川の左岸にあり、相川が形成した扇状地の扇端部にあたる。相川は甲府盆地北部の山地を源として甲府市内を南へ流れ、甲府市下積翠寺付近より南に向かって扇状地が形成されている。その後、甲府市宝二丁目付近で荒川に合流し、甲府盆地を南へ流れ、笛吹川と合流する。

JR甲府駅周辺の地形をみると、荒川や相川の影響を強く受けたとされる扇状地、自然堤防、旧河道、後背湿地といった微地形がみられ、旧河道や後背湿地でない扇状地からは集落跡が確認されている。周知の埋蔵文化財である「甲府城下町遺跡」は市街地化が進んだために本来の地形を判読することは困難なところがあるが、明治後期の地図には南に向かっている舌状台地状の高まりを示す等高線が記されている。

第2節 歴史的環境(第1図 周辺遺跡分布図参照)

周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」は近世の城下町を主体とする遺跡であるが、原始・古代に関しては古墳時代や平安時代の遺物が僅かに出土するにとどまり、いずれも遺構を伴うものはなかった。この背景には、当該地域が中近世に大きな土地の改変を受けたことや、扇状地という自然環境により流失したことが挙げられる。しかし、甲府城下町遺跡の周辺に目を向けると、縄文時代前期後葉の諸磯a式土器を主体とする宝町遺跡(29)や古墳時代の遺跡である飯田一丁目遺跡(25)、古墳時代を中心に木製品なども発見されている朝気遺跡(83)、弥生～古墳時代の集落や方形周溝墓が発見された塩部遺跡(24)などがみられる。縄文時代には荒川上流域の山間地や山裾部と盆地との境界地あるいは扇状地帯に遺跡がみられるが、甲府市域では縄文時代の集落立地に見合った丘陵や台地上の広い平坦地がないため、大規模な集落には発展しなかったものと考えられる。弥生時代に入ると遺跡立地は大きく変わり、遺跡は沖積地の微高地上に分布する。古墳時代初頭には市中央部の青沼・朝

気などでも遺跡の増加が見られる。6世紀から7世紀代にかけては湯村・千塚地区や里垣甲運地区に多くの古墳が築かれるが、これらを支えた集落跡の発見は少ない状況にある。奈良平安時代に至ると市南部の平坦地にも多くの集落が形成されるようになり、盆地底部の低湿地がより開拓された状況を伺うことができる。今回の調査地点(A:★印)からは古墳時代を中心とする土器の出土がみられたが、調査地と平和通りをはさんだ西側に位置する百人町地点(B)では立会い調査において甲府裁判所地点とほぼ同じく地表下およそ1mの黒褐色土層中から弥生時代最終末～古墳時代前期初頭の壺胴部が出土しており、周辺にはこの包含層が広がっている可能性もある。以上のように周辺の地理的環境の側面から考え合わせると、甲府城下町遺跡域も周辺の遺跡と同様に原始・古代についても人々が生活していた可能性は大いにあるものと思われる。

中世後期になると、武田信虎が躰躰ヶ崎館(12)に本拠を移し、館の南方に武田城下町が形成された。しかし、武田城下町は近世に形成された甲府城下町によって改変されており、絵図等の資料もないことから不明な点が多い。なお、調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地「武田城下町遺跡」の範囲の外側(南側)に位置している。

天正10(1582)年に武田氏が滅亡した後、甲斐の支配は織田・徳川・豊臣と移り、16世紀末に関東の徳川を牽制するために甲府城が築城された。それに伴い、甲府城を中心とする城下町が形成され、武家地を二の堀で取り囲み、町人地を三の堀で取り囲む構造ができあがった。調査地点は追手門から南へ向かう路(追手小路)とその西側の二の堀の間にあり、武家地であった。

宝永元(1704)年、5代将軍徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保が川越藩主となり、藩主が在勤となるために甲府城の修築や城下町の再整備が行われた。子の柳沢吉里は享保9(1724)年に大和郡山へ転封となったが、城下町の大規模な整備により近世の甲府は最盛期を迎えることとなった。この頃の絵図を見ると、調査地点には「滝口平太左衛門」という800石取りの吉里の家老の名前が登場する。

吉里の大和郡山転封後、甲斐国は幕府の直轄領となり、甲府勤番支配のもとに甲府城が警護された。嘉永年間(1848～1854)の絵図を見ると調査地点は「御薬園」と記されており、薬草などを栽培していた様子がわかり、土地利用に変化がみられる。

明治時代に入り、新政府は戊辰戦争を進める中で新しい政治の建設をはじめた。明治4(1871)年の廢藩置県に代表されるように強力に中央集権を進め、財政の安定のために地租改正を行った。また、新政府の組織の集権化も行われ、司法行政を管轄する司法省が明治4(1871)年に設置され、翌年の司法職務定制により同年9月に県庁舎内に山梨裁判所が置かれ、さらにその翌年には場所を富士川町(現在の甲府市中央2丁目)に移動した。

一方、山梨県内に目を移すと、明治6(1873)年1月に藤村紫朗が県令として着任して以降に近代化が展開された。明治6(1873)年、政府が全国の城郭の存廃を決定したときに甲府城は内城のみ保存と決定し、二の堀や三の堀の埋め立てが行われ、新しい市街地を建設した。特に、追手門から南へ延びる追手小路(現在の舞鶴通り)沿いには藤村式と総称される疑似洋風建築の官公庁が相次いで建てられた。

| | | |
|-------------|-----|---------------------|
| 明治7(1874)年 | 7月 | 県営の勲業製糸場(現在の古名屋ホテル) |
| 明治9(1876)年 | 3月 | 山梨裁判所(現在の裁判所) |
| | 5月 | 県病院(現在の相生交差点北東角) |
| | 7月 | 県師範学校(現在の中央公園) |
| 明治10(1877)年 | 10月 | 県庁(現在の甲府市役所) |

しかし、昭和20(1945)年7月の甲府空襲により、甲府市内は壊滅的な打撃を受けた。裁判所も空襲後は場所を転々としていたが、昭和22(1947)年に今まであった場所への建設を開始した。また、戦後復興都市計画事業が進められ、平和通りはその事業として昭和22(1947)年に着工し、同30(1950)年に完成した。平和通り沿いに官公庁や金融機関が集まり、調査地点周辺は市街地化が展開された。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

| No. | 遺跡名 | 時代 |
|-----|------------|------------|
| 1 | 湯村山山頂遺跡 | 平安時代 |
| | 湯村山城跡 | 中世 |
| 2 | 三光寺山遺跡 | 古墳時代 |
| 3 | 水井遺跡 | 古墳時代・平安時代 |
| 4 | 村之内遺跡 | 古墳時代 |
| 5 | 向田 A 遺跡 | 弥生時代 |
| 6 | 向田 B 遺跡 | 弥生時代・古墳時代 |
| 7 | 緑ヶ丘二丁目遺跡 | 縄文時代～平安時代 |
| 8 | 緑ヶ丘一丁目遺跡 | 古墳時代 |
| 9 | 峰本南 A 遺跡 | 近世 |
| 10 | 峰本南 B 遺跡 | 近世 |
| 11 | 長閑遺跡 | 中世 |
| 12 | 武田氏館跡 | 中世 |
| 13 | 大手下遺跡 | 縄文時代～平安時代 |
| 14 | 藤縄ヶ崎亭跡 | 中世 |
| 15 | 岩窪 C 遺跡 | 古墳時代 |
| 16 | 中道東遺跡 | 近世 |
| 17 | 中道西遺跡 | 古墳時代 |
| 18 | 岩窪遺跡 | 奈良・平安時代・中世 |
| 19 | 茶堂烽火台 | 中世 |
| 20 | 茶堂遺跡 | 平安時代 |
| 21 | 山梨大学構内遺跡 | 奈良・平安時代 |
| 22 | 八幡神社 | 縄文 |
| 23 | 富士見遺跡 | 古墳時代・平安時代 |
| 24 | 塩部遺跡 | 弥生時代～平安時代 |
| 25 | 飯田一丁目遺跡 | 弥生時代・古墳時代 |
| 26 | 横田氏屋敷跡 | 近世 |
| 27 | 新屋小学校構内遺跡 | 近世 |
| 28 | 甲府城跡 | 近世 |
| 29 | 宝町遺跡 | 縄文時代・平安時代 |
| 30 | 寿町遺跡 | 古墳時代 |
| 31 | 富士川小学校校庭遺跡 | 近世・代官所跡 |
| 32 | 跡崎田遺跡 | 平安時代 |
| 33 | 六反田遺跡 | 平安時代・中世 |
| 34 | 袁ノ免遺跡 | 平安時代 |
| 35 | 六六天遺跡 | 平安時代 |
| 36 | 宮裏遺跡 | 平安時代 |
| 37 | 銀杏之本 | 平安時代～中世 |
| 38 | 大笠山水の六遺跡 | 古墳時代 |
| 39 | 北善光寺 A 遺跡 | 平安時代 |
| 40 | 北善光寺 B 遺跡 | 古墳時代 |
| 41 | 堤下 B 遺跡 | 平安時代 |
| 42 | 堤下 A 遺跡 | 平安時代 |
| 43 | 北原遺跡 | 縄文時代・平安時代 |
| 44 | 善光寺裏遺跡 | 縄文時代・平安時代 |
| 45 | 地蔵北遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 46 | 宮の脇 A 遺跡 | 縄文時代・平安時代 |
| 47 | 南善光寺 B 遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 48 | 南善光寺 A 遺跡 | 平安時代 |
| 49 | 原屋敷遺跡 | 平安時代 |
| 50 | 板垣氏屋敷跡 | 近世 |
| 51 | 本郷遺跡 | 縄文時代・古墳時代 |
| 52 | 宮の脇 B 遺跡 | 縄文時代・古墳時代 |
| 53 | 上郷遺跡 | 平安時代 |
| 54 | 東光寺遺跡 | 平安時代 |
| 55 | 宮の前遺跡 | 縄文時代 |
| 56 | 本郷 B 遺跡 | 平安時代 |
| 57 | 本郷 C 遺跡 | 古墳時代～中世 |
| 58 | 内林遺跡 | 近世 |
| 59 | 宮前遺跡 | 縄文時代 |

| No. | 遺跡名 | 時代 |
|-----|-----------------------|--------------|
| 60 | 酒折縄文遺跡 | 縄文時代 |
| 61 | 大橋遺跡 | 中世 |
| 62 | 中坪遺跡 | 古墳時代 |
| 63 | 落合氏館跡 | 中世 |
| 64 | 上石田 B 遺跡 | 平安時代 |
| 65 | 上石田遺跡 | 縄文時代 |
| 66 | 上河原遺跡 | 平安時代 |
| 67 | 渋沢遺跡 | 平安時代 |
| 68 | 久保北河原遺跡 | 平安時代 |
| 69 | 大北河原遺跡 | 平安時代 |
| 70 | 宮北遺跡 | 縄文時代・平安時代 |
| 71 | 秋山氏館跡 | 中世 |
| 72 | 村筋遺跡 | 平安時代 |
| 73 | 千松院遺跡 | 中世 |
| 74 | 太田町遺跡 | 古墳時代 |
| 75 | 青沼遺跡 | 古墳時代 |
| 76 | 青沼三丁目遺跡 | 中世 |
| 77 | 伊勢町遺跡 | 古墳時代 |
| 78 | 食糧工場遺跡 | 縄文時代・弥生時代 |
| 79 | 木保遺跡 | 近世 |
| 80 | 般若院跡 | 中世 |
| 81 | 住吉天神 | 古墳時代～平安時代 |
| 82 | 小宮山氏館跡 | 中世 |
| 83 | 朝気遺跡 | 縄文時代～平安時代 |
| 84 | 湯田一丁目遺跡 | 古墳時代 |
| 85 | 幸町 A 遺跡 | 弥生時代 |
| 86 | 幸町 B 遺跡 | 古墳時代 |
| 87 | 南口町 A 遺跡 | 平安時代 |
| 88 | 南口町 B 遺跡 | 平安時代 |
| 89 | 里吉天神遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 90 | 十丁遺跡 | 古墳時代 |
| 91 | 家之前遺跡 | 平安時代 |
| 92 | 十丁 B 遺跡 | 古墳時代 |
| 93 | 字前 A 遺跡 | 古墳時代 |
| 94 | 字前 B 遺跡 | 古墳時代 |
| 95 | 字前 C 遺跡 | 古墳時代 |
| 96 | 青葉町遺跡 | 平安時代 |
| 97 | 北原遺跡 | 平安時代 |
| 98 | 野村遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 99 | 油田遺跡 | 平安時代 |
| 100 | 居村遺跡 | 近世 |
| 101 | 源之上遺跡 | 古墳時代 |
| 102 | 二又遺跡 | 古墳時代 |
| 103 | 宮田遺跡 | 弥生時代・平安時代 |
| 104 | 上ノ木遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 105 | 大上井遺跡 | 平安時代 |
| 106 | 上町天神遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 107 | 明石西河原遺跡 | 平安時代 |
| 108 | 外河原子クヤ遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 109 | 深田遺跡 | 古墳時代・中世 |
| 110 | 北瀬遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 111 | 村之内遺跡 | 古墳時代～平安時代 |
| 112 | 日向町遺跡 | 中世～近世 |
| 113 | 甲府城下町遺跡 (日向町遺跡第 2 地点) | 中世～近世 |
| 114 | 甲府城下町遺跡 (KJ43 地点) | 中世～近世 |
| A | 甲府城下町遺跡 (甲府地方裁判所地点) | 弥生時代～平安時代、近世 |
| B | 百人町地点 (立会い調査) | 土師器出土 |

表1 甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)周辺遺跡(第1図) 周辺遺跡分布図のNo.に対応)

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

1. 調査区の設定

発掘調査対象地は裁判所の建物があつた場所であり、その基礎については地表下3mにおよび、さらにその下には地盤を安定させるため、長さ16mの赤松の杭が90cmピッチで埋め込まれていることが事前協議により明らかになっていた。このため建物基礎の入っている部分については包含層及び遺構面が完全に破壊されているものと判断されたため、建物基礎が入っていない部分を選び2カ所の調査区を設定した。ひとつは建物の表玄関部分にあたる場所をこれをⅠ区とし、もうひとつは建物に囲まれた中庭部分をこれをⅡ区として調査を行なった。

2. 調査の目的

平成14年度に当時の裁判所建物北側の駐車場部分において試掘調査が行われているが(第3図)、この調査において地表下50～60cmのところから江戸時代の遺物を含む包含層が検出されていたので、まずこの層を目安に重機による掘削を行なった。また周辺では平成17年度に旧東急駐車場部分の調査(中央1丁目188番地外)が甲府市教育委員会と帝京大学山梨文化財研究所によって行われたが、ここで甲府城「二の堀」跡が確認されている。この「二の堀」がまっすぐ北に向かって延びていたとすれば、ちょうどⅠ区のあたりにくることが想定されたため、Ⅰ区については最終的にはこの「二の堀」を確認することを目的とした。また(中央1丁目188番地外)の調査では、二の堀の東側に堀とほぼ同幅の土塁、武家屋敷の境界を示すと考えられる石敷きの溝が検出されており、Ⅱ区については武家屋敷地内にあたる可能性があつたためそれを念頭において調査を進めた。

3. 調査グリッドの設定

発掘調査を行うにあたり、国土座標に基づく5mグリッドを設置した(第3図)。グリッドには東西ラインをアルファベットで、南北ラインを算用数字で示した。なお、グリッド番号が必要となる調査は主にⅡ区であつたため、東西ラインについてはⅡ区を優先させてA、B、C・・・と付している。グリッドの名称については両ラインの交差点を基準とし、各グリッドの北東隅の交点をもって呼称している。

4. 記録の方法

遺物の記録・取り上げについては時計の文字盤より大きなものについては平板測量・レベル測量によりとりあげているが、それより小さいものについてはグリッドごと一括して取り上げている。

遺構図及び遺物微細図については、平板測量及びやり方測量を適宜選択して作図した。

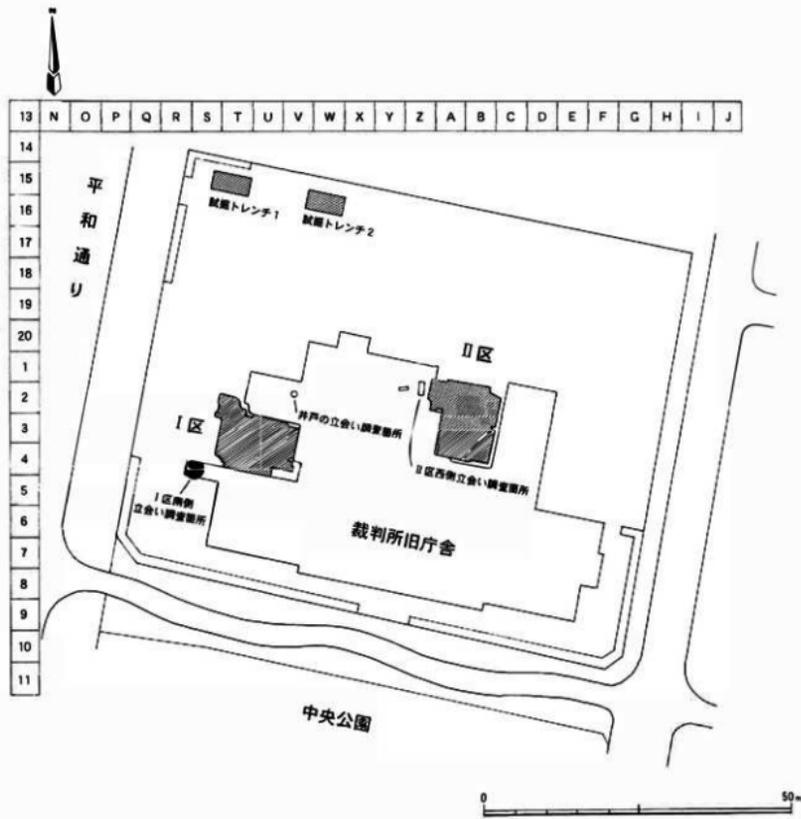
記録写真については小型一眼レフカメラによる35mmモノクロネガ・カラーポジを主体に撮影し、補足的にデジタルカメラも使用した。

5. 整理作業・報告書作成の方法

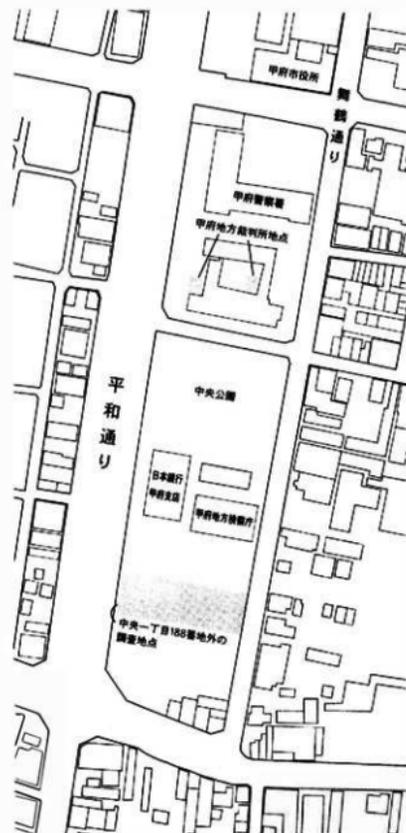
整理作業については平成18年度内に基礎的整理として、出土遺物の洗浄作業・遺物ナンバーの注記・接合作業、遺構図面の整理などを行った。翌19年度には遺物種別の分類・遺物実測・トレース図作成、遺構図の製図、版組みなどを行ない、同時に原稿を執筆した。

第2節 基本順序

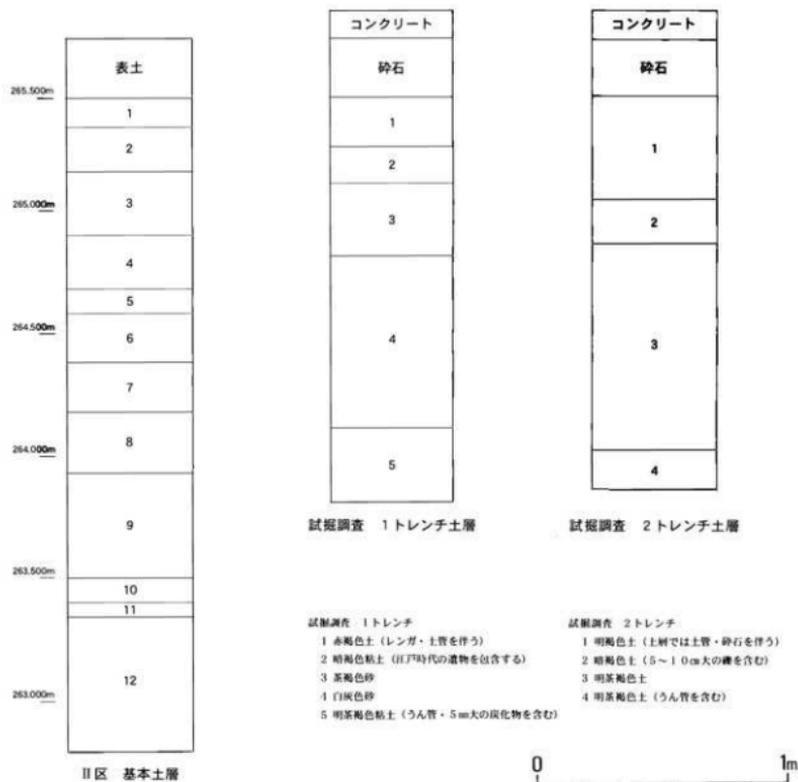
調査地点の地表面は標高265.6mから265.7mを測る。調査区西側の平和通りに面した歩道面に比べて70～80cmほど高くなっている。



第3図 調査区・立会い調査箇所・試掘トレンチ位置図



第2図 遺跡の位置とその周辺



II区基本土層 (柱状図)

- 1 黄褐色シルト (橙褐色シルトブロックを少量、5～10cm大の礫を少量含む)
- 2 茶褐色土 (ややシルト気味、粘土・炭化物粒を少量含む) →B面
- 3 茶褐色土 (やや砂質気味、粘土・炭化物粒を少量含む) →B面
- 4 茶褐色土 (やや砂質気味)
- 5 橙褐色粗砂
- 6 灰褐色土 (シルトを含む)
- 7 橙褐色粘質土 (5mm程度の細礫・橙褐色粒・粘土粒・炭化物粒をごくわずかに含む)
- 8 橙褐色粘砂混じり粘質土
- 9 橙褐色粘質土 (粗砂を少量含む)
- 10 暗褐色粘質土 (橙褐色土粒を多く含む)
- 11 暗褐色粘質土 (橙褐色土粒を3割よりも多く含む)
- 12 黑色粘土 (しまり非常によい)

第4図 基本層序

調査地点における基本的な土層堆積は第4図に示した通りである。Ⅰ区とⅡ区では土層堆積状況が大きく異なるためそれぞれについて記載する。Ⅰ区においては黒褐色粘土層・黄褐色粘土層がみられるが、これらは相川層状地において一般的に確認される地山層であり、甲府駅北口あたりでは地表下約20～40cmで確認されている。Ⅱ区では調査区北側・西側それぞれの壁面と調査区北端の一部を深掘りした土層で基本層序を確認している。3層はややシルト気味であるが焼土・炭化物粒を含み、この層からは中世以降の遺物が出土している。4層はやや砂質気味であるが焼土・炭化物粒を含み、この層からは古墳時代を主体とする、平安時代までの土器が出土している。遺構面については3層上面において江戸時代と考えられる溝を確認しており、4層中ほどのやや砂質が強くなる面(5層上面)から竪穴状遺構などが確認されている。ただし黒色の掘り込み面に黒色の覆土で掘り込まれているためその判別は土質に依るところが大きかった。その下の橙褐色粗砂層まで掘り下げれば、掘り込みの有無は一目瞭然であり、この面できくつかのピットを検出している。この下の11層は焼土粒・炭化物粒をごくわずかに含んでおり生活面が遺存している可能性もあるが、土器などの遺物は見られなかった。16層は泥炭化した真っ黒い粘土でそれが厚く堆積している様子が観察されたが、地表面からの掘削深度が3mを超えて危険なため、これ以上は確認できなかった。

第3節 遺構と遺物

1. 調査成果の概要

Ⅰ区については甲府城「二の堀」の可能性もある、もとの地山面が削られた土層が確認されている。Ⅱ区については地表下80cmほどのところに古墳時代初頭～平安時代までの遺物を含む包含層が良好に遺存していた。江戸時代中頃には柳沢吉里の家臣で家老「滝口平太左右衛門」の屋敷地に、また幕末には「御菜園」にあたるが、江戸時代と考えられる面からは溝が検出されるのみにとどまった。

(遺構) 検出された遺構は江戸時代と考えられる面(2面)から溝4条、古墳時代初頭から平安時代の遺物が多くみられる包含層を掘り下げたところ(3面)から竪穴状遺構4基、ピット3基が見つかった。

(遺物) 発見された遺物は古墳時代～明治時代に帰属するが、その多くは古墳時代の土器である。Ⅰ区の上層から見つかった陶磁器の中には「加藤宗四郎春岱」銘の陶器・鉢や「小倉(こごえ)製」の印がある行平鍋なども含まれていた。

2. Ⅰ区の遺構

甲府城「二の堀」の東肩にかかることも想定されたため、これを念頭に置き調査を進めた。まずミニコンボにより表土の掘削を行ったが、50cmほど下げた状態で茶褐色シルトが一面に広がっていた。この面からは遺物の出土がみられたが、そのうち一カ所は炭化物片や漆喰片をとまなう土の中に陶磁器類が廃棄された状態で検出された(第6図)。接合の結果54の個体が確認されているが、中に「小倉(こごえ)焼き」が含まれており、これらは明治時代に一括して廃棄されたものと考えられる。またこれと同じ層から志野焼の鉢が単独で見ついているがこれも特に遺構に伴うものではなかった。これらの遺物を取り上げた後、全体の堆積状況を把握する目的で調査区北側に1.5m幅で東西方向にトレンチを入れた。その結果、シルトや粗砂の互層が続いていたが、一部有機物を含む黒褐色の土層がみられたため「二の堀」内の堆積土層である可能性もあることから、調査区を東西方向に分断した形で土層断面を確認することとした。これは旧東急駐車場部分の調査により、堀底は地表下4mという深さであることが考えられ、調査区も13m×9mと狭い範囲であり、全体を4mの深さにまで掘り下げることは不可能であったこと、調査区周囲がコンクリート基礎に囲まれていて調査区壁面での土層観察が不可能であることから、調査区内の土層によりこれを確認する方法をとった。

その結果、調査区東側隅に粘土の地山層が見られ、これが西側に向かって徐々に切り取られて、そのあとにはシルト層や砂層、一部土壌化した層などが水平方向に堆積している状態が観察された(第7図・口絵2)。な

お、ほぼ等間隔に見られる4本の木材は裁判所庁舎建設の際、地盤を安定させるために穿たれた唐松の杭である。昭和27年に裁判所の旧庁舎を建てる際に直径21cm、長さ8.5m以上ある生の唐松杭を約1m間隔で千二百本ほど打ち込んだという記録が残っている。またこの唐松杭を打ち込む際には大きな金属の玉を重機で上から落として埋め込んでいったという工事を記憶しているという近所の方々の話も聞いている。

上述した遺物以外にこれより下層からの遺物の出土は確認されなかった。

3. I区の遺物

地表下50cmほどの茶褐色シルト上面で検出された遺物である。1～53は炭化物片や漆喰片とともに出土した陶磁器片であるが、これらは一括廃棄されたものと考えられる。54は調査区壁際より単独で出土した。これより下層からは遺物は全く確認されなかった。

4. II区の遺構

地表下40cmで1面、同60cmで2面、同80cmで3面が確認されている。1面については安定した土層が確認されたため一度この高さで精査を行ったが、出土遺物も少なくそのほとんどが近代のものであった。

2面については茶褐色土の上面で精査を行った。ここからは溝4条が確認されている(第13図)。

2面の茶褐色土を取り去ったところで古墳時代後期の土器を主体として弥生時代末～古墳時代初頭、平安時代の土器を含む黒褐色土が堆積していた。この包含層の厚さはII区中央で20cmほどであったが、このII区西側部分のコンクリート基礎下について立ち会い調査を行ったところ(第3図)、東トレンチではII区と同様の遺物を含む黒褐色土の堆積が見られたものの、西トレンチでは茶褐色シルトの堆積が1mに及んでおり、遺物を含む黒褐色土は確認されなかった。これを東トレンチでの土層観察と合わせて考えると、東トレンチから西側、北側に向かうにつれてこの包含層は薄くなることも想定される。

3面については黒褐色土の中程から遺構が検出されているが、黒褐色土の掘り込み面に対して黒褐色土の覆土であるため判別しがたく、黒褐色土の面で何日か経過したところで周囲との質的な違いが見られたためその部分を掘り下げて、その結果竪穴状遺構という形になっている。3面からは竪穴状遺構4基、ピット4基が確認されている(第15図)。

5. II区の遺物

1面・2面からは、明治時代・江戸時代の陶磁器類を中心に、下層の古墳・平安時代の土器もごくわずかに混ざった状態で発見された(1面:第12図)(2面:第13図)。第13図は2面における溝以外からの出土遺物の分布図であるが、この面での遺物の出土状況はほぼ調査区北半に限られている。3面では、陶磁器類の混在がわずかに認められるものの、弥生時代末～古墳時代・平安時代の土器が主体を占めており、この時期の土器がバックされている状態であった。破片資料が多いものの、ほぼ完形に復元できるものも含まれており、単なる遺物包含層とは言えない状況である。3面では、遺物は黒褐色土から全体的に出土しているが、竪穴状遺構の部分では特に出土量が多かった。出土する破片が大きいという傾向が見られた。

2面の遺構

溝(遺構:第13図、遺物:第14図)

東西方向の溝が3条、南北方向の溝が1条確認された。いずれも長さは短く、溝1と溝2からは江戸時代の陶磁器類が出土している。

3面の遺構

竪穴状遺構1（遺構：第19図、遺物：第22～26図）

東西4.0m、南北4.7mで南北方向に長い楕円形である。調査区の中央で検出された。ピット状の落ち込みが5基認められた。遺物としては、特に須恵器の破片の出土が集中していた。また、本竪穴状遺構からは、口縁部に刻み目のある台付甕（128）が出土している。これは口縁から肩部にかけての一部分を欠くのみで、ほぼ全体がうかがえる資料である。肩部にはススが付着し、煮炊きに使われていたことがわかる。

竪穴状遺構2（遺構：第20図、遺物：第27～28図）

東西4.0m（残存する範囲）、南北4.2mで東側の一部がやや突出した形態である。調査区の西壁に接して検出され、西側半分は調査区外に延びておりすでに破壊されているものと思われる。ピット状の落ち込みが6基認められた。本竪穴状遺構には遺物が集中して見られた。中にはほぼ完形に復元できる胴部が球形の甕（177）も見られた。

竪穴状遺構3・竪穴状遺構4（遺構：第21図、遺物：第29～30図）

竪穴状遺構3は東西3.5m、南北2.2mの、竪穴状遺構4は東西3.0m、南北2.5mの、ともにやや楕円形と推定される形態をもつ。調査区東壁に沿って2つ接した形で検出された。便宜的に2つの遺構名を付けたが、出土遺物に特に時期差はなく、検出状況からも1つの落ち込みと考えると差し支えない状況である。竪穴状遺構3には焼土が集中して見られた。

ピット（遺構：第16図、遺物：第36図）

調査区北側でピットが4基ほど集中して見られた。このうちピット4の底面には、火を受けた痕跡のある、角閃石を多く含んだ石がひとつ置かれていた（第36図-384）。また底面には小ピットもひとつ見られた。

第4節 立会い調査

調査終了後、Ⅱ区の調査結果から、遺物を含む包含層がⅡ区の西側へ延びることが想定されたため、この部分の基礎撤去完了後に立会い調査を行なった。またⅠ区についても「二の堀」跡かどうかの確認をするため、Ⅰ区南側に接する基礎撤去の日程に合わせてこの部分の立会い調査を実施した。

その後、旧庁舎の基礎が全て撤去され新しい基礎を組む段階になって、井戸が1基発見されたため、この井戸についても立会い調査を実施した。

1. Ⅱ区西側部分の立会い調査

平成19年1月22日～24日にかけて実施した。この部分には裁判所の証拠品庫のコンクリート基礎が張られていたが、発掘調査の結果、調査区西壁の土層状況からこの基礎の下にも包含層が遺存していることが想定されたため、コンクリート基礎撤去後に立会い調査を実施した。基礎を撤去したところ、この周辺に汚水槽が設置されていたことが判明し、包含層の全体的な残りはよくないと判断されたため、比較的土が荒らされていない箇所を選んで2箇所のトレンチを設定し、手掘りで調査を実施した（第37図・写真図版11）。

「西トレンチ」については1mほど掘り下げて明茶褐色シルト層が続くのみで、Ⅱ区で見られたような遺物包含層は全く確認されなかった。「東トレンチ」では20～30cmほど掘り下げたところで、Ⅱ区で見られた、古墳時代～平安時代の遺物を含む黒褐色土が確認され、炭化物や焼土粒とともに古墳時代後期の坏や甕の破片などが出土した。これらの土器は摩滅しておらず、またこれらを包含する土についても、Ⅱ区のものに比べて炭化物や焼土粒が多く含まれていたことが特筆される。

このように「東トレンチ」からは良好な状態で遺物が出土するにもかかわらず、ほんの1m 50cmほど離れた「西トレンチ」では、包含層すら確認できなかった訳であるが、「東トレンチ」の壁の土層を見てみると、北側に向かうにつれて、黒褐色の包含層が薄くなっていく様子が確認された。また、裁判所敷地内の試掘調査の際にはこの包含層は確認されていない。これらを考え合わせるとⅡ区より北方向と西方向に向かうにつれて、黒褐色の包含層は薄くなっていくことも考えられる。

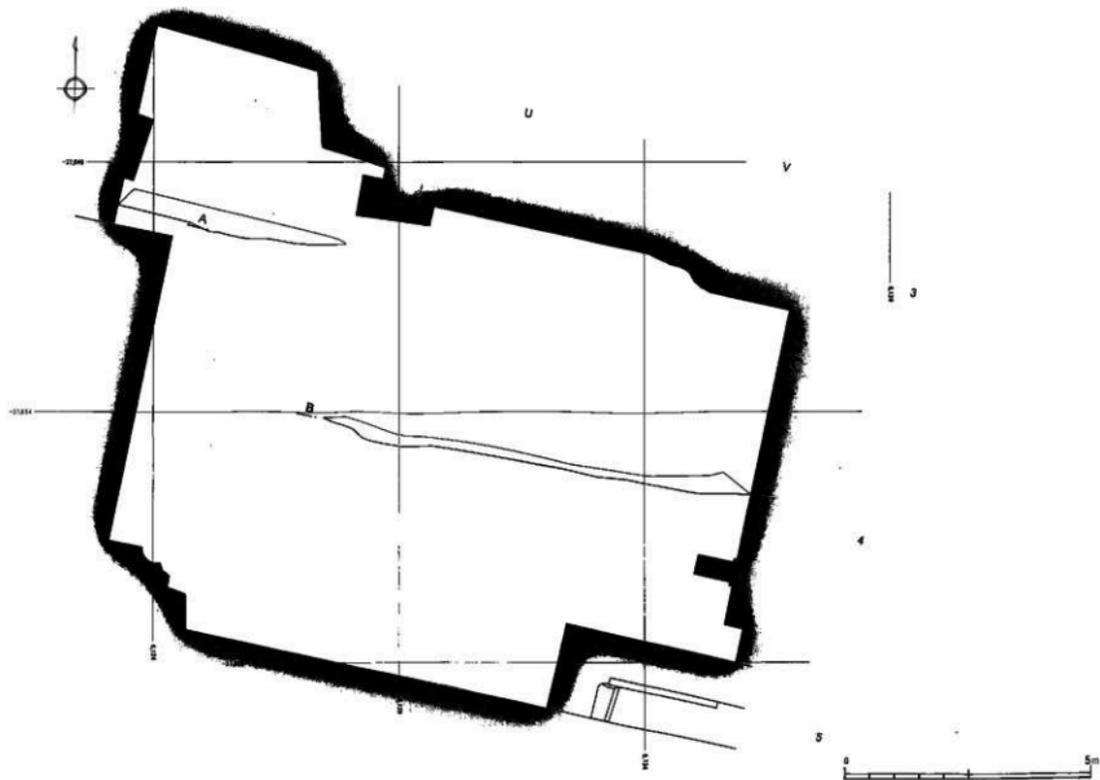
2. Ⅰ区南側部分の立会い調査

平成19年2月27日に実施した。Ⅰ区では「二の堀」跡の可能性もある土層が見ついているが、より西側（平和通り側）の土層を確認する目的で、調査区南西側に接する基礎撤去後にこの部分の土層についての立会い調査を実施した。

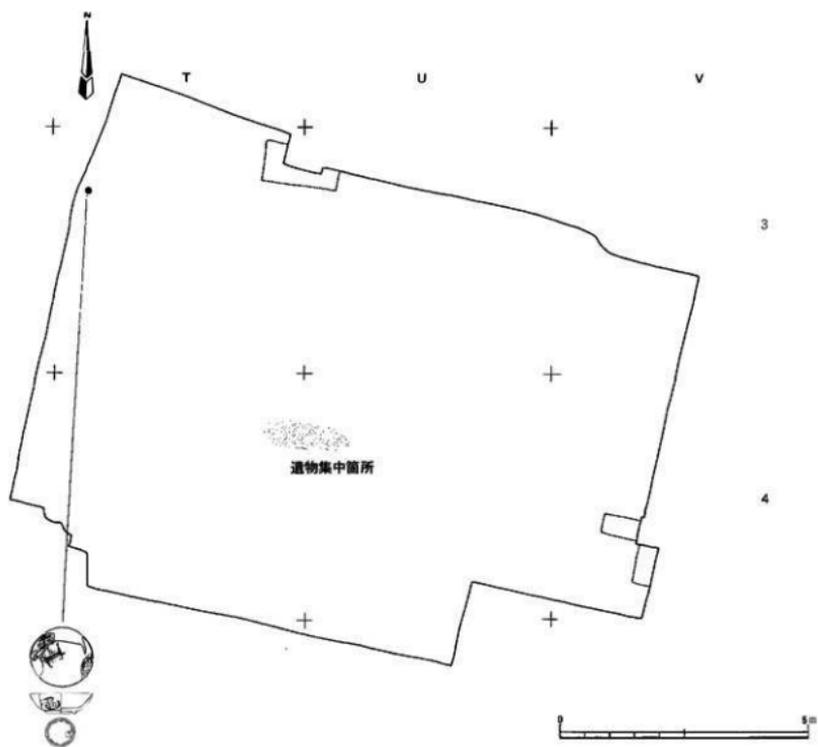
その結果、Ⅰ区で見られたような明確な水平堆積は見られなかった。また上面の茶褐色シルト層はⅠ区と同質であるもののそれより下の層については、Ⅰ区に対応するような土層は確認されなかった。

3. 井戸の立会い調査

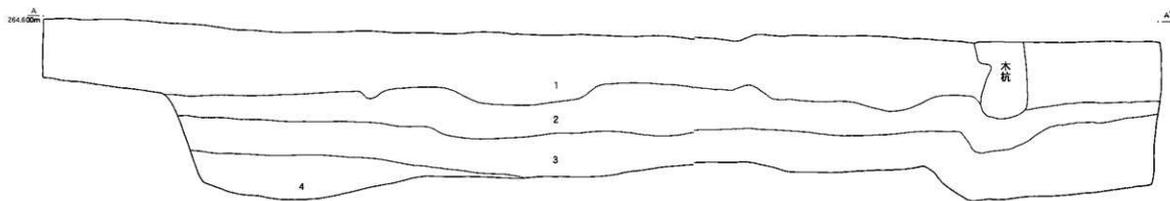
平成19年6月8日に実施した。井戸の木枠は底の1段のみが残っている状態で発見された。円形の木枠で直径50cmほどである。底は水が溜まっているため確認できなかったが、砂礫層であることが想定される。井戸底の標高はおよそ262.8mである。遺物は確認できなかったため、時期は不明であるが、井戸枠の直径が小さいことから、明治時代以降の井戸である可能性もある。



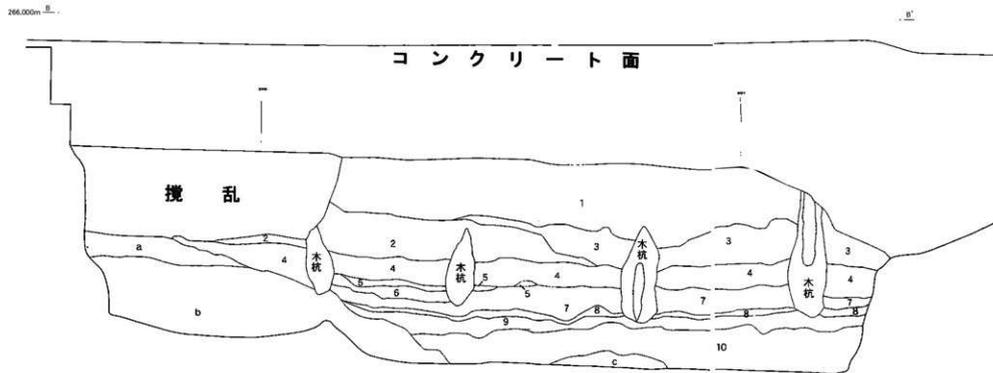
第5図 1区 全体図、土層セクションポイント位置図



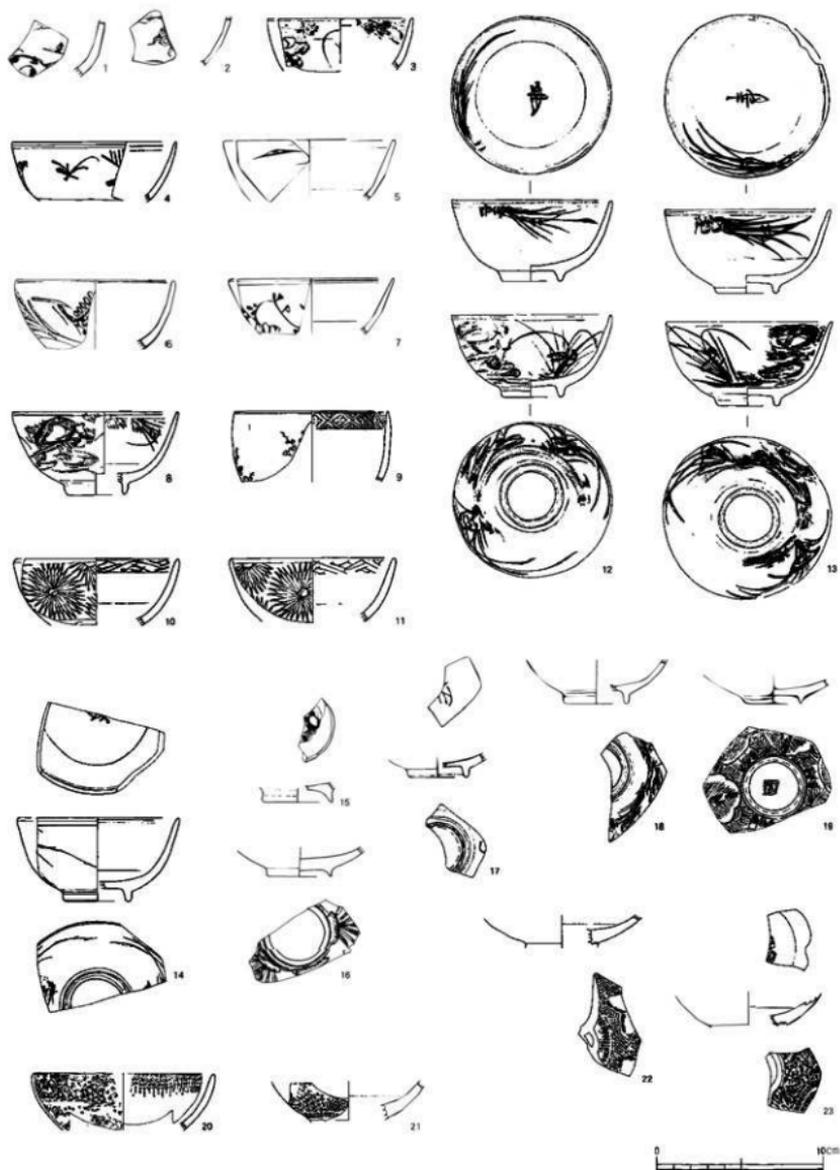
第6図 I区 遺物出土位置図



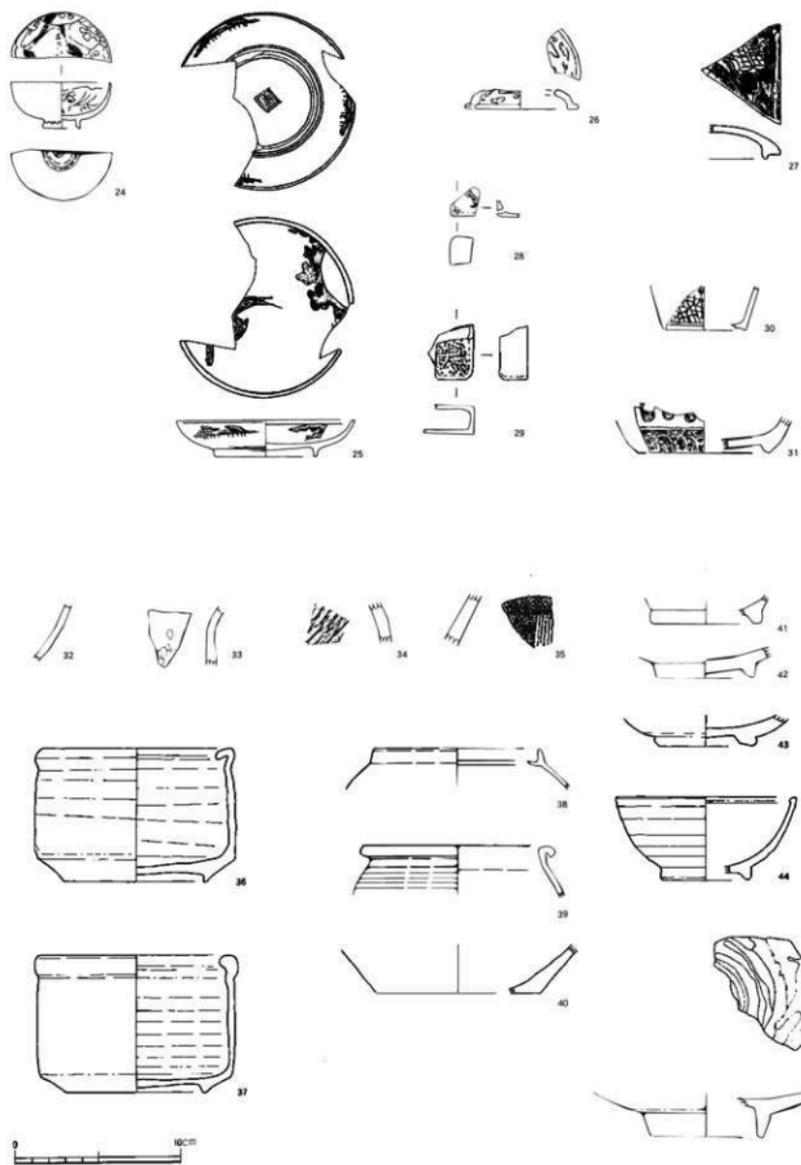
- 1区 (a-c) は地山
- 1 礫質褐色シルト
 - 2 灰褐色粘土 (ややシルト混雑・鉄分を多量に多く含む)
 - 3 茶褐色シルト (灰褐色ロームブロック・鉄分30%大を含む)
 - 4 5と同じだがより粘土でしり多い
 - 5 暗褐色粘土 (やや粘質多い)
 - 6 5と同じだがより粘り多い
 - 7 暗褐色土 (鉄分を含む、地上のようなもの、腐化物粒をこくわずかに含む)
 - 8 灰褐色粘質土 (粘質多い)
 - 9 暗褐色粘砂 (鉄分を多く含む)
 - 10 暗褐色粘砂
 - a 暗褐色粘土
 - b 黄褐色粘土
 - c 灰褐色粘土



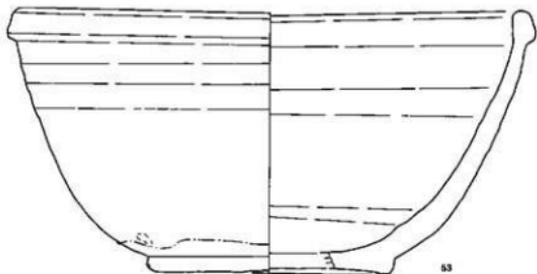
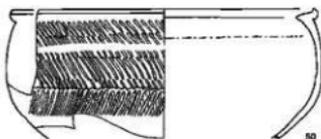
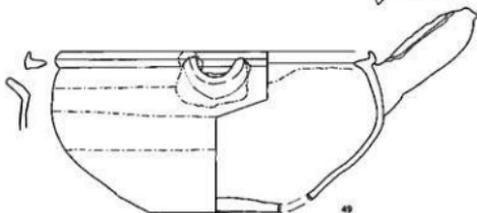
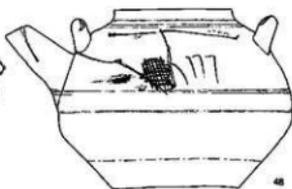
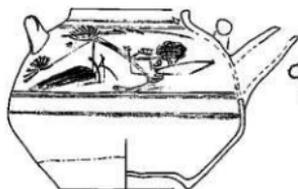
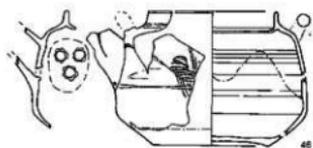
第7図 I I 土層図



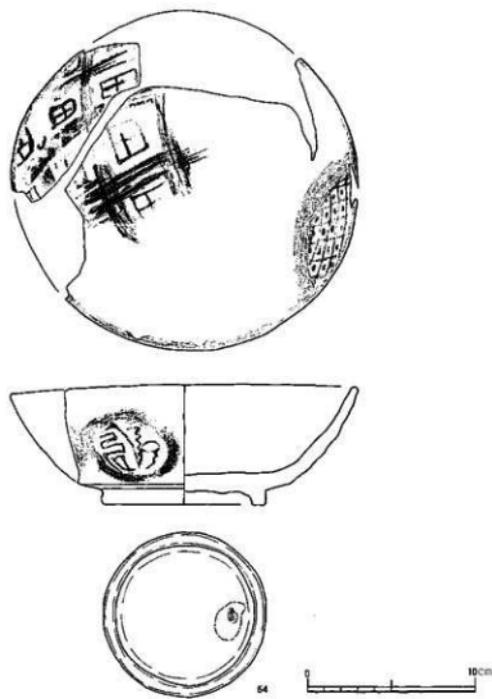
第8图 I区 出土遺物(1): 遺物集中箇所



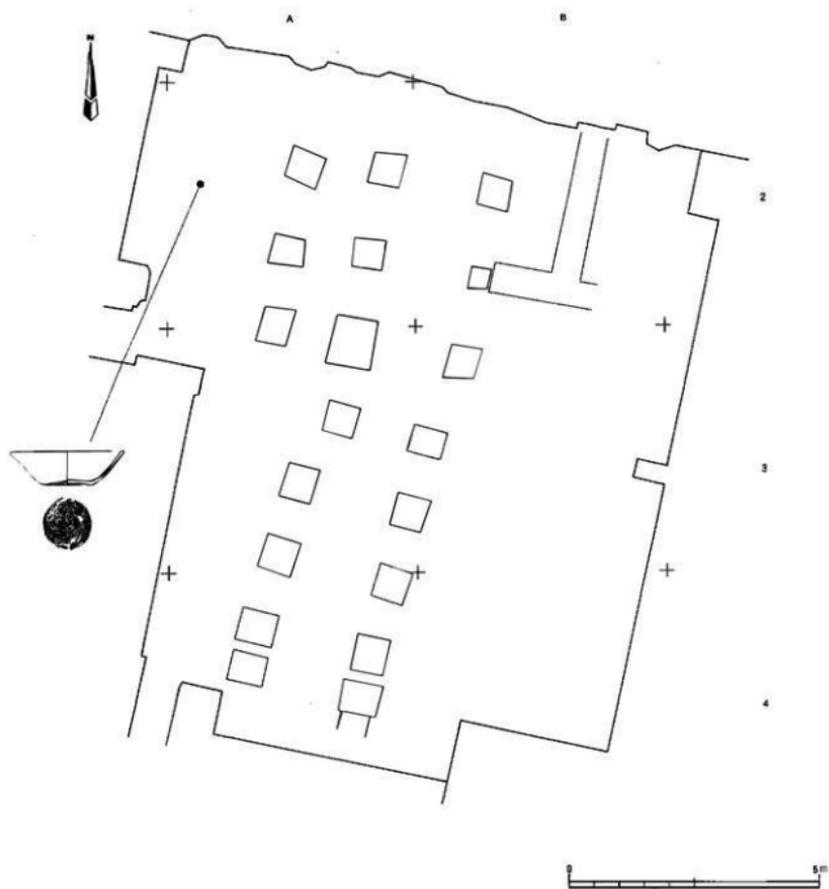
第9図 Ⅰ区 出土遺物(2):遺物集中箇所



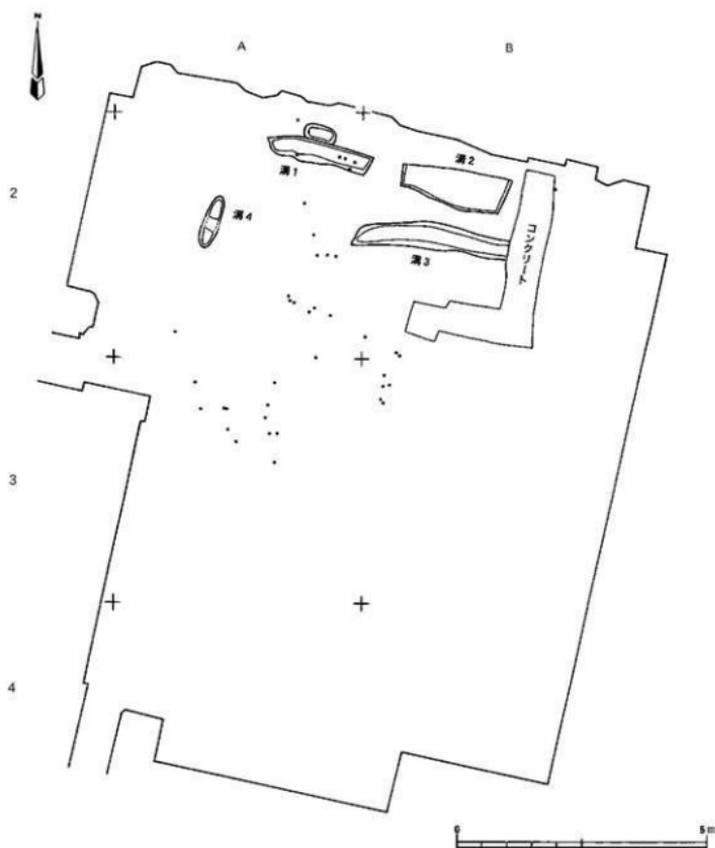
第10图 I区 出土遗物(3): 遗物集中区



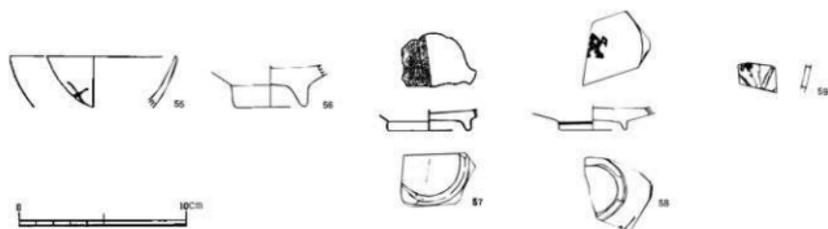
第 11 图 I 区 出土遗物 (4)



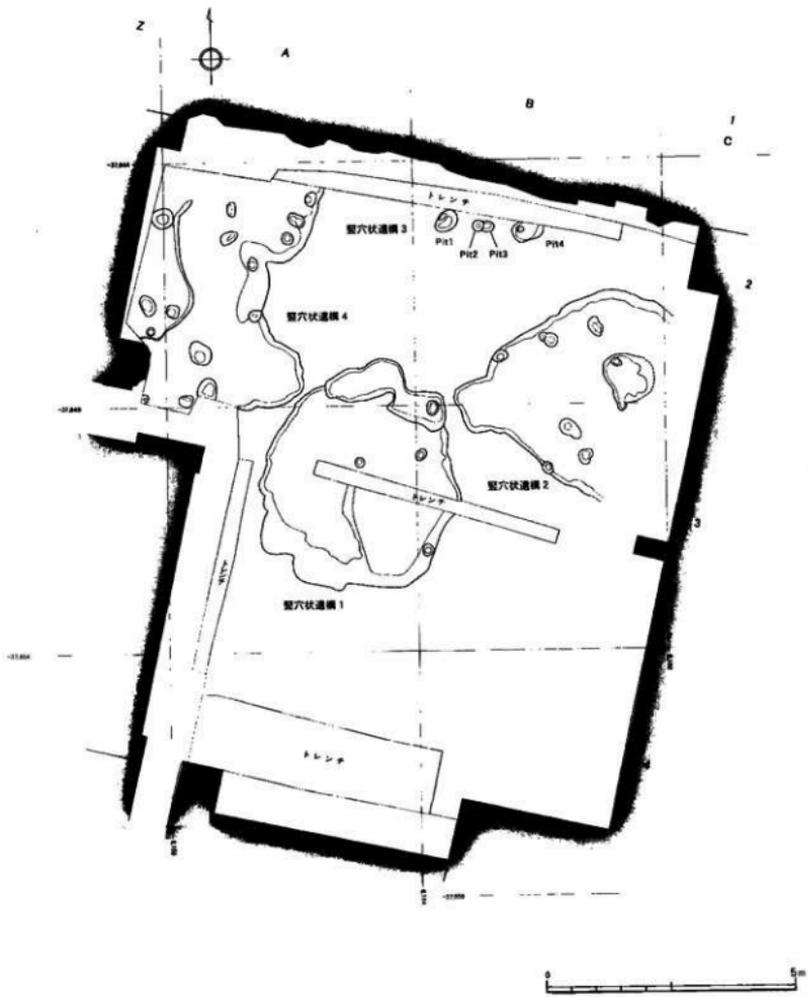
第12图 II区 1面 全体图



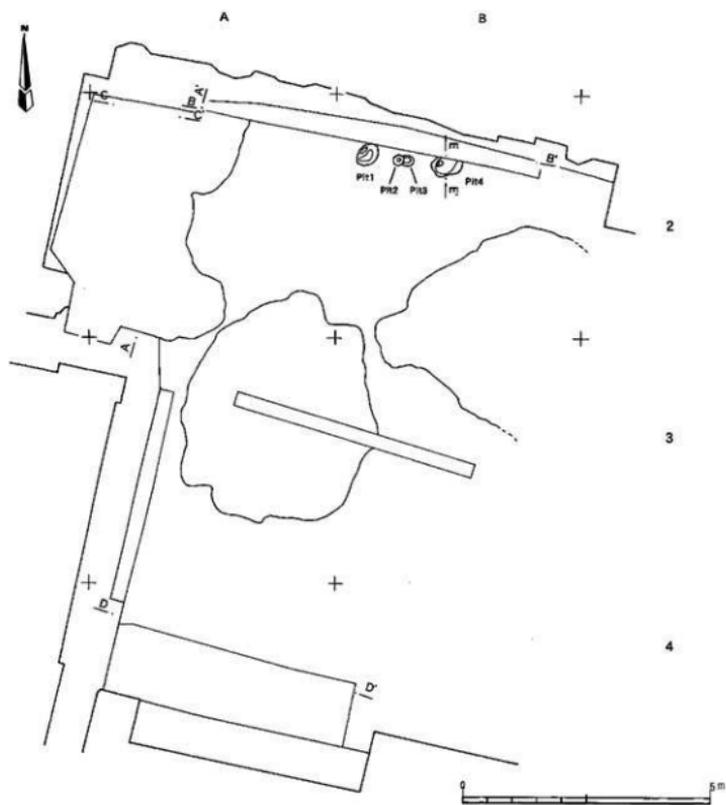
第13図 II区 2面 全体図、遺物出土状況図



第14図 II区 2面 溝 出土遺物 (55-58 溝1、59 溝2)



第15図 II区 3面 全体図



Pit4



264.750 E

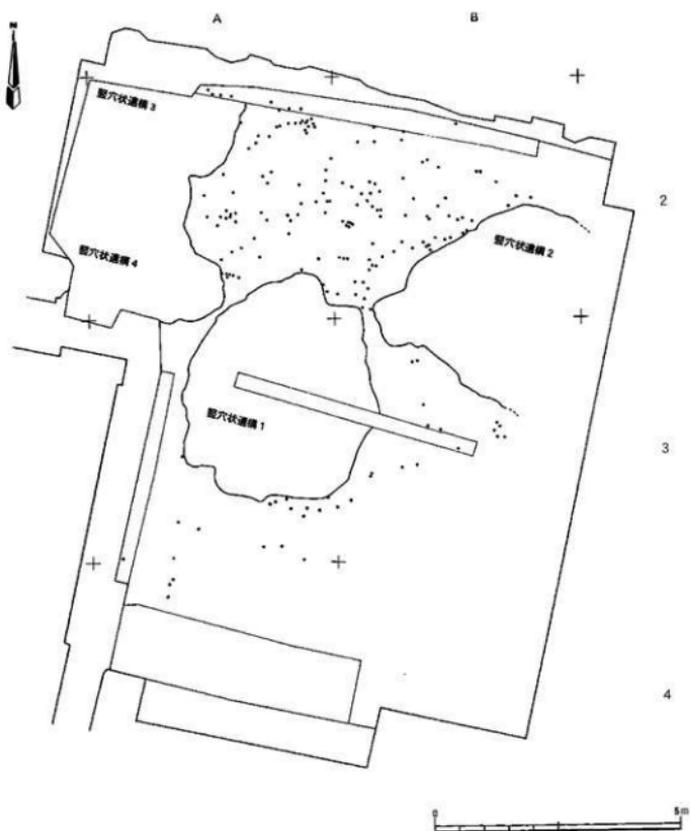


ピット

- 1 暗茶褐色土 (~2 cm大の炭化物、~3 cm大のロームブロックを含む)
- 2 黒褐色土 (~1 cm大の炭化物・焼土を含む)

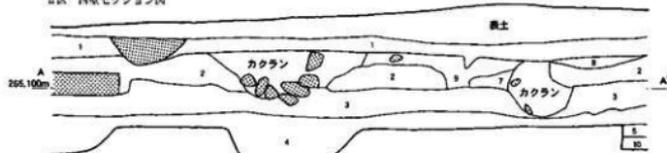
0 1m

第16図 II区 3面 ピット位置図・セクション図、セクションポイント位置図

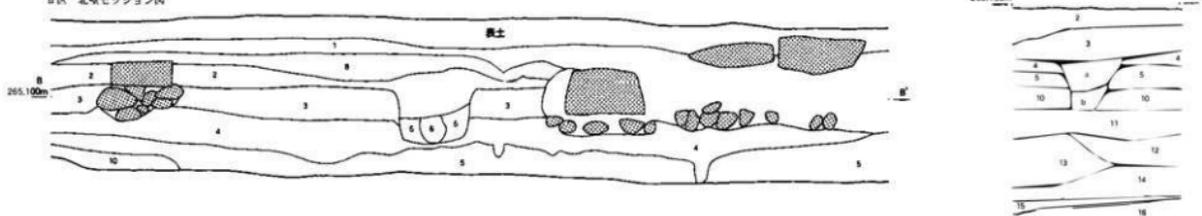


第17图 II区 3面 遺構外遺物出土状況图

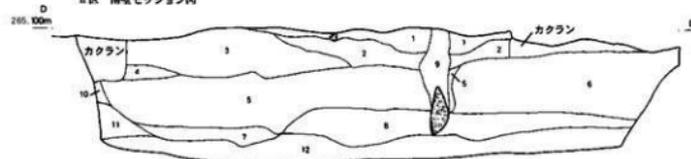
Ⅱ区 西壁セクション図



Ⅱ区 北壁セクション図



Ⅱ区 南壁セクション図



Ⅱ区基本土層

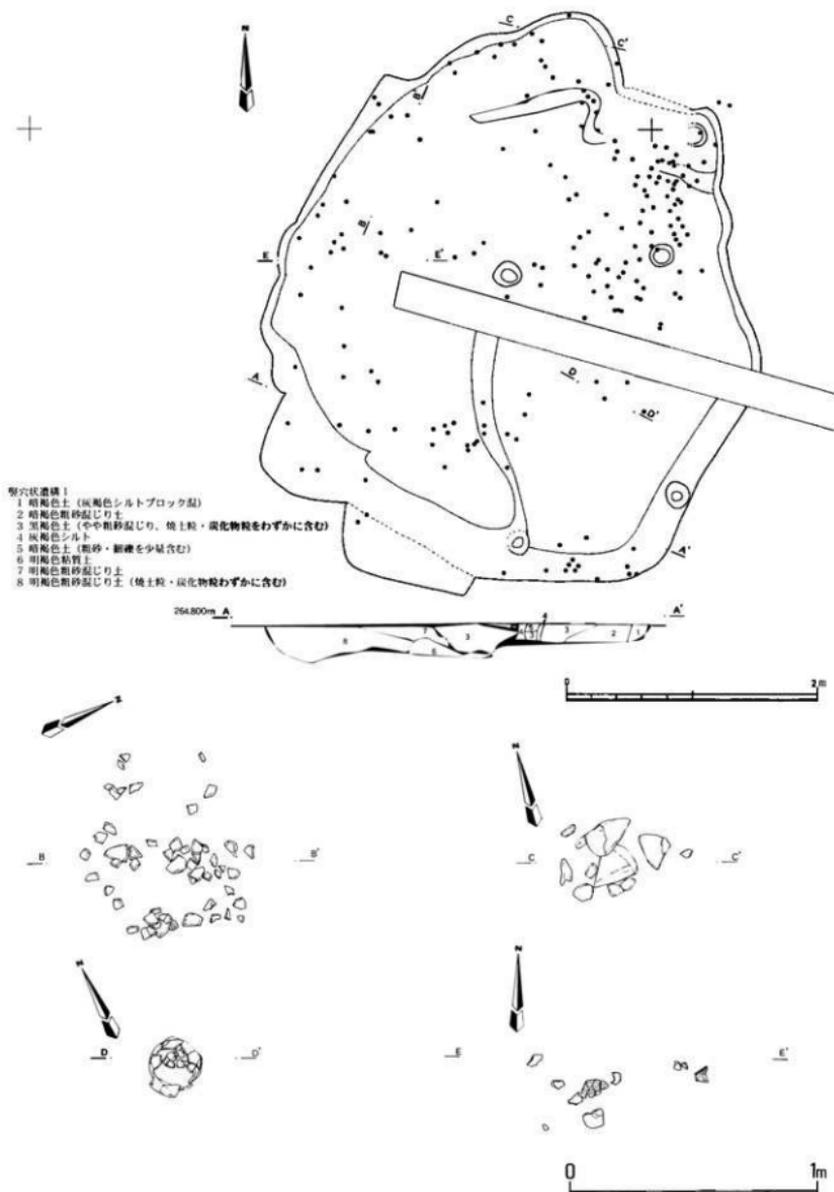
- 1 暗茶褐色土 (3cm大程度の土塊を少量含む)
- 2 黄褐色シルト (暗褐色シルトブロックを少量、5~10cm大の塊を少量含む)
- 3 茶褐色土 (ややシルト気味、塊土・炭化物粒を少量含む) - 2面
- 4 黄褐色土 (やや粗砂質気味、塊土・炭化物粒を少量含む) - 3面
- 5 暗褐色土 (粗砂質を多く含む)
- 6 褐色シルト (暗褐色土粒をわずかに含む)
- 7 青灰色シルト (木質部・炭分を含む)
- 8 暗茶褐色土 (黄土・シルトブロックを含む)
- 9 暗褐色土 (ややシルト混じり)
- 10 暗褐色シルト (ロームブロックを多く含む)
- 11 黄褐色粘質土 (5mm程度の砂・暗褐色粒・塊土・炭化物粒をごくわずかに含む)
- 12 暗褐色粘質土 (粗砂を多く含む)
- 13 暗褐色粘質土 (粗砂を少量含む)
- 14 暗褐色粘質土 (暗褐色土粒を多く含む)
- 15 暗褐色粘質土 (暗褐色土粒を非常に多く含む)
- 16 暗褐色土 (しまり良い)
- a 黄褐色土 (微細な炭化物粒・塊土粒を含む)
- b 暗茶褐色土 (~1cm大の炭化物、~3cm大のロームブロックを含む)
- ※ 図中のスクリーン・トーンは石またはコンクリート

Ⅱ区南トレンチ

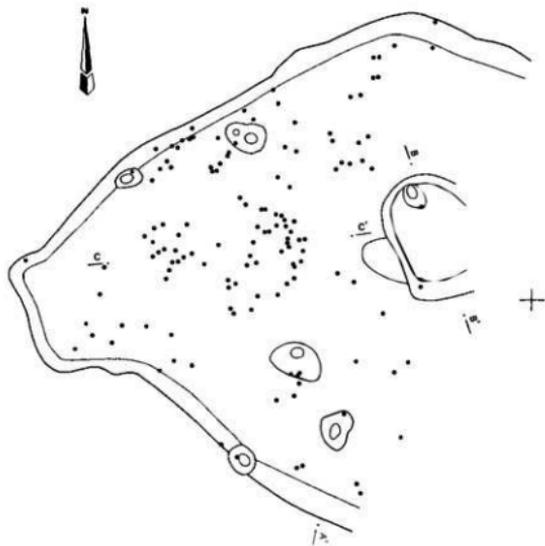
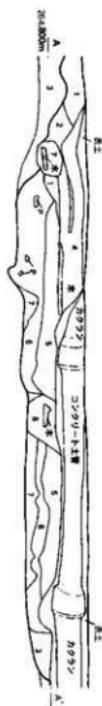
- 1 茶褐色シルト (赤褐色酸化粒を多く含む)
- 2 暗茶褐色シルト (~0.5mm大の炭化物・赤褐色酸化粒を少量含む)
- 3 暗褐色シルト (赤褐色酸化粒をやや多く含む)
- 4 暗褐色シルト (赤褐色酸化粒をやや多く、1cm大の粗塊を少量含む)
- 5 黄褐色砂礫混じり土 (赤褐色酸化粒を少量含む)
- 6 黄褐色やや砂礫混じり土 (暗褐色粘粒を含む)
- 7 青灰色砂
- 8 青灰色砂 (暗褐色粗砂を含む)
- 9 黄褐色粘質土 (上層で炭分を多く含む)
- 10 黄褐色粘質土
- 11 黄褐色粘質土 (しまり良い)
- 12 暗褐色粘質土 (しまり非常に良い)
- ※ 図中のスクリーン・トーンは旧行倉庫建設時に穿たれた木杭



第18図 Ⅱ区 調査区壁 土層図



第19図 堅穴状遺構1 全体図、遺物出土状況図・セクション図

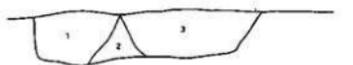


竪穴状遺構 2

- 1 茶褐色土
- 2 黄褐色シルト
- 3 黄褐色土
- 4 褐色シルト凝り上 (焼土・炭化物を少許含む)
- 5 暗褐色土 (焼土・炭を含む)
- 6 黄褐色土 (中砂質土・焼土・炭・土器を多く含む)
- 7 黄褐色砂質土 (礫砂を含む)
- 8 青灰色土 (出土土凝り)



264.700m B

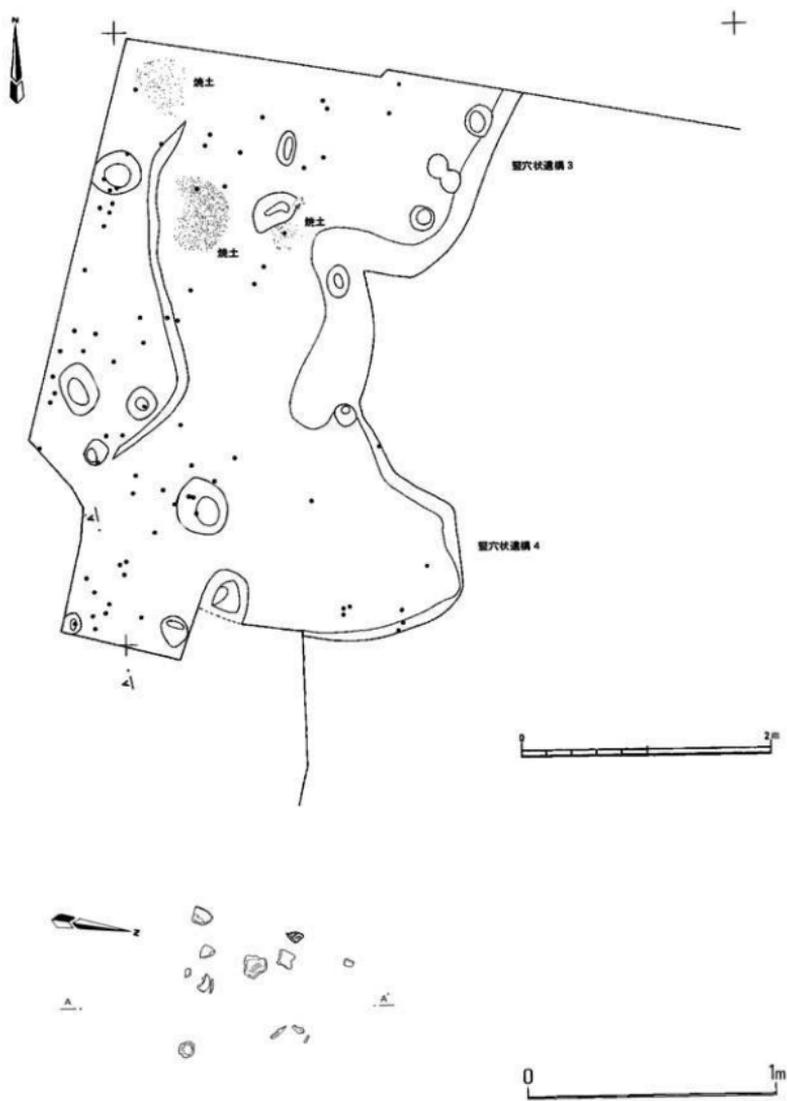


竪穴状遺構 2 内土坑

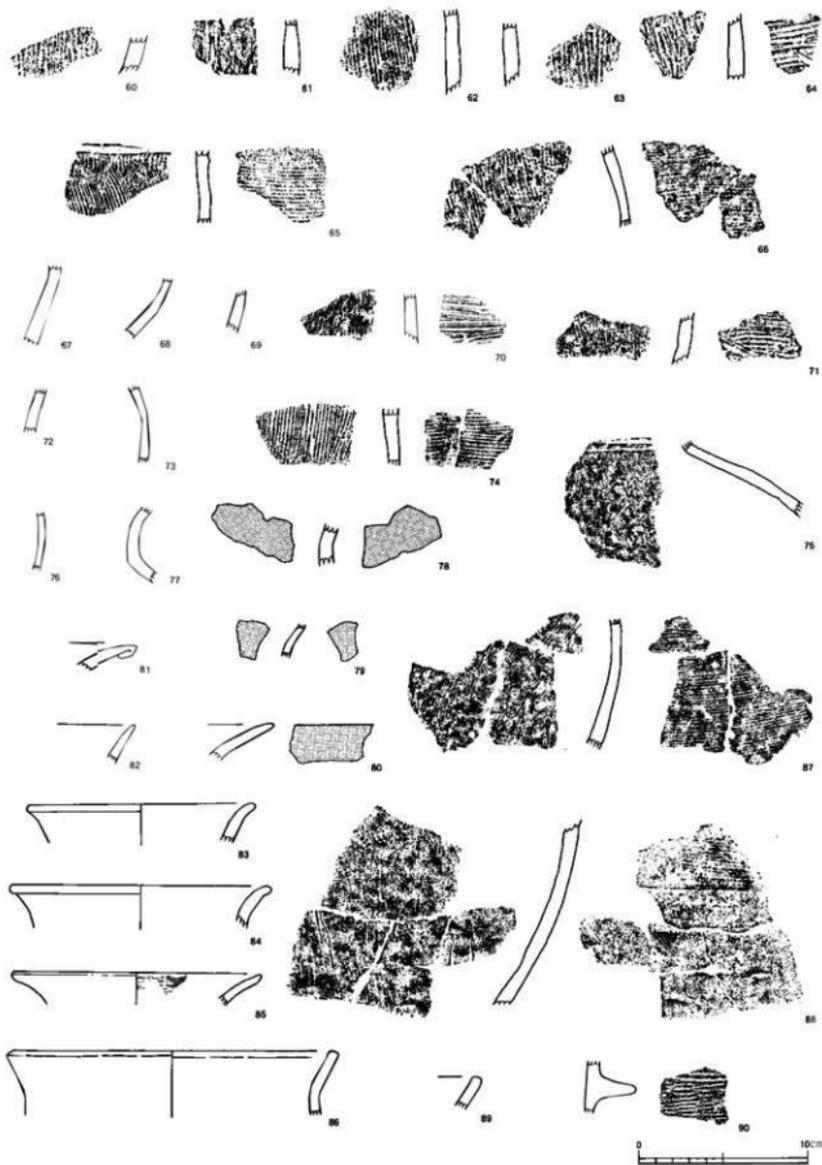
- 1 褐色土 (粗砂を含む)
- 2 暗茶褐色土
- 3 黄褐色土 (炭化物・焼土粒を少許含む)



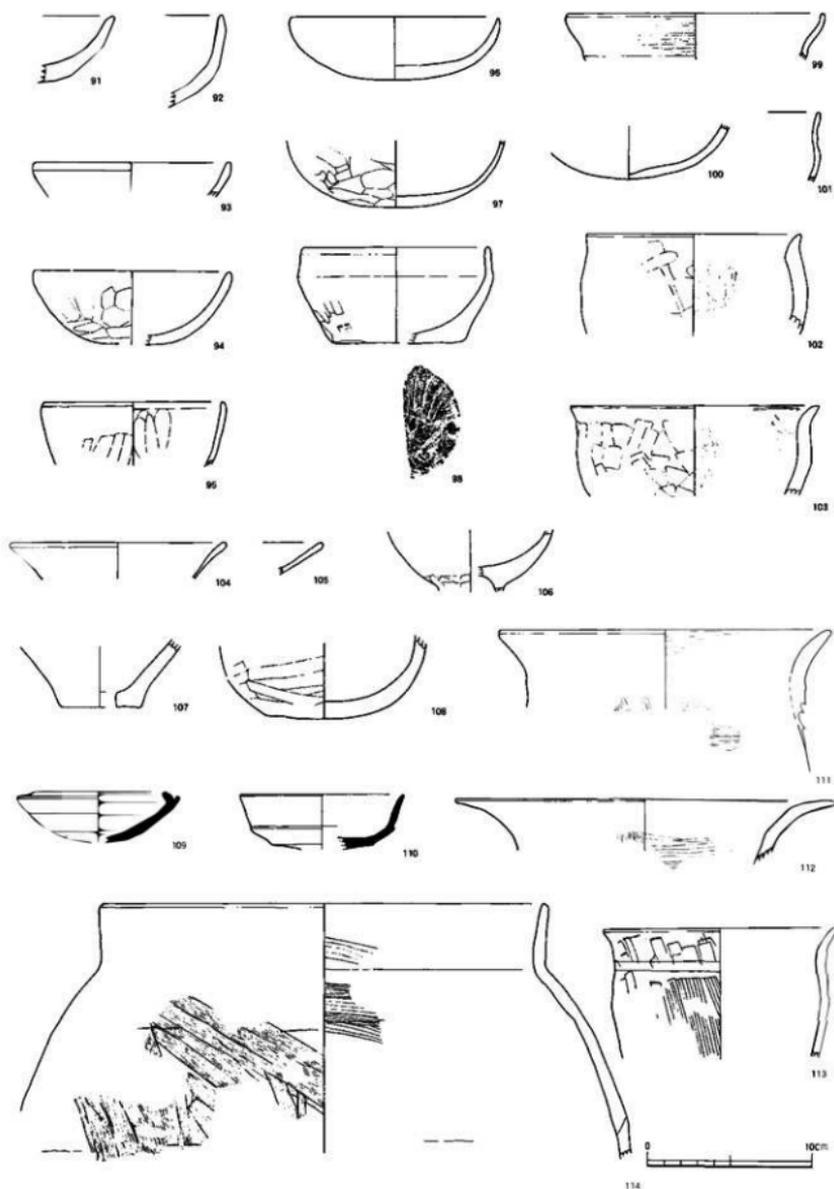
第 20 図 竪穴状遺構 2 全体図、遺物出土状況図・セクション図



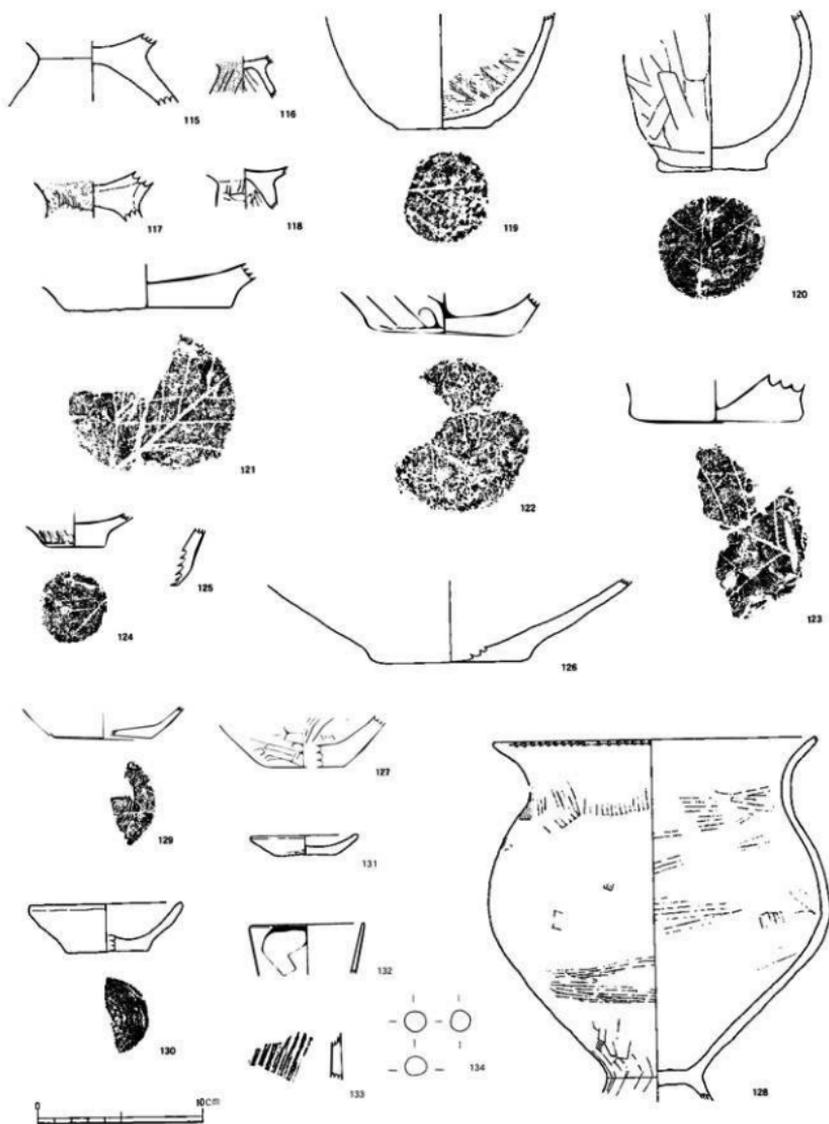
第21圖 竪穴状遺構3・4 全体図、遺物出土状況図



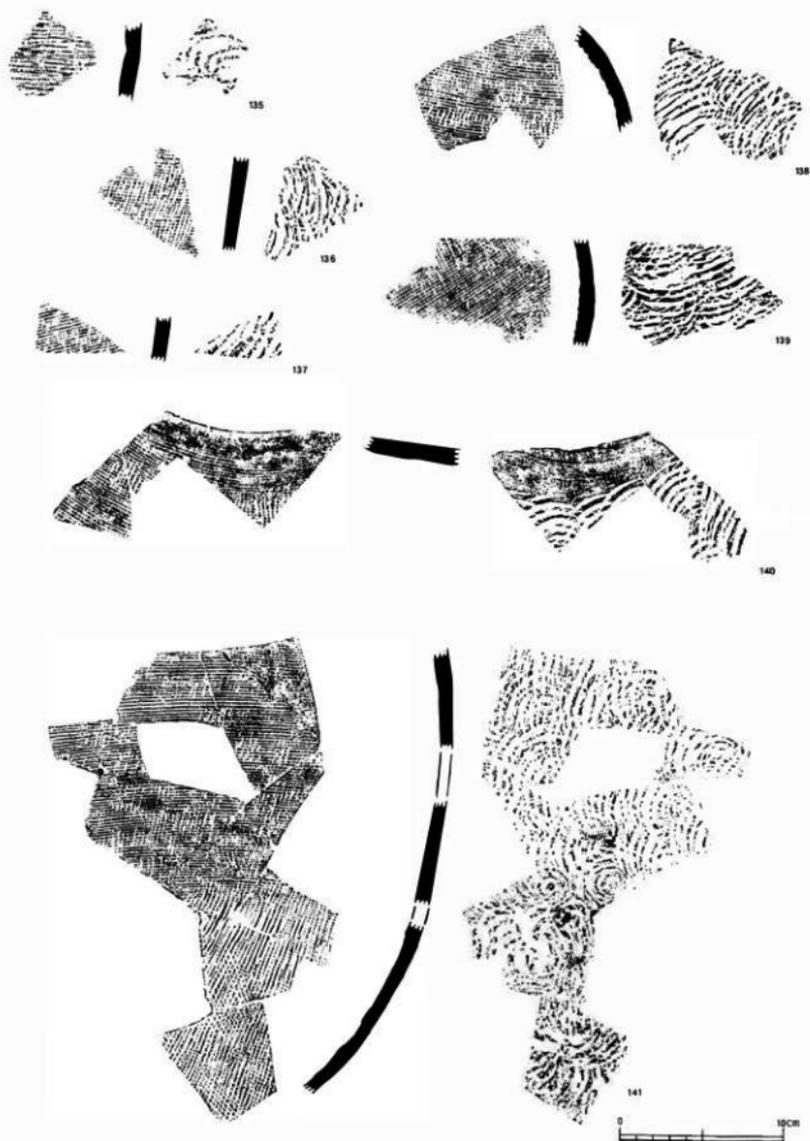
第22图 竖穴状遺構1 出土遺物(1)



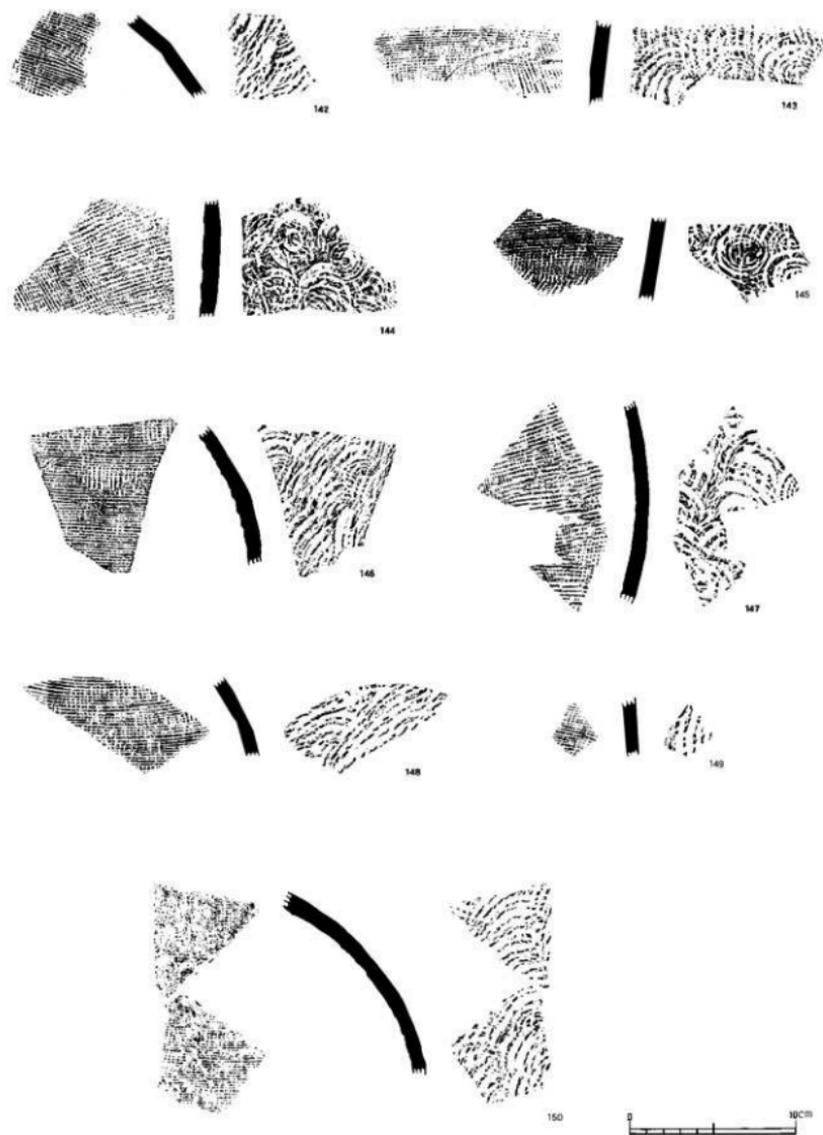
第 23 図 竪穴状遺構 1 出土遺物 (2)



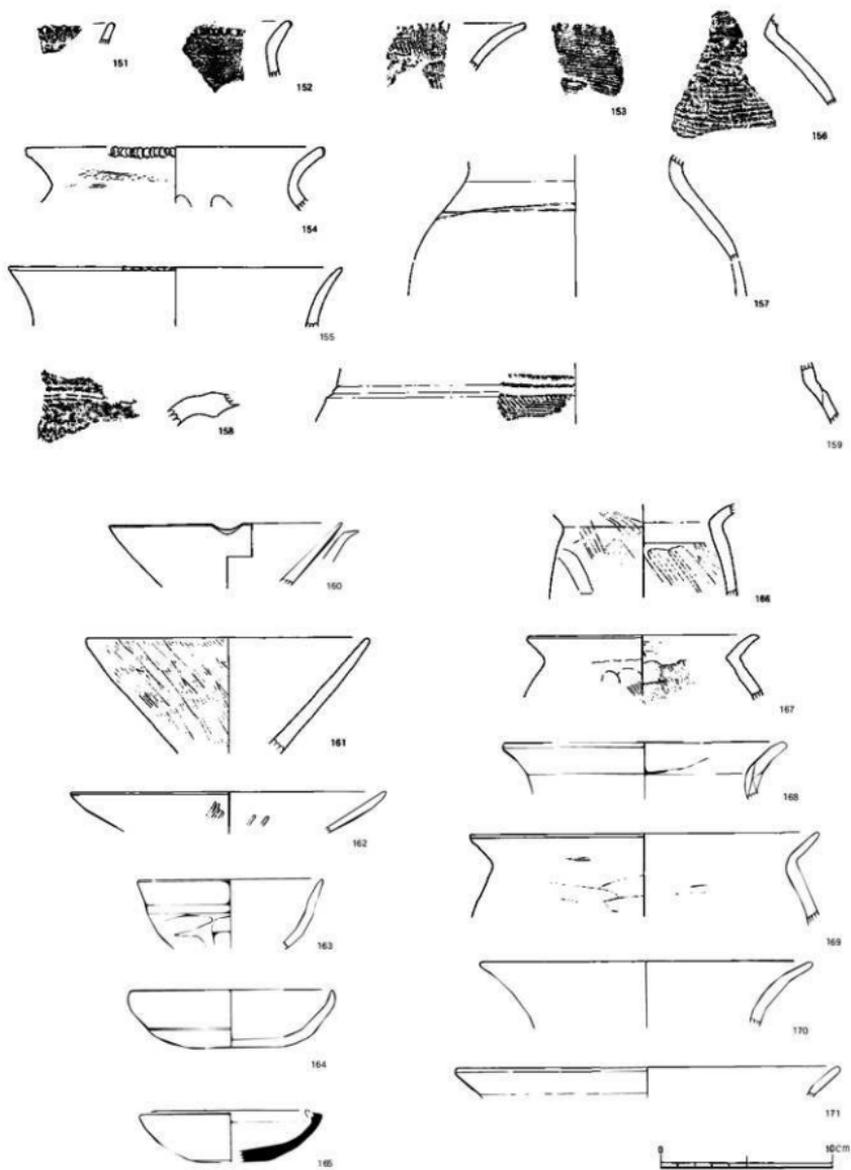
第24図 竪穴状遺構1 出土遺物(3)



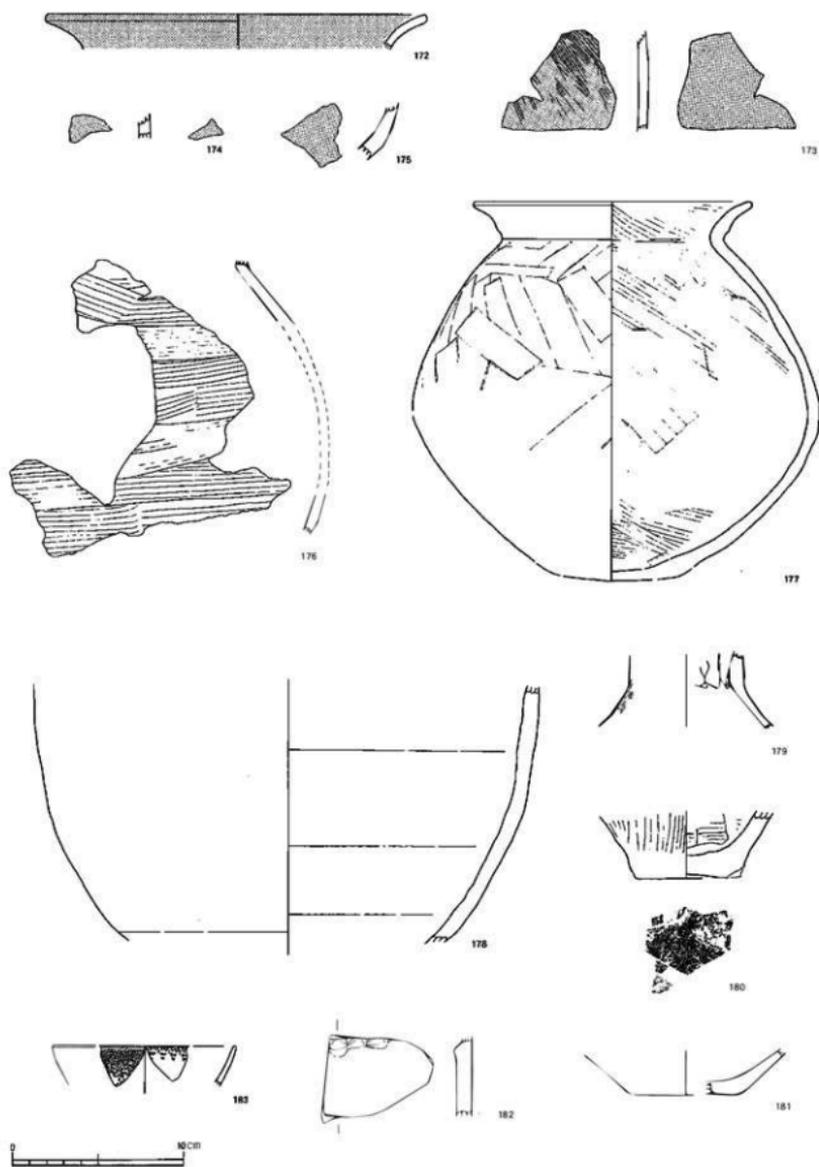
第25図 整穴状遺構1 出土遺物(4)



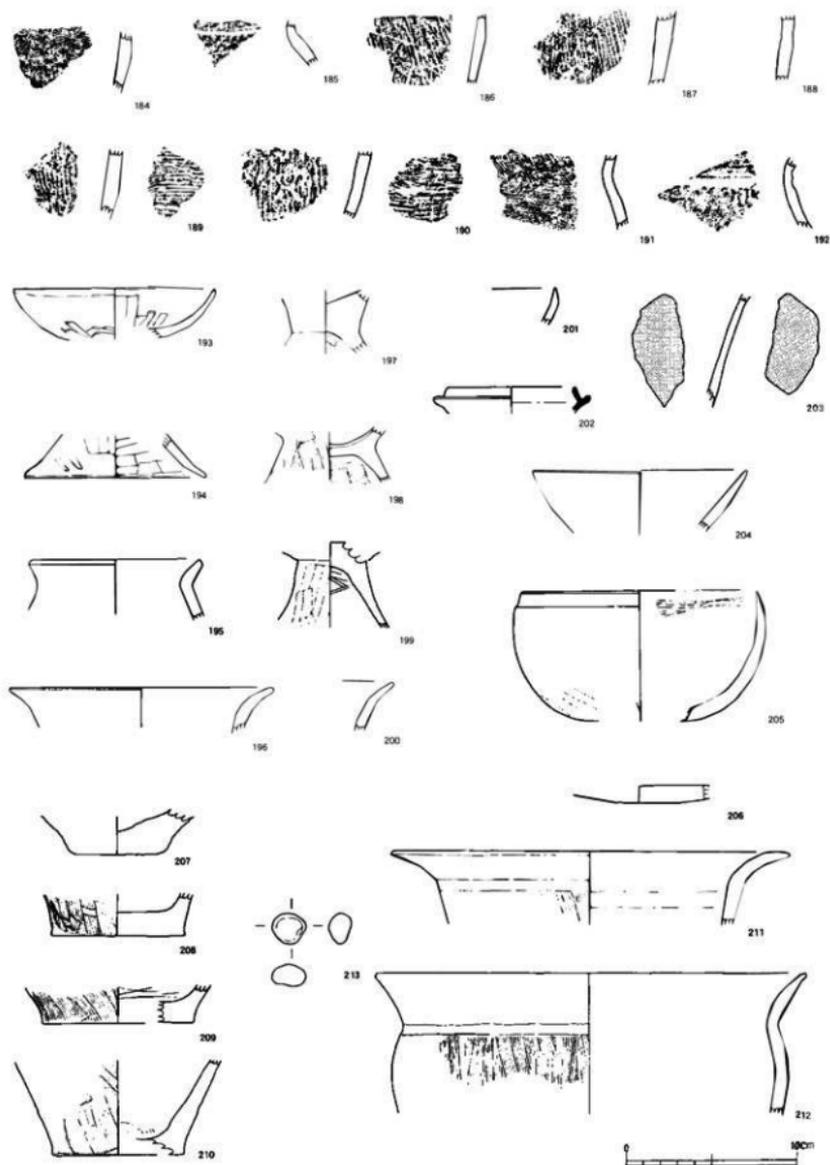
第 26 図 竪穴状遺構 1 出土遺物 (5)



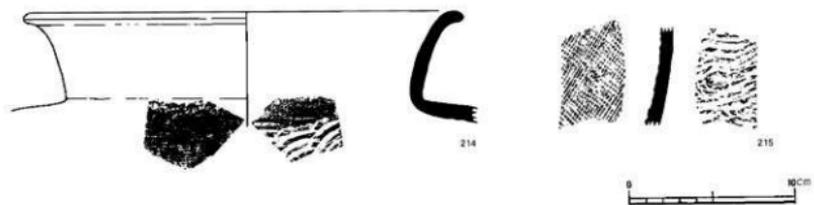
第 27 图 竖穴状遺構 2 出土遺物 (1)



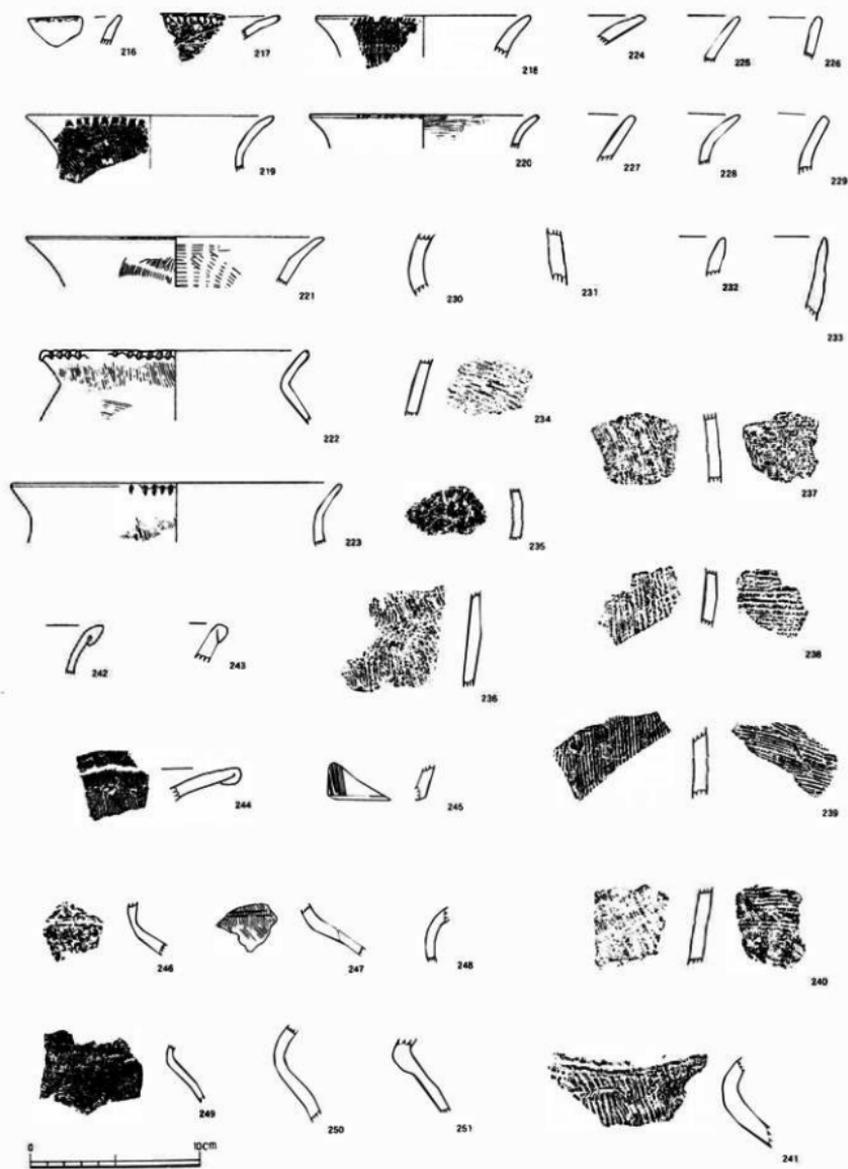
第28圖 竪穴状遺構2 出土遺物(2)



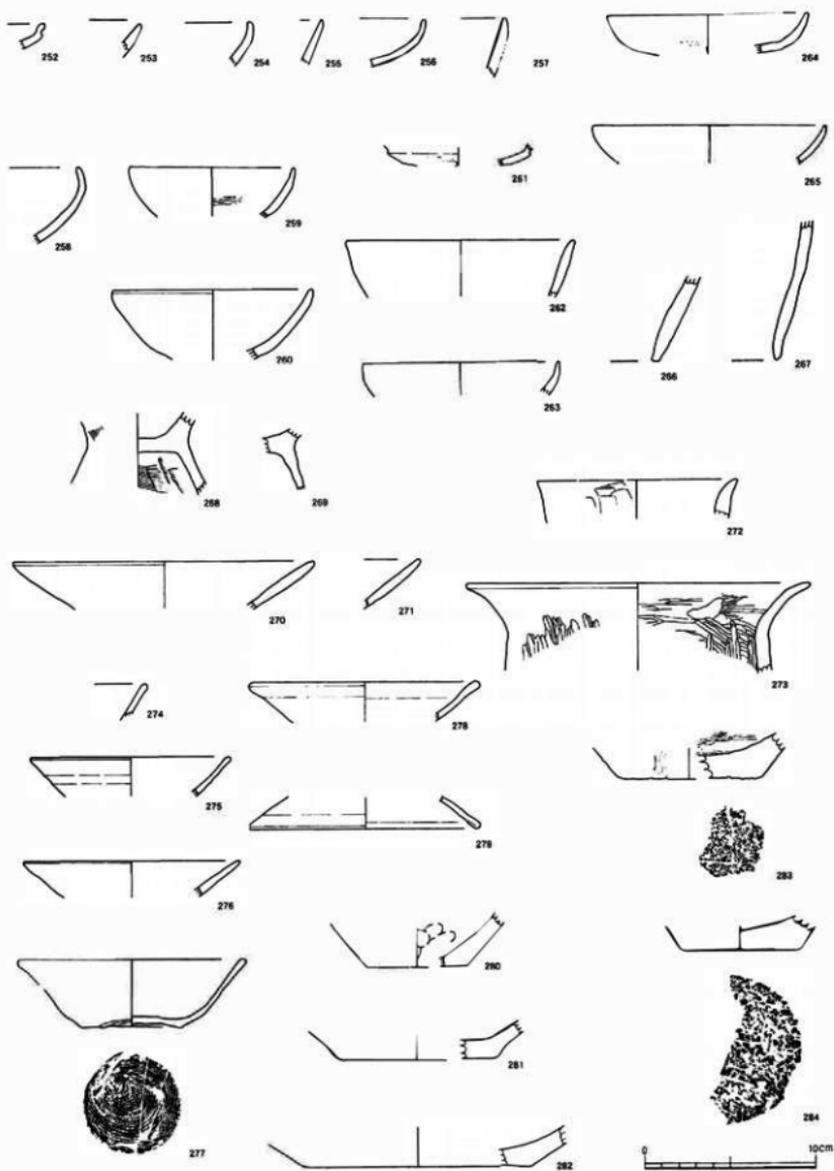
第29图 竖穴状遺構3・4 出土遺物(1)



第30図 竪穴状遺構3・4 出土遺物(2)



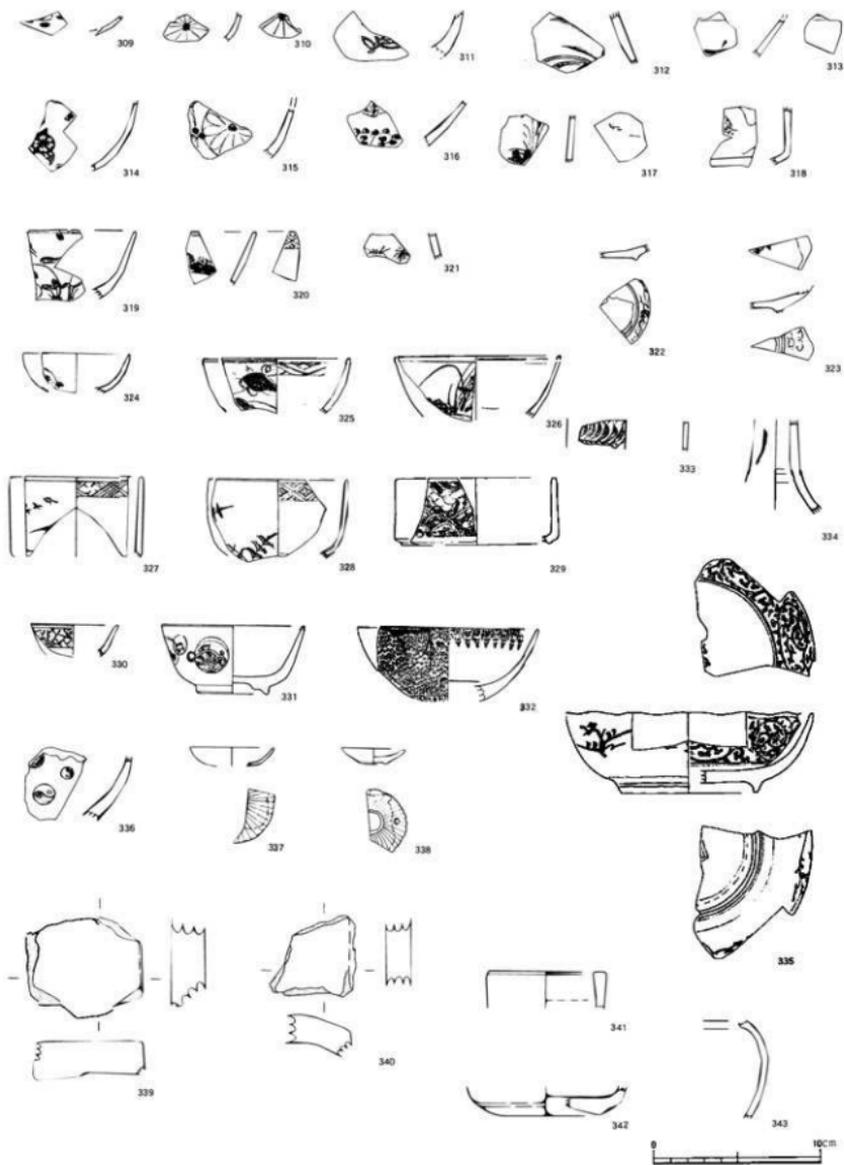
第31図 遺構外 出土遺物(1)



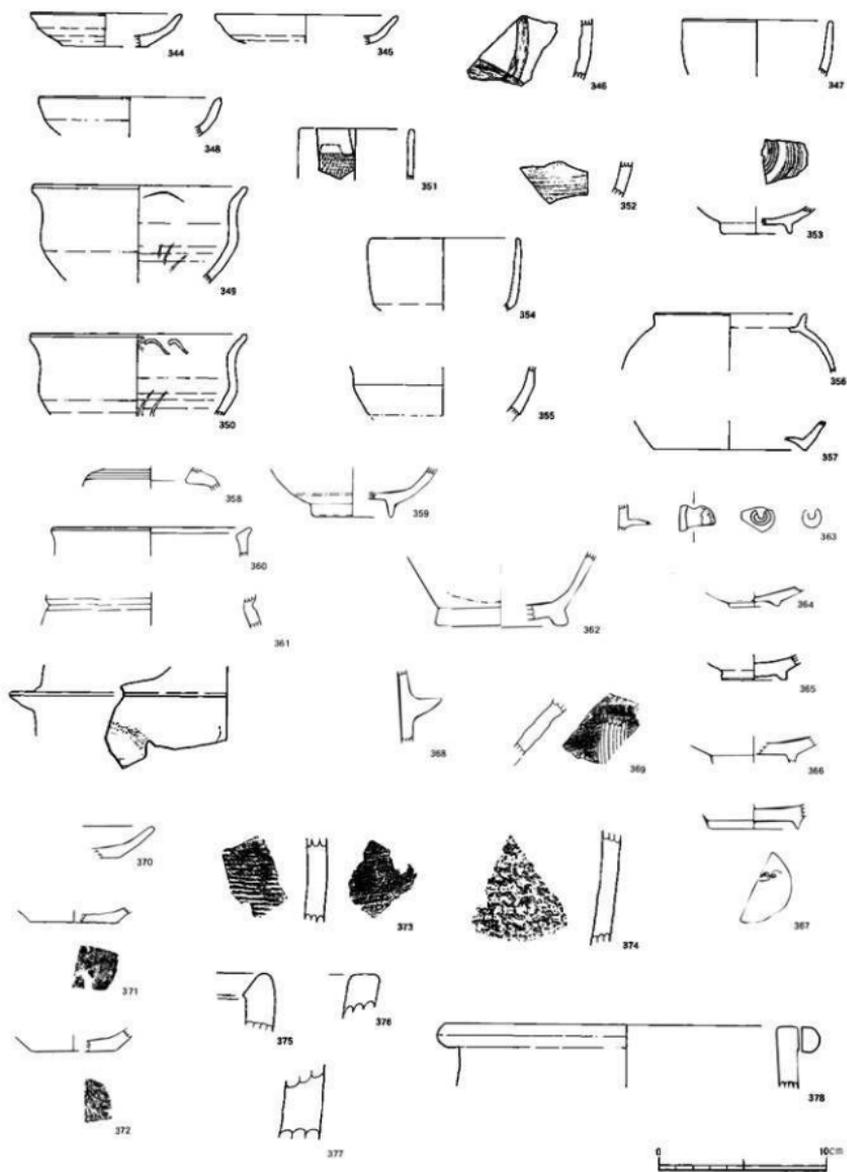
第 32 圖 遺構外 出土遺物 (2)



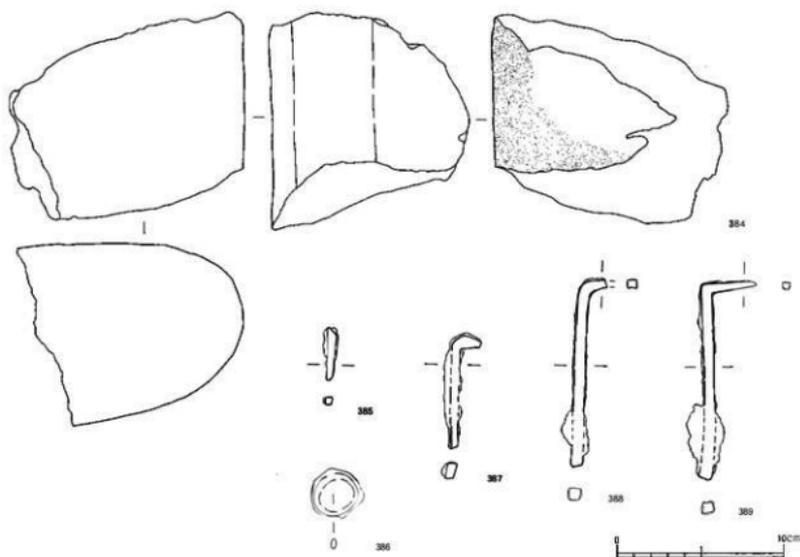
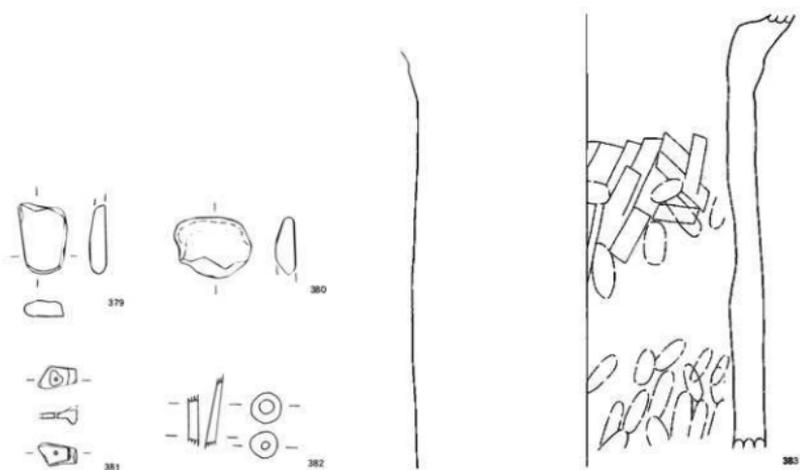
第33圖 遺構外 出土遺物(3)



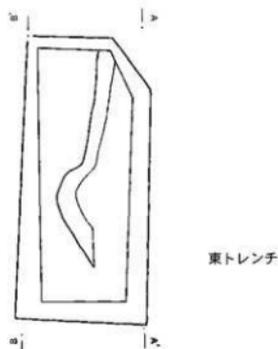
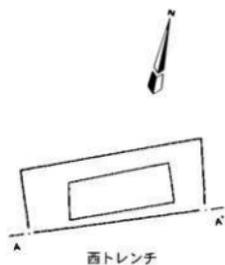
第34図 遺構外 出土遺物(4)



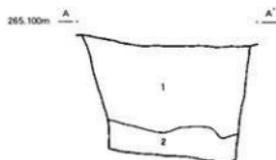
第35圖 遺構外 出土遺物(5)



第36図 遺構外 出土遺物(6)

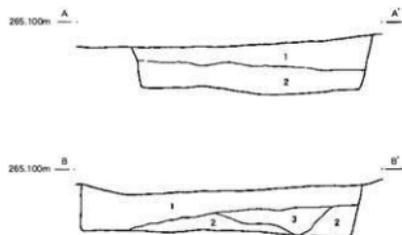


西トレンチセクション図



立会い調査 西トレンチ

- 1 茶褐色シルト (ごく上層に江戸時代の遺物を含む)
- 2 暗褐色シルト (粗砂を少量含む、しまり良)

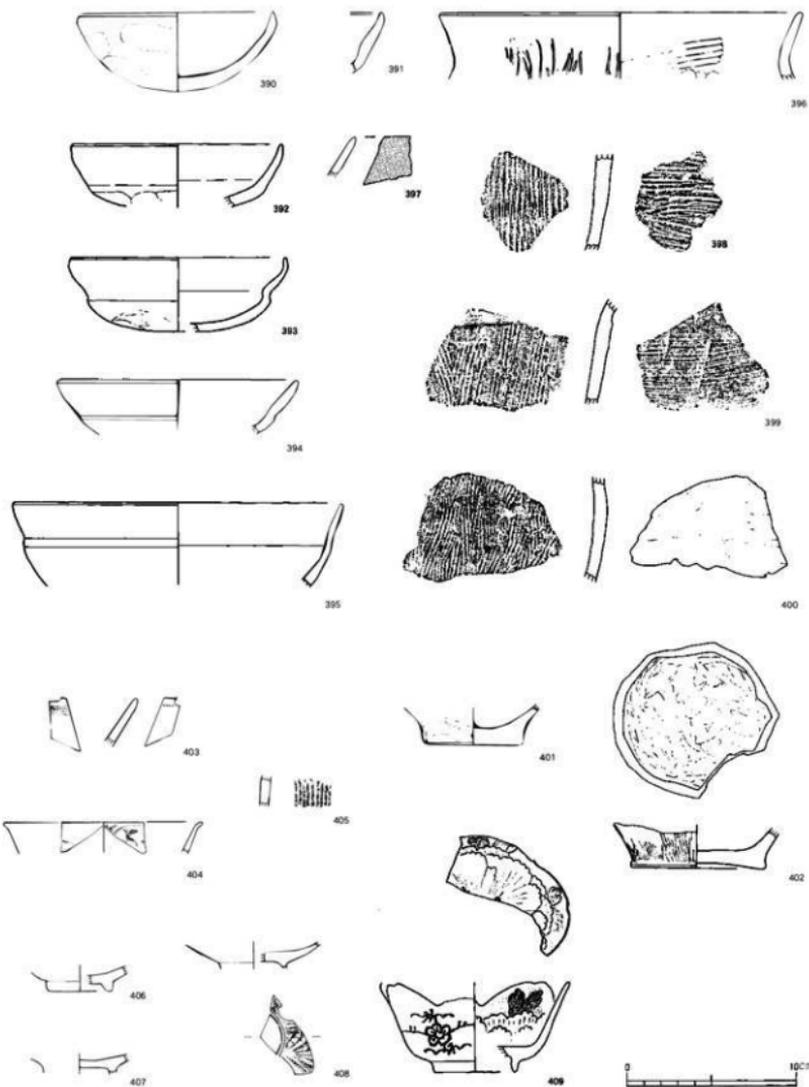


立会い調査 東トレンチ

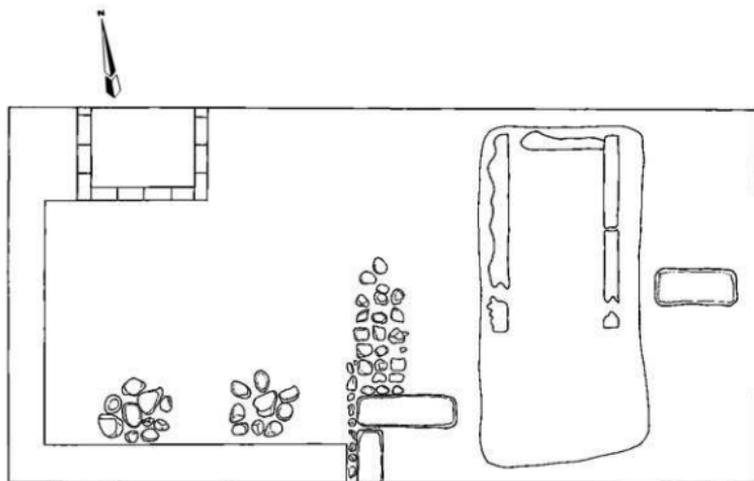
- 1 茶褐色土 (粘土粒をわずかに含む)→目録
- 2 黒褐色土 (粘土粒・炭化物粒を多く含む、古墳時代の土層を多く含む)→目録
- 3 黒褐色土 (1~5cm大の茶褐色シルトブロックを多く含む)



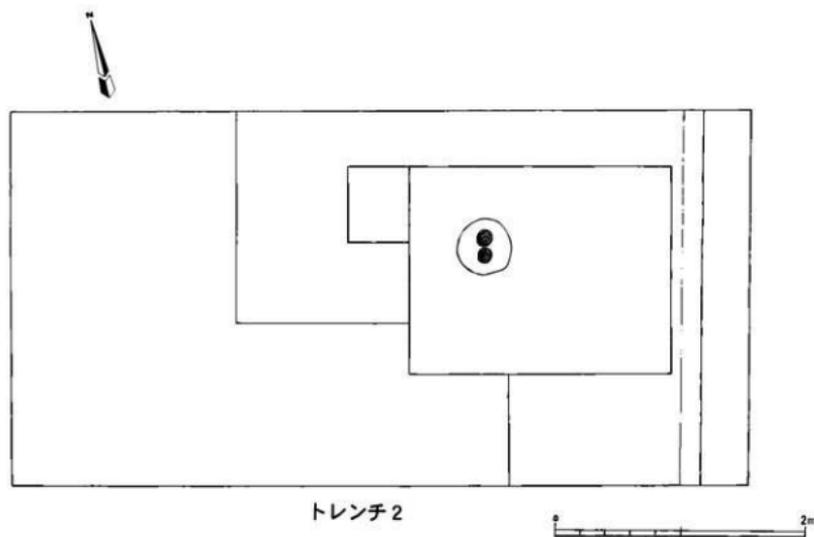
第37図 立会い調査 トレンチ平面図・セクション図



第38図 立会い調査 出土遺物

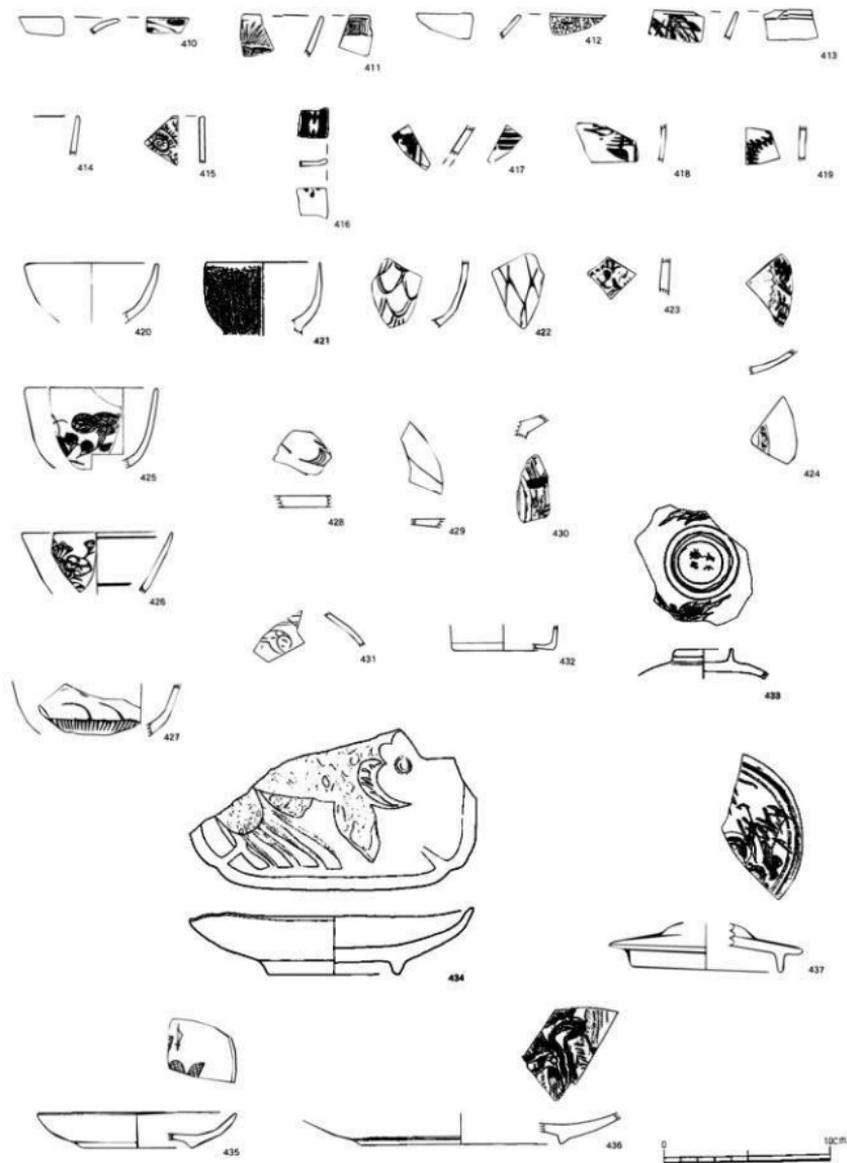


トレンチ1

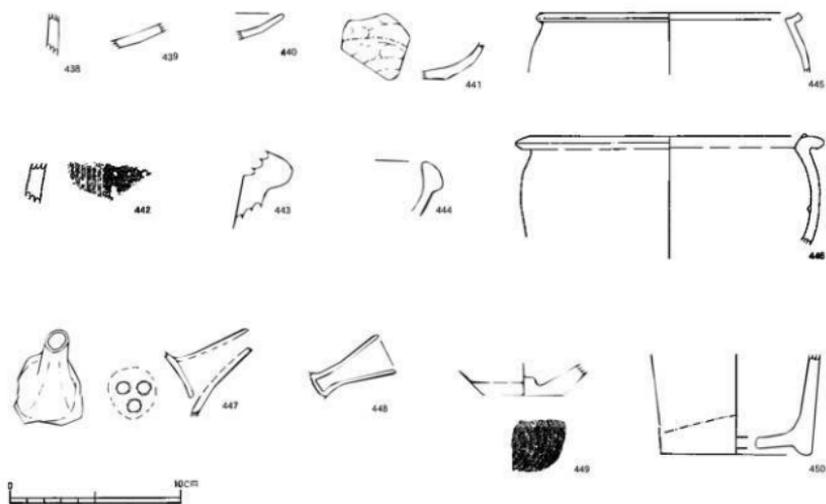


トレンチ2

第39図 試掘調査 トレンチ平面図



第40図 試掘調査 トレンチ1 出土遺物(1)



第41図 試掘調査 トレンチ1 出土遺物(2)

表2 陶磁器類遺物観察表

| 図版No | 報告No | 出土位置 | 遺物注記No | 実測No | 種別 | 器種等 | 法量 (cm) | 【貯存痕】 | 【傷定痕】 | 胎付、胎意 | 裝飾技法 | 文様 | 胎土 | 印印、筋 | 備考 |
|------|------|---------|----------|------|----|-----|---------|-------|--------|-----------|----------|-----------------|---------|------|----------|
| 8 | 1 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 399 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草? | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 2 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 401 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草? | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 3 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 400 | 磁器 | 碗 | (9.0) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 4 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 390 | 磁器 | 碗 | (10.0) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 灰白、中々粗 | | |
| 8 | 5 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 397 | 磁器 | 碗 | (10.4) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 6 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 393 | 磁器 | 中碗 | (9.8) | - | - | コバルト、透明釉 | 手締き | 草花文 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 7 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 391 | 磁器 | 碗 | (10.0) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 灰白色、中々粗 | | |
| 8 | 8 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 389 | 磁器 | 碗 | (10.0) | 5.0 | (3.4) | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 9 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 392 | 磁器 | 碗 | (9.4) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 梅花文 | 灰白、中々粗 | | |
| 8 | 20 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 386 | 磁器 | 碗 | (10.0) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 梅花文 | 白色 | | |
| 8 | 11 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 387 | 磁器 | 碗 | (10.0) | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 梅花文 | 白色 | | |
| 8 | 12 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 368 | 磁器 | 碗 | 9.6 | 5.0 | 3.8 | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 13 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 369 | 磁器 | 碗 | 10.0 | 5.1 | 3.8 | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 白色、磨 | | |
| 8 | 24 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 388 | 磁器 | 碗 | (9.8) | 5.1 | (4.0) | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 白色 | | |
| 8 | 15 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 403 | 磁器 | 碗 | - | - | (4.2) | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 内：花? | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 16 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 394 | 磁器 | 碗 | - | - | 3.7 | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 灰白、中々粗 | | |
| 8 | 17 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 394 | 磁器 | 碗 | - | - | 3.6 | 自然気焼、透明釉 | 手締き | - | 白色 | | |
| 8 | 18 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 395 | 磁器 | 碗 | - | - | (3.0) | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 草花文 | 灰白色、中々粗 | | |
| 8 | 19 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 394 | 磁器 | 中碗 | - | - | 3.4 | コバルト、透明釉 | 手締き | 梅花文 | 白色、中々粗 | | 底面に「雷」 |
| 8 | 20 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 410 | 磁器 | 碗 | (10.1) | - | - | コバルト、透明釉 | 型紙刷り | 外：輪、縞線、 内：縞線 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 21 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 411 | 磁器 | 碗 | - | - | - | コバルト、透明釉 | 型紙刷り | 外：縞線 | 白色、中々粗 | | |
| 8 | 22 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 412 | 磁器 | 碗 | - | - | - | コバルト、透明釉 | 型紙刷り | - | 白色 | | |
| 8 | 23 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 413 | 磁器 | 碗 | - | - | - | コバルト、透明釉 | 型紙刷り | 外：- 内：縞状松竹梅文 | 白色 | | |
| 9 | 24 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 408 | 磁器 | 小鉢 | 5.8 | 2.8 | 2.2 | 上絵付?、透明釉 | 手締き | 内：人物(女性) | 白色、磨 | | 底面に |
| 9 | 25 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 370 | 磁器 | 皿 | (10.6) | 2.1 | 6.2 | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 鳥、草 | 白色、中々粗 | | 底面に「海」 |
| 9 | 26 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 404 | 磁器 | 蓋 | - | - | - | 自然気焼、透明釉 | 手締き | - | 白色、中々粗 | | |
| 9 | 27 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 405 | 磁器 | 合子蓋 | - | - | - | コバルト、透明釉 | 手締き | 風景? | 白色、中々粗 | | |
| 9 | 28 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 407 | 磁器 | 水筒 | - | - | - | コバルト?、透明釉 | 手締き | 型無し | 白色 | | |
| 9 | 29 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 406 | 磁器 | 茶碗 | - | - | - | 透明釉 | 型無し | 型無し | 白色 | | |
| 9 | 30 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 402 | 磁器 | 湯口 | - | - | (5.0) | 自然気焼、透明釉 | 手締き | 家紋文 | 白色、中々粗 | | |
| 9 | 31 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 409 | 磁器 | 碗 | - | - | (8.0) | コバルト | 型紙刷り | - | 白色、中々粗 | | |
| 9 | 32 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 384 | 陶器 | 土瓶 | - | - | - | 緑釉 | - | - | 褐色 | | |
| 9 | 33 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 375 | 陶器 | 瓶 | - | - | - | 黒釉 | - | - | 褐色 | | |
| 9 | 34 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 382 | 陶器 | 壺 | - | - | - | - | 夕タキ目 | - | 褐色 | | |
| 9 | 35 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 383 | 陶器 | すり鉢 | - | - | - | 緑釉 | - | - | 褐色 | | スリ目あり |
| 9 | 36 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 361 | 陶器 | 香炉 | 11.8 | 8.0 | 8.6 | 胎物 | - | - | 灰茶褐色 | | |
| 9 | 37 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 362 | 陶器 | 香炉 | 12.0 | 8.4 | 8.4 | 茶緑釉 | - | - | 灰茶褐色 | | |
| 9 | 38 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 381 | 陶器 | 壺 | 10.2 | - | - | 緑釉 | - | - | 褐色 | | |
| 9 | 39 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 379 | 陶器 | 壺 | 12.0 | - | - | 鉄釉 | - | - | 緑灰色 | | |
| 9 | 40 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 378 | 陶器 | 鉢 | - | - | (10.0) | 茶釉 | - | - | 褐色 | | |
| 9 | 41 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 371 | 陶器 | 鉢 | - | - | (6.0) | 天白釉 | - | - | 明褐色 | | |
| 9 | 42 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 385 | 陶器 | 鉢 | - | - | 6.0 | 胎物 | - | - | 灰褐色 | | |
| 9 | 43 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 376 | 陶器 | 碗 | - | - | 5.8 | 茶釉 | - | - | 褐色 | | |
| 9 | 44 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 374 | 陶器 | 片口 | 11.0 | 5.1 | (5.4) | 白釉 | - | - | 白褐色 | | |
| 9 | 45 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 377 | 陶器 | 皿 | - | - | (7.0) | 灰釉、白磁 | 白磁による新毛目 | - | 褐色 | | |
| 10 | 46 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 366 | 陶器 | 土瓶 | 7.8 | 8.2 | 7.0 | 絵付付+透明釉 | 手締き | 風景 | 灰白色 | | |
| 10 | 47 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 380 | 陶器 | 土瓶 | - | - | (6.0) | 内：茶釉 | - | - | 明褐色 | | |
| 10 | 48 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 365 | 陶器 | 土瓶 | 13.2 | 11.0 | 7.6 | 絵付付+透明釉 | 手締き | 風景 | 白褐色 | | |
| 10 | 49 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 363 | 陶器 | 平手 | 19.0 | 10.0 | 4.0 | 緑釉 | - | - | 赤茶褐色 | | 把手に「小倉製」 |
| 10 | 50 | 区遺物集中心点 | 06KJ 子 1 | 364 | 陶器 | 平手 | 18.8 | - | - | 緑釉 | 虎口施 | - | 赤茶褐色 | | 小倉(ごころ)焼 |

| 図例No. | 割合% | 出土位置 | 遺物仕立No. | 尺貫No. | 種類 | 器種等 | 法量 (cm) [現存数] (推定額) | | | 製作技法 | | 胎土 | 刷印・施 | 備考 |
|-------|-----|-------------|-----------------|-------|----|-----|---------------------|-------|-------|----------|------------|------------------|---------|----------|
| | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 絵付・物量 | 裝飾技法 | | | |
| 10 | 51 | 1区遺物箱中地点 | 06KJ子1 | 373 | 土製 | 基石 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 10 | 52 | 1区遺物箱中地点 | 06KJ子1 | 372 | 土製 | 灯明皿 | 9.63 | 1.9 | (7.0) | なし | - | - | - | - |
| 10 | 53 | 1区遺物箱中地点 | 06KJ子1 | 360 | 陶器 | 灯籠 | 32.0 | 15.8 | 15.0 | 絵し | - | - | - | - |
| 11 | 54 | 1区遺物箱中地点 | 06KJ子1 | 367 | 陶器 | 鉢 | 21.4 | 7.4 | 10.0 | 絵付け+紅土引 | 手掻き | 踏子文様か | 白濁色 | 底面に「春田」裏 |
| 14 | 55 | 目区2面1号溝p-8 | 06KJ子II-21ミノp-8 | 100 | 磁器 | 碗 | (10.0) | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文? | 白色、やや紫 | 【加藤 忠房】作 |
| 14 | 56 | 目区2面1号溝p-9 | 06KJ子II-21ミノp-9 | 194 | 陶器 | 碗 | - | - | (4.2) | 灰釉 | - | - | - | - |
| 14 | 57 | 目区2面1号溝p-6 | 06KJ子II-21ミノp-6 | 185 | 陶器 | 碗 | - | - | (5.0) | 鉄釉、透明釉 | 掛け分け | - | - | - |
| 14 | 58 | 目区2面1号溝p-2 | 06KJ子II-21ミノp-2 | 187 | 磁器 | 碗 | - | - | (4.0) | 自然気焼・透明釉 | 手掻き、コンニャク印 | 内：丸芽花 | 白色、やや紫 | - |
| 14 | 59 | 目区2面1号溝 | 06KJ子II-22ミノ | 188 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 132 | 目区3面1号 | 06KJ子III-21夕テ | 83 | 磁器 | 煎茶碗 | 17.00 | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 雨降時 | 灰白色、紫 | - |
| 24 | 133 | 目区3面1号 | 06KJ子III-21夕テ | 191 | 陶器 | 甕 | - | - | - | - | - | タタネ目 | 灰濁色、紫 | - |
| 28 | 183 | 目区3面2号第六区遺物 | 06KJ子III-22夕テ | 179 | 磁器 | 碗 | (11.0) | - | - | コバルト・透明釉 | 型紙刷り | 内：蓮唐文 | 白、やや紫 | - |
| 24 | 309 | 目区3面2号 | 06KJ子III-3B-2 | 310 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | - | 灰白色、紫 | - |
| 24 | 310 | 目区3面2号 | 06KJ子III | 314 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 菊文 | 白色、紫 | - |
| 24 | 311 | 目区2面A-3 | 06KJ子II-2A-3 | 311 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 灰白色、紫 | - |
| 24 | 312 | 目区2面A-3 | 06KJ子II | 324 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 灰白色、紫 | - |
| 24 | 313 | 目区2面A-3 | 06KJ子II | 308 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、紫 | - |
| 24 | 314 | 目区2面A-3 | 06KJ子II-2A-3 | 312 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 花卉文 | 白濁色、やや紫 | 横線ぎあり |
| 24 | 315 | 目区2面A-3 | 06KJ子II-2 | 307 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 花卉文 | 灰白色、紫 | - |
| 24 | 316 | 目区1面 | 06KJ子II-1 | 309 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 花卉文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 317 | 目区1面 | 06KJ子II | 417 | 磁器 | 膳形陶 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、紫 | - |
| 24 | 318 | 目区1面 | 06KJ子II | 320 | 磁器 | 膳形陶 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、紫 | - |
| 24 | 319 | 目区2面A-3 | 06KJ子II-2A-3 | 315 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 灰白色、紫 | - |
| 24 | 320 | 目区2面A-4 | 06KJ子II-2A-4 | 316 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 花卉文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 321 | 目区2面 | 06KJ子II-2 | 325 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 322 | 目区2面 | 06KJ子II-2 | 321 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 雲唐文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 323 | 目区2面 | 06KJ子II | 319 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 満堂文? | 白濁色、紫 | - |
| 24 | 324 | 目区2面 | 06KJ子II | 306 | 磁器 | 仏飯器 | 6.40 | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 325 | 目区2面 | 06KJ子II | 305 | 磁器 | 碗 | 19.00 | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文 内：四方唐文 | 白色、紫 | - |
| 24 | 326 | 目区2面 | 06KJ子II | 416 | 磁器 | 碗 | (10.0) | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文 内：二重輪 | 白色、紫 | - |
| 24 | 327 | 目区3面p-94 | 06KJ子III-3p-94 | 414 | 磁器 | 膳形陶 | 8.00 | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文 内：四方唐文 | 白濁色、やや紫 | - |
| 24 | 328 | 目区3面 | 06KJ子III | 304 | 磁器 | 碗 | 8.40 | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文 内：四方唐文 | 白色、やや紫 | - |
| 24 | 329 | 目区3面 | 06KJ子III | 322 | 磁器 | 段重 | 9.80 | - | (9.0) | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：武文 | 白、やや紫 | 横線ぎあり |
| 24 | 330 | 目区3面 | 06KJ子III | 327 | 磁器 | 小坏 | 5.23 | - | - | コバルト・透明釉 | 押し | 外：水霞梅文 | 白、やや紫 | - |
| 24 | 331 | 目区3面 | 06KJ子III | 329 | 磁器 | 碗 | 8.50 | 4.2 | (4.2) | 透明釉 | 刷り | 外：松竹梅文 | 白、やや紫 | - |
| 24 | 332 | 目区3面 | 06KJ子III | 330 | 磁器 | 碗 | (11.0) | - | - | コバルト・透明釉 | 型紙刷り | 外：松、梅唐草 内：蓮唐文 | 白 | - |
| 24 | 333 | 目区2面 | 06KJ子II-2 | 317 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文 | 白、やや紫 | - |
| 24 | 334 | 目区2面 | 06KJ子II | 323 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | - | 白、やや紫 | - |
| 24 | 335 | 目区2面 | 06KJ子II | 318 | 磁器 | 鉢 | (14.8) | (4.9) | (8.0) | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：唐草文、内：唐草文 | 白、紫 | - |
| 24 | 336 | 目区2面 | 06KJ子II | 328 | 磁器 | 碗 | - | - | - | コバルト・透明釉 | 型紙刷り | 外：文 | 白色 | - |
| 24 | 337 | 目区3面 | 06KJ子III-3p195 | 332 | 磁器 | 紅蓮目 | (5.0) | - | - | 透明釉 | 押し | - | 白色 | - |
| 24 | 338 | 目区3面 | 06KJ子III | 331 | 磁器 | 紅蓮目 | (4.0) | (0.9) | (1.0) | 透明釉 | 押し | - | 白色 | - |
| 24 | 339 | 目区3面 | 06KJ子III-3 | 302 | 瓦質 | 軒平瓦 | - | - | - | - | - | - | 灰色 | - |
| 24 | 340 | 目区3面 | 06KJ子III-3 | 301 | 瓦質 | 軒平瓦 | - | - | - | - | - | - | 灰色 | - |
| 24 | 341 | 目区1面 | 06KJ子II-1 | 313 | 磁器 | 舟形 | 7.23 | - | - | 黄緑 | - | - | 灰白色、紫 | 横線 |
| 24 | 342 | 目区2面 A-4 | 06KJ子II-2A-4 | 289 | 磁器 | T | - | - | (6.4) | 黄緑 | - | - | 灰色 | - |

| 採掘No | 報告No | 出土位置 | 遺物記号No | 実測No | 種別 | 器種等 | 法量 (cm) (推定値) | | | 裝飾技法 | | 胎土 | 旬目、肌 | 備考 |
|------|------|--------------|------------------|------|-------|-------|---------------|-----|-------|---------|------|-----------|------|-----------------|
| | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 絵付・地文 | 裝飾技法 | | | |
| 34 | 343 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 326 | 磁器 | 香炉 | - | - | - | 青磁 | - | 白色 | | |
| 35 | 344 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-3 | 279 | 陶器 | 灯明皿 | (9.0) | 2.0 | (5.0) | 黒釉 | - | 灰色 | | 底面、凹駝糸切痕 |
| 35 | 345 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-3 | 295 | 陶器 | 小皿 | (11.0) | - | - | 長石釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 346 | Ⅱ区1面 | 06KJチⅡ-1 | 285 | 陶器 | 膳鉢 | - | - | - | 透明釉 | 手掻き | 灰色 | 文字? | |
| 35 | 347 | Ⅱ区北トレンチ西トレンチ | 06KJチⅡ北トレンチ西トレンチ | 303 | 磁器 | 小皿 | (9.0) | - | - | 灰釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 348 | Ⅱ区2面 p-7 | 06KJチⅡ-2 p-7 | 282 | 陶器 | 鍋 | (11.0) | - | - | 灰釉 | - | 黄褐色 | | 火を受けた痕跡? |
| 35 | 349 | Ⅱ区2面 p-a-p-b | 06KJチⅡ-2 p-a-p-b | 276 | 陶器 | 腰高鍋 | (13.0) | - | - | 表面戸輪か | 空押し | 灰状文? 扉花文? | 黄褐色 | 火を受けた痕跡? |
| 35 | 350 | Ⅱ区2面 p-c | 06KJチⅡ-2 p-c | 277 | 陶器 | 腰高鍋 | (13.0) | - | - | 表面戸輪か | 空押し | 灰状文? 扉花文? | 黄褐色 | 火を受けた痕跡? |
| 35 | 351 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 281 | 陶器 | 煎茶碗 | (7.0) | - | - | 灰釉・透明釉 | 底叩 | 灰色 | | |
| 35 | 352 | Ⅱ区2面 | 06KJチⅡ-2 | 284 | 陶器 | 鍋 | - | - | - | 白灰・透明釉 | - | 白灰による刷毛目 | 黄褐色 | |
| 35 | 353 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-3 | 298 | 陶器 | 鍋 | - | - | (4.0) | 白灰・透明釉 | - | 白灰による刷毛目 | 黄褐色 | |
| 35 | 354 | Ⅱ区A-4 | 06KJチⅡ A-4 | 281 | 陶器 | 煎茶碗 | (9.2) | - | - | 天目釉 | - | 灰白色 | | |
| 35 | 355 | Ⅱ区2面 | 06KJチⅡ-2 | 286 | 陶器 | 鍋 | - | - | - | 天目釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 356 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 276 | 陶器 | 土瓶 | (9.0) | - | - | 薄茶釉 | - | 褐色 | | |
| 35 | 357 | Ⅱ区1面 | 06KJチⅡ-1 | 294 | 陶器 | 土瓶 | (9.2) | - | - | 灰釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 358 | Ⅱ区2面 | 06KJチⅡ-2 | 297 | 陶器 | 壺 | - | - | - | 灰釉 | - | 灰色 | | |
| 35 | 359 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 290 | 陶器 | 鍋 | - | - | (4.8) | 透明釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 360 | Ⅱ区A-4 | 06KJチⅡ A-4 | 280 | 陶器 | 香炉 | (12.0) | - | - | 灰釉 | - | 黄褐色 | | 火を受けた痕跡? |
| 35 | 361 | Ⅱ区3面 p-234 | 06KJチⅡ-3 p-234 | 283 | 陶器 | 壺? | - | - | - | 灰釉 | - | 灰色 | | |
| 35 | 362 | Ⅱ区2面 A-2 | 06KJチⅡ-2 A-2 | 300 | 陶器 | 瓶 | - | - | (7.7) | 灰釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 363 | Ⅱ区2面 A-2 | 06KJチⅡ-2 A-2 | 299 | 陶器 | ? | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 把手部分か |
| 35 | 364 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 287 | 陶器 | 鍋 | - | - | 3.0 | 透明釉 | - | 白褐色 | | |
| 35 | 365 | Ⅱ区2面 A-2 | 06KJチⅡ-2 A-2 | 288 | 陶器 | 鍋 | - | - | 3.6 | 灰釉 | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 366 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-3 | 293 | 陶器 | 瓶? | - | - | (5.0) | 灰釉 | - | 白褐色 | | |
| 35 | 367 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 296 | 陶器 | 鍋? | - | - | (5.2) | 透明釉 | - | 黄褐色 | | 底面に「清水」銘 |
| 35 | 368 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 275 | 陶器 | 煎茶 | - | - | - | 透明釉 | 手掻き | 黄褐色 | ? | |
| 35 | 369 | Ⅱ区3面 | 06KJチⅡ-3 | 292 | 陶器 | 鉢鉢 | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 盛り目4本単位 |
| 35 | 370 | Ⅱ区3面 p-310 | 06KJチⅡ-3 p-310 | 27 | 土器 | かわらけ | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 胎土:白色粒子・金雲母含む |
| 35 | 371 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 249 | 土器 | かわらけ | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 底面、凹駝糸切痕 |
| 35 | 372 | Ⅱ区3面 p-224 | 06KJチⅡ-3 p-224 | 199 | 土器 | かわらけ | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 底面、凹駝糸切痕 |
| 35 | 373 | Ⅱ区3面 B-3 | 06KJチⅡ-3 B-3 | 190 | 陶器 | 大甕 | - | - | - | - | - | 灰色 | | |
| 35 | 374 | Ⅱ区1面 | 06KJチⅡ-1 | 216 | 土器 | 火鉢 | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 375 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-3 | 255 | 土器 | 火鉢 | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | |
| 35 | 376 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-2 | 256 | 土器 | 火鉢 | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 胎土:金雲母少量 |
| 35 | 377 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 217 | 土器 | 火鉢 | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | 胎土:赤色粒子ごく少量 |
| 35 | 378 | Ⅱ区3面 | 06KJチⅡ-3 | 238 | 土器 | 七徳 | (22.8) | - | - | - | - | 黄褐色 | | 胎土:白色粒子・金雲母少量 |
| 36 | 379 | Ⅱ区3面 A-3 | 06KJチⅡ-3 A-3 | 258 | ? | 土物品? | - | - | - | - | - | 黄褐色 | | |
| 36 | 380 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 257 | ? | 土物品? | - | - | - | - | - | 褐色 | | |
| 36 | 381 | Ⅱ区2面 | 06KJチⅡ-2 | 264 | 土器 | 鍋? | - | - | - | - | - | 赤褐色 | | 焼成後、内面から打ち欠いている |
| 36 | 382 | Ⅱ区 | 06KJチⅡ | 333 | ガラス製品 | ? | - | - | - | - | - | 透明無色 | | |
| 36 | 383 | Ⅱ区3面 A-2 | 06KJチⅡ-3 A-2 | 354 | 土管 | 土管 | - | - | - | - | - | 明褐色 | | |
| 36 | 384 | Ⅱ区3面 pit-a | 06KJチⅡ pit-a | 415 | 石 | - | - | - | - | - | - | - | | 火を受けている |
| 36 | 385 | Ⅱ区2面 B-3 | 06KJチⅡ-2 B-3 | 358 | 鉄 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 36 | 387 | Ⅱ区2面 A-3 | 06KJチⅡ-2 A-3 | 356 | 鉄 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 36 | 388 | Ⅱ区2面 | 06KJチⅡ-2 | 355 | 鉄 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 36 | 389 | Ⅱ区2面 A-4 | 06KJチⅡ-2 A-4 | 357 | 鉄 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 36 | 386 | Ⅱ区2面 | 06KJチⅡ-2 | 359 | 鉄 | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 38 | 403 | 立金 西トレ | 06KJチ立金西トレ | 352 | 磁器 | 鍋 | - | - | - | 自然肌・透明釉 | 手掻き | 白灰、中や肌 | | |
| 38 | 404 | 立金 西トレ | 06KJチ立金西トレ | 353 | 磁器 | 龍反碗 | 12.0 | - | - | 自然肌・透明釉 | 手掻き | 灰白色 | | |
| 38 | 405 | 立金 東トレ | 06KJチ立金東トレ | 340 | 陶器 | 鉢鉢 | - | - | - | - | - | 褐色 | | スリ目あり |
| 38 | 406 | 立金 西トレ | 06KJチ立金西トレ | 349 | 陶器 | 鍋(天目) | - | - | (3.8) | 天目釉 | - | 灰白色 | | |
| 38 | 407 | 立金 西トレ | 06KJチ立金西トレ | 348 | 陶器 | 鍋 | - | - | - | 灰釉・反釉 | - | 白褐色 | | |
| 38 | 408 | 立金 東トレ | 06KJチ立金東トレ | 351 | 磁器 | 鍋 | - | - | (4.0) | 自然肌・透明釉 | 手掻き | 白、中や肌 | | |
| 40 | 110 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試掘1トレンチ | 6 | 磁器 | 鍋 | - | - | - | 自然肌・透明釉 | 手掻き | 扉花文 | | 焼痕が認められる |

| 図版No | 報告No | 出土位置 | 遺物住記No | 実測No | 種別 | 器種等 | 法量 (cm) [現存額] (推定額) | | | 製作技法 | | 胎土 | 刷印・痕 | 備考 |
|------|------|---------|-----------|------|------|-----|---------------------|-------|-------|-----------|------|-----------------|---------|-----------|
| | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 絵付・地文 | 裝飾技法 | | | |
| 40 | 411 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 7 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内：黒文 外：草花文 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 412 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 8 | 磁器 | 鉢 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内：幾何模 外：草花文 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 413 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 24 | 磁器 | 碗 | - | - | - | コバルト・透明釉 | 手掻き | 内：黒線 外：草花文 | 灰白色、黄 | |
| 40 | 414 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 26 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 塗り | 白色、やや黄 | |
| 40 | 415 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 22 | 磁器 | 碗形陶 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 網掛草文 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 416 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 9 | 磁器 | 皿 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内：？ 外：十字星 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 417 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 10 | 磁器 | 皿 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | ？ | 白色、黄 | |
| 40 | 418 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 29 | 陶片磁器 | 土瓶 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文？ 内：幾何模 | 黒褐色 | |
| 40 | 419 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 25 | 磁器 | 鉢 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：網掛草文 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 420 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 16 | 磁器 | 碗 | 8.0 | - | - | 自然気焼・透明釉 | - | - | 白色、黄 | |
| 40 | 421 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 18 | 磁器 | 碗 | 6.8 | - | - | コバルト・透明釉 | 手掻き | 塗り | 白色、やや黄 | |
| 40 | 422 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 21 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内・外：二重網目文 | 灰白色、やや黄 | |
| 40 | 423 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 36 | 磁器 | 碗 | - | - | - | コバルト・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 灰白色、黄 | |
| 40 | 424 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 33 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内：幾何模 外：草花文 | 白色、黄 | |
| 40 | 425 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 17 | 磁器 | 碗 | 8.0 | - | - | コバルト・透明釉 | 手掻き | 草花文 | 白色、黄 | |
| 40 | 426 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 19 | 磁器 | 碗 | 9.0 | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内：黒線 外：花文 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 427 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 20 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | ？ | 白色、やや黄 | |
| 40 | 428 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 5 | 磁器 | 皿 | - | - | - | コバルト釉 | 手掻き | ？ | 灰白色、黄 | |
| 40 | 429 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 35 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 内：黒線 | 灰色、黄 | |
| 40 | 430 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 4 | 磁器 | 碗 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 外：草花文？ | 白色、黄 | 摩滅甚しい。 |
| 40 | 431 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 28 | 陶器 | 瓶 | - | - | - | 自然気焼？ | 手掻き | ？ | 灰色 | 火を受けた痕跡あり |
| 40 | 432 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 34 | 磁器 | 碗 | - | 6.0 | - | コバルト・透明釉 | ？ | - | 白色、黄 | |
| 40 | 433 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 32 | 磁器 | 皿 | - | - | - | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | ？ | 白色、やや黄 | 「大明作」 |
| 40 | 434 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 1 | 骨磁 | 皿 | (17.2) | (4.0) | (6.0) | 自然気焼 | 刷目 | - | 灰白色 | |
| 40 | 435 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 3 | 磁器 | 皿 | (12.0) | 2.1 | (6.6) | コバルト・透明釉 | ブシント | ？ | 白、黄 | |
| 40 | 436 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 2 | 磁器 | 皿 | - | - | 12.2 | 自然気焼・透明釉 | 手掻き | 網掛 | 白色、やや黄 | |
| 40 | 437 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 14 | 陶片磁器 | 壺 | 9.0 | - | - | コバルト釉 | 手掻き | 草花文 | 褐色 | |
| 41 | 438 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 31 | 陶器 | 碗？ | - | - | - | 灰物 | - | - | 灰白色 | |
| 41 | 439 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 40 | 陶器 | 鉢 | - | - | - | 灰物 | - | - | 白色 | |
| 41 | 440 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 37 | 陶器 | 灯明皿 | - | - | - | 灰物 | - | - | 灰褐色 | |
| 41 | 441 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 39 | 陶器 | 碗？ | - | - | - | 外：灰物 内：灰物 | - | - | 灰褐色 | |
| 41 | 442 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 11 | 陶器 | 鉢形 | - | - | - | 灰物 | - | - | 白色 | |
| 41 | 443 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 13 | 土器 | 火鉢 | - | - | - | - | - | - | 褐色 | |
| 41 | 444 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 30 | 陶器 | 杯形 | - | - | - | 灰物 | - | - | 褐色 | |
| 41 | 445 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 41 | 陶器 | 土瓶？ | (16.0) | - | - | 灰物 | - | - | 灰褐色 | |
| 41 | 446 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 38 | 陶器 | 小壺 | (18.4) | - | - | 灰物 | - | - | 褐色 | 火を受けた痕跡 |
| 41 | 447 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 23 | 陶器 | 土瓶 | - | - | - | 灰物 | - | - | 褐色 | |
| 41 | 448 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 27 | 陶器 | 土瓶 | - | - | - | 灰物、白灰 | - | - | 灰褐色 | |
| 41 | 449 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 15 | 陶器 | 皿 | - | - | (4.8) | 灰物 | - | - | 灰褐色 | |
| 41 | 450 | 試掘1トレンチ | 02KJチ試1トレ | 12 | 陶器 | 網木鉢 | - | - | (8.8) | 灰物 | - | - | 白褐色 | |

表3 土器類遺物観察表

| 図例% | 図例% | 出土状況 | 遺物番号 | 実測図寸 | 種類 | 器種 | 時期 | 口徑 | 高さ | 底径 | 形状 | 色調 | 胎土 | 地味 | 内存在 | 備考 | |
|-----|-----|-----------|--------------------------|------|------|--------|--------|--------|-------|--------|------------------------|------|-----------------|------|-----|----------------------|--|
| 22 | 80 | Ⅱ区1層 | p656 | 83 | 土師器 | 甕 | 平安 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：ナデ | 褐色色 | 白色粒子 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 81 | Ⅱ区1層 | p642 | 92 | 土師器 | 甕 | 平安 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：厚縁 | 黄褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 82 | Ⅱ区1層 | p439 | 84 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外、内底ともハケ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 83 | Ⅱ区1層 | p180 | 86 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：ハケナデ | 黄褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 84 | Ⅱ区1層 | p442 | 92 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：ヨコハケ | 黄褐色色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 65 | Ⅱ区3層 | p47 | 4 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外、内底ともにハケ | 黄褐色色 | 白色粒子・角閃石 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 86 | Ⅱ区1層 | p263,367 | 94 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外、内底：ハケ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子ごく少量 | やや破片 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 87 | Ⅱ区1層 | p561 | 62 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底：ハケナデ、内底ナデ | 褐色色 | 白色粒子を少量含む | やや破片 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 88 | Ⅱ区2層 | p452 | 82 | 土師器 | 坪 | 古墳 | - | - | - | 外底：ナズリ、内底：ナデ | 黄褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 89 | Ⅱ区1層 | p204 | 87 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底：ナズリ、内底：ハケ | 黄褐色色 | 白色粒子ごく少量 | やや破片 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 70 | Ⅱ区1層 | p445 | 90 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外、内底ともハケ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 71 | Ⅱ区1層 | p554 | 85 | 土師器 | 甕 | 平安 | - | - | - | 外、内底ともハケ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 72 | Ⅱ区1層 | p526,533 | 93 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：ヨコハケ | 黄褐色色 | 白色粒子・金雲母ごく少量 | やや破片 | 破片 | | |
| 22 | 73 | Ⅱ区3層 | p61 | 2 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外、内底ともにナデ | 黄褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 74 | Ⅱ区2層 | p4641 | 6 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外、内底ともにハケ | 黄褐色色 | 白色粒子・角閃石少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 75 | Ⅱ区1層 | p372 | 63 | 土師器 | 甕 | 弥生末～古墳 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：ハケ | 黄褐色色 | 白色粒子・金雲母ごく少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 76 | Ⅱ区1層 | p379 | 91 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外、内底とも厚縁甚しく不明 | 黄褐色色 | 白色粒子ごく少量 | やや破片 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 77 | Ⅱ区1層 | p479 | 58 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底：ナズリ、内底：ハケ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 22 | 78 | Ⅱ区1層 | p1 | 114 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外底：ミガキ | 黄褐色色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 22 | 79 | Ⅱ区1層 | p1 | 117 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外、内底とも厚縁甚しく不明 | 黄褐色色 | 赤 | 良 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 22 | 80 | Ⅱ区1層 | p491 | 222 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 内底：ミガキ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | 内底：赤影、外面口は鉄片付 | |
| 22 | 81 | Ⅱ区1層 | p2 | 16 | 土師器 | 甕 | 弥生末～古墳 | - | - | - | 口縁部・折り返し口縁 | 黄褐色色 | 白色粒子・角閃石 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 82 | Ⅱ区1層 | p33 | 198 | 土師器 | 甕 | 平安 | - | - | - | 外、内底ともにナデ | 黄褐色色 | 赤 | やや破片 | 破片 | | |
| 22 | 83 | Ⅱ区1層 | p275 | 54 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (13.8) | - | - | 外、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色粒子・長石少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 84 | Ⅱ区1層 | p620 | 10 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (15.8) | - | - | 外、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色粒子・石英少量 | やや破片 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 85 | Ⅱ区1層 | 4 E p4 | 182 | 土師器 | 甕 | 平安 | (20.0) | - | - | 外、内底：ナデ | 黄褐色色 | 白色粒子 | 良好 | 破片 | | |
| 22 | 86 | Ⅱ区1層 | p480 | 56 | 土師器 | 甕(煎茶器) | 平安 | (20.0) | - | - | 外底：ナズリ、内底：ナデ・口唇部内面肥厚 | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 22 | 87 | Ⅱ区1層・2層 | p57,294,398 | 81 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底：ハケ、内底：ヨコハケ | 黄褐色色 | 赤・白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 88 | Ⅱ区1層 | p382～388 | 64 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外、内底：ハケナデ | 黄褐色色 | 赤色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 89 | Ⅱ区3層 | p82 | 197 | 土師器 | 甕(煎茶器) | 平安 | - | - | - | 口唇部内面肥厚 | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子まじり少量 | 良好 | 破片 | | |
| 22 | 90 | Ⅱ区1層 | p547 | 67 | 土師器 | 羽釜 | 平安 | - | - | - | 内底：ハケ | 黄褐色色 | 赤色・白色・黒色粒子少量 | やや破片 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 91 | Ⅱ区1層 | p417 | 42 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外底：藍いヘラ削り、内底：ヨコナデ | 黄褐色色 | 白色粒子・赤色粒子・金雲母少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 92 | Ⅱ区1層 | p123 | 41 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外底：口縁端部埋いナデ・ヘラ削り、内底：ナデ | 黄褐色色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 93 | Ⅱ区1層 | p352 | 50 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (12.0) | - | - | 外底：口縁端部埋いナデ・ヘラ削り、内底：ナデ | 黄褐色色 | 金雲母少量、赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 94 | Ⅱ区1層 | p271 | 43 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (12.0) | (4.4) | - | 外底：口縁端部埋いナデ・ヘラ削り、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 95 | Ⅱ区1層 | p423 | 52 | 土師器 | 坪 | 平安 | (12.0) | - | - | 外底、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 22 | 96 | Ⅱ区1層 | p351,383,394,396,391,392 | 48 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (13.0) | - | - | 外底：口縁端部埋いナデ・ヘラ削り、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量、雲母少量 | 良 | 60% | 破片 | |
| 22 | 97 | Ⅱ区1層 | p191,424,426 | 47 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外底：ヘラ削り、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良 | 30% | 破片 | |
| 22 | 98 | Ⅱ区1層 | p418,422 | 44 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (11.8) | (5.7) | (8.0) | 外底：口縁端部埋いナデ・ヘラ削り、内底：ナデ | 褐色色 | 赤色粒子・白色粒子少量 | 良 | 30% | 破片 | |
| 22 | 99 | Ⅱ区1層 | p198 | 53 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (15.4) | - | - | 外底：ナデミガキ、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色粒子・金雲母少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 100 | Ⅱ区1層 | p264 | 49 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 内底：ナデ | 褐色色 | 金雲母少量、赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 101 | Ⅱ区1層 | p567 | 51 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外底、内底：ナデ | 黄褐色色 | 赤色粒子少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 102 | Ⅱ区1層 | p123 | 40 | 土師器 | 小甕 | 古墳後期 | (13.0) | - | - | 外底：ヘラナデ、内底：ハケ | 褐色色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 103 | Ⅱ区1層、Ⅱ区2層 | p243,403 | 39 | 土師器 | 小甕 | 古墳後期 | (15.0) | - | - | 外底：ヘラ削り、内底：ヘラナデ | 黄褐色色 | 石灰・白色粒子少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 104 | Ⅱ区1層 | p487 | 46 | 土師器 | 坪 | 平安 | (13.0) | - | - | 外底：ナデ、内底：口縁部：ミガキ | 黄褐色色 | 赤色、白色粒子少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 105 | Ⅱ区1層 | . | 21 | 土師器 | 坪 | 平安 | - | - | - | 外、内底ともに厚縁甚しく不明 | 黄褐色色 | 赤 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 106 | Ⅱ区1層 | p163,447 | 66 | 土師器 | 高坪 | 古墳 | - | - | - | 外、内底：ナデミガキ? | 黄褐色色 | 赤色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 107 | Ⅱ区1層 | p183 | 183 | 土師器 | 底面穿孔鉢 | 古墳 | - | - | (15.0) | 外、内底ともに厚縁甚しく不明 | 黄褐色色 | 白色粒子・金雲母少量 | 良 | 破片 | 厚縁 | |
| 22 | 109 | Ⅱ区3層 | p72 | 189 | 赤土師器 | 坪 | 古墳後期 | (8.0) | - | - | 外底：回転ヘラナズリ、内底：回転ナデ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | | |
| 22 | 110 | Ⅱ区2層 | p353 | 110 | 赤土師器 | 無蓋高坪 | 古墳後期 | 10.0 | - | - | 外底：回転ヘラナズリ・ナデ、内底：ナデ | 暗青灰色 | 赤 | 良 | 40% | 破片 | |
| 22 | 111 | Ⅱ区1層 | p372 | 59 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底：ナデ・ハケ、内底：ハケ | 黄褐色色 | 白色粒子・金雲母少量 | 良 | 破片 | | |
| 22 | 112 | Ⅱ区1層 | . | 57 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (23.0) | - | - | 外底：ナズリ、内底：ナデ・ハケ | 黄褐色色 | 金雲母少量、白色粒子少量 | 良 | 破片 | 口縁部と胴部の接合部分にヨコハケみられる | |

| 90% | 報告% | 引上げ費 | 遺物番号 | 実測番号 | 種別 | 器種 | 時期 | 口径 | 器高 | 底径 | 形状 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 検出率 | 備考 |
|-----|-----|------|----------------------------------------------------------------|-----------|-----|--------|--------|--------|-------|--------|----------------------------|------|-----------------|-----|------|-------------|
| 23 | 113 | 日区1型 | 4上 p2.5 | 181 | 土師器 | 小甕 | 平安 | (14.0) | - | - | 外底:ハケナナド、内面:ナド | 褐色色 | 白色胎子・金雲母少量 | 良好 | 破片 | |
| 23 | 114 | 日区1型 | p355.356.366, 374.375.377.3 85.386.388, 9.395.396.560 | 60 61 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (26.4) | - | - | 外、内面:ハケ | 褐色色 | 白色胎子・金雲母少量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 115 | 日区1型 | p268 | 69 | 土師器 | 竹付甕 | 古墳 | - | - | - | 外、内面:ハケナナド? | 褐色色 | 白色胎子少量 | 良 | 破片 | 摩滅 |
| 24 | 116 | 日区1型 | p292 | 115 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | - | 外底:ナドミガキ | 褐色色 | 赤 | 良 | 破片 | 外底赤皮 |
| 24 | 117 | 日区1型 | p342 | 68 | 土師器 | 竹付甕 | 古墳 | - | - | - | 外底:ハケ | 褐色色 | 白色胎子 | 良 | 破片 | 摩滅、接合部あり |
| 24 | 118 | 日区1型 | p352 | 65 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | - | 外、内面:ナドミガキ? | 褐色色 | 白色胎子ごく少量 | 良 | 破片 | 摩滅 |
| 24 | 119 | 日区1型 | p205.538.540 | 73 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | (5.5) | 外底:ハケナナド?、内面:ハケ | 褐色色 | 白色胎子少量 | やや軟 | 30% | 摩滅 |
| 24 | 120 | 日区1型 | p126.196.203, 415 | 80 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | 6.8 | 外底:鎌字後ケヅリ 内面:ナド | 褐色色 | 白色胎子多量 | 良 | 破片 | 40% |
| 24 | 121 | 日区1型 | p227 | 75 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | (11.0) | 外底:ハケ、内面:ナド、底部:本葉痕 | 褐色色 | 赤色、白色胎子少量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 122 | 日区1型 | p407.425 | 72 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (9.6) | 外底:ハケナナド?、底部:本葉痕 | 褐色褐色 | 白色胎子多量 | やや軟 | 破片 | 摩滅 |
| 24 | 123 | 日区1型 | p335.536 | 71 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (11.0) | 底部:本葉痕 | 赤褐色 | 白色、赤色胎子少量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 124 | 日区1型 | p614 | 79 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (3.8) | 底部:本葉痕 | 褐色色 | 白色胎子多量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 125 | 日区1型 | p193 | 89 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底:(ハケ)底部:若い部分:ヨコナド?、内面:ナド | 褐色褐色 | 白色胎子多量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 126 | 日区1型 | p650 | 70 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (9.6) | 外底:ハケナナド | 褐色色 | 白色胎子 | やや軟 | 破片 | 摩滅、黒石とともに出土 |
| 24 | 127 | 日区1型 | p551 | 77 | 土師器 | 鉢 | 古墳後期 | - | - | (5.0) | 外底:ケヅリ、内面:ハケナナド | 褐色色 | 赤色、白色、黒色胎子少量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 128 | 日区1型 | p569 | 111 | 土師器 | 竹付甕 | 古墳時代前期 | (20.0) | - | - | 外底:ハケ、口唇部:朝み目、内面:ハケナナド | 褐色 | 白、赤色胎子・金雲母多量 | 良 | 80% | 胴部分にコゴあり |
| 24 | 129 | 日区1型 | p273 | 112 | 土師器 | 坪 | 平安? | - | - | - | 外、内面とも摩滅著しく不明、底部:糸切り痕 | 褐色 | 白、黒、赤色胎子多量 | やや軟 | 破片 | |
| 24 | 130 | 日区1型 | p485.486 | 45 | 土師器 | かわらけ | 江戸? | (9.0) | (2.9) | (6.8) | 外底・内面:ハケナナド?、底部:糸切り痕 | 褐色色 | 黒色胎子・赤色胎子・金雲母少量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 131 | 日区1型 | p60 | 26 | 土師器 | かわらけ | 江戸 | (6.6) | 1.2 | (3.6) | 外底・内面:ナド、底部:糸切り痕 | 褐色色 | 白、赤色胎子多量、雲母少量 | 良 | 破片 | |
| 24 | 132 | 別表 | | 83 | 陶器 | | | | | | | | | | | 別表 |
| 24 | 133 | 別表 | | 151 | 陶器 | | | | | | | | | | | 別表 |
| 25 | 134 | 日区1型 | p602 | 204 | 土師器 | 土玉 | 古墳 | - | - | - | | 褐色色 | 全金雲母 | 良 | 100% | |
| 25 | 135 | 日区1型 | p472 | 104 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 25 | 136 | 日区1型 | p483 | 101 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 25 | 137 | 日区1型 | p475 | 105 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | 摩滅 |
| 25 | 138 | 日区1型 | p254.258 | 113 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 25 | 139 | 日区1型 | p566 | 107 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 25 | 140 | 日区1型 | p55.477.518 268 | 102 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 25 | 141 | 日区1型 | p354.442.473, 541 | 99 272 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 26 | 142 | 日区1型 | p565 | 108 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 26 | 143 | 日区1型 | p481.530 | 106 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 26 | 144 | 日区1型 | p478 | 109 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 26 | 145 | 日区1型 | p474 | 103 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 26 | 146 | 日区3型 | p522 | 273 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 26 | 147 | 日区3型 | p526 | 269 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 26 | 148 | 日区3型 | p534 | 270 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 26 | 149 | 日区3型 | p47 | 38 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 26 | 150 | 日区1型 | p256 | 100 | 須恵器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外底:タタキ、内面:タタキ | 灰色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 27 | 151 | 日区2型 | | 125 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | - | - | - | 外、内面:ナド?、口唇部:貝殻めみ目 | 褐色 | 白色胎子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 152 | 日区2型 | p36 | 124 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | - | - | - | 口唇部:朝み目 | 褐色色 | 白色胎子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 153 | 日区2型 | p60 | 126 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | - | - | - | 外、内面ともにハケ、口唇部:朝み目 | 褐色褐色 | 白色胎子・金雲母ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 154 | 日区2型 | p453 | 123 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | (18.0) | - | - | 外、内面ともにナド?、口唇部:朝み目 | 褐色褐色 | 白色胎子・金雲母ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 155 | 日区2型 | p452 | 122 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | (20.0) | - | - | 口唇部:朝み目 | 褐色色 | 白色胎子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 157 | 日区2型 | p67.76.77.80 | 132 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 口唇部:虎脚文、内面:ナド | 褐色色 | 白色胎子 | やや軟 | 破片 | |
| 27 | 158 | 日区2型 | p83 | 5 | 土師器 | 有段口鉢甕? | 古墳 | - | - | - | 有段部:虎脚文 | 褐色色 | 白色胎子 | 良 | 破片 | |
| 27 | 159 | 日区2型 | p4 | 136 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外底:削り出し残部・虎脚文、内面:ハケナナド | 褐色色 | 白色胎子少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 160 | 日区2型 | p43.72 | 120 | 土師器 | 鉢(群1) | 古墳 | (14.0) | - | - | 外、内面とも摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色胎子・金雲母ごく少量 | やや軟 | 30% | |
| 27 | 161 | 日区2型 | p14 | 119 | 土師器 | 短 | 古墳 | (17.0) | - | - | 外底:ハケナナド?、内面:ナド | 褐色色 | 白色胎子・金雲母少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 162 | 日区2型 | p16 | 173 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | (11.8) | - | - | 外、内面ともにミガキ | 褐色色 | 赤色、白色胎子少量 | 良 | 破片 | 摩滅著しい |
| 27 | 163 | 日区2型 | p88 | 129 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (11.0) | - | - | 外底:口輪部ヨコナド?・縁部ケヅリ、内面:ナド | 褐色 | | 良 | 破片 | |

| 図例No | 報告No | 出土位置 | 遺物番号 | 支那館番号 | 種類 | 加種 | 時期 | 口径 | 高さ | 底径 | 数量 | 色調 | 胎土 | 構成 | 残存率 | 備考 |
|------|------|--------|--------------------------|-------|-----|-----|----------|--------|------|--------|--------------------------|-----|---------------|------|-----|---------|
| 27 | 164 | Ⅱ区2型 | p12.13.28 | 137 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (22.4) | 3.5 | - | 外面：白線部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ナデ | 褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 50% | |
| 27 | 165 | Ⅱ区2型 | p92 | 178 | 甕蓋部 | 杯身 | 古墳後期 | (9.3) | 3.2 | - | 外面：回転ヘラケズリ、内面：回転ヨコナデ | 灰色 | 赤 | 良好 | 30% | |
| 27 | 166 | Ⅱ区2型 | p325 | 133 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ケズリ、内面：ハケナデ | 褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 167 | Ⅱ区2型 | p33 | 127 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (14.0) | - | - | 外面：白線部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ハケナデ | 暗褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 168 | Ⅱ区2型 | p89 | 130 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (17.0) | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色 | 白色粒子少量 | 良好 | 破片 | 表面に鉄分付着 |
| 27 | 169 | Ⅱ区2型 | p98 | 121 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (21.0) | - | - | 外面：白線部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ナデ | 暗褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 27 | 170 | Ⅱ区2型 | p342 | 118 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (20.0) | - | - | 外面：摩滅、内面：ナデ | 暗褐色 | 白色粒子少量 | やや軟弱 | 破片 | |
| 27 | 171 | Ⅱ区2型 | p5 | 131 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (20.0) | - | - | 外・内面ともナデ | 暗褐色 | 白色粒子 | 良好 | 破片 | |
| 28 | 172 | Ⅱ区2型 | p64 | 176 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (20.0) | - | - | 外・内面ともナデ? | 暗褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | 内外面とも赤彩 |
| 28 | 173 | Ⅱ区2型 | p65.101 | 175 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケケ、内面：ナデ | 褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | 内外面とも赤彩 |
| 28 | 174 | Ⅱ区2型 | - | 174 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 暗褐色 | 白色粒子ごく少量 | やや軟弱 | 破片 | 内外面とも赤彩 |
| 28 | 175 | Ⅱ区2型 | p68 | 223 | 土師器 | ? | 古墳 | - | - | - | 外面：ケズリ?、内面：ナデ | 赤 | 赤 | 良 | 破片 | 外面：赤彩 |
| 28 | 176 | Ⅱ区2型 | p30.62.303.312.317 | 134 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | - | - | - | 外面：ケズリ、内面：ハケナデ | 褐色 | 赤色・白色粒子 | 良 | 破片 | |
| 28 | 177 | Ⅱ区2型 | p13.17.44.47.50.52.59.70 | 180 | 土師器 | 甕 | 古墳前期 | (16.8) | 22.9 | (8.0) | 外面：ヘラケズリ、内面：ハケ・オヤエ | 褐色 | 赤色・白色粒子、金雲母少量 | 良 | 70% | |
| 28 | 178 | Ⅱ区2型 | p20 ~ 41.74 | 135 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともナデ | 暗褐色 | 白色粒子・金雲母少量 | やや軟弱 | 破片 | |
| 28 | 179 | Ⅱ区2型 | p299 | 37 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 暗褐色 | 赤 | やや軟弱 | 破片 | |
| 28 | 180 | Ⅱ区2型 | p61.217.219 | 138 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (6.4) | 外面：ハケ、内面：ハケナデ、底面：木葉部 | 暗褐色 | 白色・黒色粒子 | 良 | 破片 | |
| 28 | 181 | Ⅱ区2型 | p78.344 | 139 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | (6.6) | 外・内面ともナデ | 暗褐色 | 白色・黒色粒子、金雲母少量 | 良 | 破片 | |
| 28 | 182 | Ⅱ区2型 | p87 | 177 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外面：押し引き文・ナデ、内面：ナデ | 暗褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 28 | 183 | 別表 | | 179 | 土師器 | | | | | | | | | | | 別表 |
| 29 | 184 | Ⅱ区4型 | p514 | 140 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ナデ | 暗褐色 | 白色粒子を少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 185 | Ⅱ区4型 | p577 | 147 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ハケ、ナデ | 暗褐色 | 白色粒子を少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 186 | Ⅱ区4型 | p494.495 | 146 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ナデ | 褐色 | 白色・黒色粒子を少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 187 | Ⅱ区4型 | p588 | 149 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：オヤエ・ナデ | 暗褐色 | 白色粒子を少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 188 | Ⅱ区4型 | p589 | 142 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面：ナデ | 暗褐色 | 白色粒子を少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 189 | Ⅱ区4型 | p596 | 145 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外：ナデ、内面：ヨコナデ | 暗褐色 | 白色粒子をごく少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 190 | Ⅱ区4型 | p604 | 150 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ヨコナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 191 | Ⅱ区4型 | p571 | 144 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ハケ、ナデ | 暗褐色 | 白色粒子を少量 | 良 | 破片 | スス付着 |
| 29 | 192 | Ⅱ区4型 | p600 | 143 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ナデ | 褐色 | 白色粒子・角閃石少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 193 | Ⅱ区4型 | p603 | 165 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (12.2) | - | - | 外面：白線部ヨコナデ、内面：ナデ・黒色斑理 | 暗褐色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 29 | 194 | Ⅱ区4型 | p499 | 161 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | (10.1) | 外面：ナデ、内面：ケズリ | 暗褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| 29 | 195 | Ⅱ区4型 | p605 | 162 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 暗褐色 | 白色粒子少量 | 軟弱 | 破片 | 摩滅 |
| 29 | 196 | Ⅱ区4型 | p626 | 166 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (20.0) | - | - | 外・内面ともナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 197 | Ⅱ区4型 | p621 | 156 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | - | 外・内面：ナデとナデ? | 暗褐色 | 赤色粒子少量 | やや軟弱 | 破片 | 摩滅 |
| 29 | 198 | Ⅱ区4型 | p609 | 163 | 土師器 | 竹付甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにハケ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | やや軟弱 | 破片 | 摩滅 |
| 29 | 199 | Ⅱ区4型 | p606 | 154 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色 | 白色粒子を少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 200 | Ⅱ区3面 | p149 | 11 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 暗褐色 | 白色粒子をごく少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 201 | Ⅱ区4型 | p606 | 156 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外：ケズリ・白線部縁側ナデ、内面：ナデ | 暗褐色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 29 | 202 | Ⅱ区3・4型 | - | 167 | 土師器 | 杯身 | 古墳後期 | (7.8) | - | - | 外面：ケズリ、内面：ヨコナデ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 29 | 203 | Ⅱ区3・4型 | p191.192 | 170 | 土師器 | 高杯 | 古墳 | - | - | - | 外・内面：ナデ | 暗褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 204 | Ⅱ区4型 | p627 | 157 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (13.0) | - | - | 外・内面：ミヅキ | 暗褐色 | 赤 | 良好 | 破片 | 摩滅 |
| 29 | 205 | Ⅱ区4型 | p610.51.6.604 | 168 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (14.2) | - | - | 外面：白線部ヨコナデ・体部ケズリ、内面：ナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 206 | Ⅱ区4型 | p611 | 152 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | - | 外面：ケズリ、内面：ナデ? | 暗褐色 | 赤色・白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 207 | Ⅱ区4型 | p606 | 158 | 土師器 | 甕? | 古墳 | - | - | (6.0) | 外面：ハケナデ?、内面：ケズリ、底面：木葉部 | 暗褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 209 | Ⅱ区4型 | 一括 | 160 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (9.2) | 外：ハケ、内面：ナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 210 | Ⅱ区4型 | p622 | 159 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (6.0) | 外面：ハケ、内面：ナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 211 | Ⅱ区3・4型 | p615 | 164 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (24.0) | - | - | 縁部：横いヨコナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 212 | Ⅱ区4型 | p501 | 151 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (26.0) | - | - | 縁部：横いヨコナデ、体部：ハケ、内面：ナデ | 暗褐色 | 赤色・白色粒子・金雲母少量 | 良 | 破片 | |
| 29 | 213 | Ⅱ区4型 | p612 | 171 | 土製 | 土玉 | 古墳 | - | - | - | | 暗褐色 | 白色粒子を少量 | やや軟弱 | 破片 | 摩滅 |
| 30 | 214 | Ⅱ区3面 | p528.587 | 265 | 甕蓋部 | 大甕 | 古墳後期 | (26.4) | - | - | 外面：回転ナデ・タタキ、内面：タタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 30 | 215 | Ⅱ区3・4型 | p629 | 169 | 甕蓋部 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外面：タタキ、内面：タタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | |
| 31 | 216 | Ⅱ区3面 | | 262 | 土師器 | 甕 | 奈良末~古墳前期 | - | - | - | 白線部：期みじ | 褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| 31 | 217 | Ⅱ区3面 | | 261 | 土師器 | 甕 | 奈良末~古墳前期 | - | - | - | 白線部：期みじ | 暗褐色 | 白色粒子をごく少量 | 良 | 破片 | |
| 31 | 218 | Ⅱ区3面 | | 247 | 土師器 | 甕 | 奈良末~古墳前期 | - | - | - | 白線部：期みじ | 暗褐色 | 白色粒子をごく少量 | 良 | 破片 | |

| 図例% | 報告% | 出土位置 | 遺物番号 | 発掘番号 | 種別 | 器種 | 時期 | 口径 | 器高 | 底径 | 形状 | 色澤 | 胎土 | 焼成 | 検存率 | 備考 |
|-----|-----|---------------|----------|------|-----|-------|----------|--------|----|-------|-------------------------|-----|--------------|-----|-----|---------|
| | 31 | 219 Ⅱ区 3面 | p464 | 202 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | (18.0) | - | - | 口縁部：斜み目、外・内面ともにハケ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 220 Ⅱ区 3面 A-2 | - | 244 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | (14.0) | - | - | 口縁部：斜み目 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 221 Ⅱ区 3面 B-4 | - | 250 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | (18.0) | - | - | 口縁部：斜み目、外・内面ともにハケ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 222 Ⅱ区 3面 | - | 239 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | (16.2) | - | - | 口縁部：斜み目、外面：ハケ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 223 Ⅱ区 3面 | p636 | 200 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | (20.0) | - | - | 口縁部：貝殻状斜み目 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 224 Ⅱ区 3面 B-3 | - | 211 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 225 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 213 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 226 Ⅱ区 3面 | - | 210 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 227 Ⅱ区 | - | 241 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 228 Ⅱ区 2面 | p15 | 195 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 229 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 240 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 230 Ⅱ区 | p238 | 98 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面：ハケナデ | 黄褐色 | 赤褐色 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 231 Ⅱ区 3面 | p051 | 95 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面：ナデ、内面：ハケ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 232 Ⅱ区 3面 | p100 | 14 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 233 Ⅱ区 3面 | p297 | 23 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 口縁部：ヨコナデ、底部：ケズリ、内面：ヨコナデ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 234 Ⅱ区 2面 | - | 140 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面：ハケ | 褐色 | 白色粒子・少量得ごく少量 | やや軟 | 破片 | |
| | 31 | 235 Ⅱ区 3面 | p648 | 28 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ナデ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 236 Ⅱ区 3面 | p214 | 29 | 土師器 | 甕 | 平安 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ナデ | 黄褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 237 Ⅱ区 3面 | p208 | 3 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外・内面ともにハケ | 黄褐色 | 白色粒子・角閃石少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 238 Ⅱ区 2面 A-4 | - | 212 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにハケ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 239 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 224 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにハケ | 黄褐色 | 赤褐色少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 240 Ⅱ区 1層、遺物外 | p6 | 94 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外・内面：ハケナデ | 黄褐色 | 白色粒子 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 241 Ⅱ区 3面 | p454 | 9 | 土師器 | 甕 | 平安 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ナデ | 黄褐色 | 白色粒子・少量得ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 242 Ⅱ区 3面 | p67 | 18 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 口縁部：斜り返し口縁 | 黄褐色 | 白色粒子 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 243 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 263 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 口縁部：斜り返し口縁 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 244 | p637 | 12 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 外面：ハケ、口縁部：斜り返し口縁 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 245 Ⅱ区 3面 A-2 | - | 261 | 土師器 | 甕 | 有段口縁甕 | - | - | - | 右肩部：弦文 | 黄褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 246 Ⅱ区 3面 | - | 141 | 土師器 | 甕 | 甕 | - | - | - | 胎土：強いヨコナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 247 Ⅱ区 3面 A-2 | - | 206 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ハケナデ | 黄褐色 | 白色粒子・少量得ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 248 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 259 | 土師器 | 有段口縁甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 249 Ⅱ区 3面 | p640 | 15 | 土師器 | 甕 | 弥生末~古墳前期 | - | - | - | 外面：ハケ、内面：ハケナデ | 黄褐色 | 白色粒子・少量得ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 250 Ⅱ区 3面 | p285 | 10 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 口縁部：強いヨコナデ、内面：ナデ | 黄褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| | 31 | 251 Ⅱ区 3面 | p252 | 17 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 内面：ハケナデ | 黄褐色 | 白色粒子・少量得ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 252 Ⅱ区 3面 B-3 | - | 253 | 土師器 | 鉢? | ? | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 黄褐色 | 白色粒子・角閃石 | 軟 | 破片 | 摩滅 |
| | 32 | 253 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 214 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 254 Ⅱ区 3面 | p71 | 22 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 255 Ⅱ区 2面 | - | 207 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 256 Ⅱ区 3面 | p318 | 25 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 口縁部：強いナデ、底部：ケズリ | 黄褐色 | 少量得・角閃石ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 257 Ⅱ区 3面 | p662 | 24 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 口縁部：強いナデ、底部：ケズリ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 258 Ⅱ区 3面 | p818 | 23 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 口縁部：強いナデ、底部：ケズリ、内面：ナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 259 Ⅱ区 2面 | p=1 | 194 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (10.0) | - | - | 口縁部：強いナデ、胎土：ケズリ、内面：ナデ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | 内面：黒色胎土 |
| | 32 | 260 Ⅱ区 2面 A-3 | - | 243 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (12.0) | - | - | 口縁部：強いナデ、胎土：ケズリ、内面：ナデ | 黄褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 261 Ⅱ区 3面 B-2 | - | 252 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | - | - | - | 胎土：ケズリ、内面：ナデ | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | 外面：黒色胎土 |
| | 32 | 262 Ⅱ区 3面 | p230 | 203 | 土師器 | 坪 | 古墳 | (14.0) | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 264 Ⅱ区 3面 | p248 | 248 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (12.0) | - | (2.4) | 口縁部：強いナデ、胎土：ケズリ、内面：ナデ | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 265 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 260 | 土師器 | 坪 | 古墳後期 | (14.0) | - | - | 口縁部：強いナデ、胎土：ケズリ、内面：ナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 266 Ⅱ区 2面 | p22 | 30 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 267 Ⅱ区 3面 | p466 | 7 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 268 Ⅱ区 3面 | p263 | 192 | 土師器 | 付付甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 269 Ⅱ区 2面 | p13 | 31 | 土師器 | 付付甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | やや軟 | 破片 | |
| | 32 | 270 Ⅱ区 3面 | p296 | 201 | 土師器 | 高坪 | 古墳 | (18.2) | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | 摩滅 |
| | 32 | 271 Ⅱ区 3面 | p66 | 20 | 土師器 | 高坪? | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 272 Ⅱ区 3面 B-3 | - | 254 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 白色粒子ごく少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 273 Ⅱ区 3面 | p283,284 | 8 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | (20.8) | - | - | 外面口縁部：ナデ、内面・胎土：ハケ | 黄褐色 | 白色粒子少量 | 良 | 破片 | |
| | 32 | 274 Ⅱ区 3面 A-3 | - | 213 | 土師器 | 坪 | 平安 | - | - | - | 外・内面ともにナデ | 黄褐色 | 赤色 | 良 | 破片 | |

| 図例No | 報告No | 出土層数 | 遺物番号 | 実測番号 | 種別 | 器種 | 時期 | 口径 | 器高 | 底径 | 形状 | 色調 | 胎土 | 焼成 | 残存率 | 備考 | |
|------|------|-----------|------|------|-----|----|-------|--------|-------|--------|------------------------|-----|--------------|-----|-----|----------|---------|
| 32 | 275 | Ⅱ区 | - | 246 | 土師器 | 杯 | 平安 | (12.0) | - | - | 外・内面ともにナデ | 褐色色 | 赤色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 276 | Ⅱ区 3面 A-3 | - | 242 | 土師器 | 杯 | 平安 | (13.0) | - | - | 外・内面ともにナデ | 褐色色 | 赤色・白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 277 | Ⅱ区 1面 | p9 | 19 | 土師器 | 杯 | 平安 | (13.6) | (4.2) | (6.0) | 外・内面：ナデ、底部：回転糸切り痕 | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 278 | Ⅱ区 3面 B-4 | - | 209 | 土師器 | 杯 | 平安 | (14.0) | - | - | 外・内面ともにナデ | 褐色色 | 赤色・白色粒子ごく少量 | やや軟 | 破片 | 摩滅 | |
| 32 | 279 | Ⅱ区 3面 B-4 | - | 208 | 土師器 | 盃 | 平安 | (14.0) | - | - | 外・内面ともにナデ | 褐色色 | 赤色・白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 280 | Ⅱ区 3面 | p619 | 193 | 土師器 | 甕 | 古墳 | - | - | (6.0) | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 281 | Ⅱ区 3面 | p170 | 39 | 土師器 | 甕? | ? | - | - | (10.0) | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 282 | Ⅱ区 2面 A-2 | - | 205 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | (14.0) | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 283 | Ⅱ区 3面 | p320 | 37 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | (6.0) | 外面：ハケ、内面：ナデ、底部：本敷成 | 褐色色 | 白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 32 | 284 | Ⅱ区 2面 | p31 | 34 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | (7.0) | 底面：本敷成 | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 285 | Ⅱ区 3面 | p119 | 33 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 底面：本敷成 | 褐色色 | 赤色・白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 286 | Ⅱ区 2面 | - | 35 | 土師器 | ? | ? | - | - | (7.0) | 底面：本敷成 | 褐色色 | 赤色・白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 287 | Ⅱ区 1号、遺構外 | p492 | 78 | 土師器 | 甕 | 弥生～古墳 | - | - | (10.0) | 外面：ハケナデ、内面：ナデ、底部：ハケ目 | 褐色色 | 白色・黒色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 288 | Ⅱ区 1号、遺構外 | p469 | 76 | 土師器 | ? | ? | - | - | (8.0) | 外・内面：ハケナデ? | 褐色色 | 白色粒子少量 | 良好 | 破片 | 摩滅 | |
| 33 | 289 | Ⅱ区 3面 B-3 | - | 228 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 軟 | 破片 | 外面：赤影 | |
| 33 | 290 | Ⅱ区 | - | 231 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 291 | Ⅱ区 3面 A-3 | - | 235 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 赤 | 軟 | 破片 | 内面：赤影 | |
| 33 | 292 | Ⅱ区 3面 B-3 | - | 234 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 赤 | 軟 | 破片 | 内面：赤影 | |
| 33 | 293 | Ⅱ区 2面 | - | 227 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 赤 | やや軟 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 294 | Ⅱ区 2面 | - | 236 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | 内面：赤影 | |
| 33 | 295 | Ⅱ区 3面 | p383 | 230 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外面：ハケ? | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 軟 | 破片 | 外面：赤影 | |
| 33 | 296 | Ⅱ区 3面 | p392 | 229 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外面：ハケ | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | 外面：赤影 | |
| 33 | 297 | Ⅱ区 3面 B-3 | - | 225 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外面：ハケ | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | 外面：赤影 | |
| 33 | 298 | Ⅱ区 3面 A-2 | - | 232 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外面：ミガキ | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 299 | Ⅱ区 | p8 | 224 | 土師器 | ? | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子少量 | 良好 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 300 | Ⅱ区 2面 | p163 | 220 | 土師器 | 杯 | 古墳 | (11.0) | - | - | 口縁部：ヨコナデ、底部：ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色粒子少量 | 良好 | 破片 | 外面：赤影 | |
| 33 | 301 | Ⅱ区 3面 | p317 | 218 | 土師器 | 高杯 | ? | - | - | - | 外内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 302 | Ⅱ区 3面 | p321 | 221 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | - | 外面：ミガキ? | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 303 | Ⅱ区 3面 A-3 | - | 245 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | - | 外内面ともにヨコナデ | 褐色色 | 赤 | 良好 | 破片 | 内外面ともに赤影 | |
| 33 | 304 | Ⅱ区 3面 | p213 | 219 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | (5.0) | 外面：ハケ? | 褐色色 | 白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | 内面：赤影 | |
| 33 | 305 | Ⅱ区 3面 | p229 | 271 | 土師器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 306 | Ⅱ区 3面 | p621 | 266 | 土師器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 307 | Ⅱ区 3面 | p462 | 267 | 土師器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 308 | Ⅱ区 3面 | p627 | 274 | 土師器 | 大甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外内面ともにタタキ | 灰色 | 赤 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 390 | 立倉1東トレンチ | - | 334 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (12.0) | (9.4) | - | 口縁部：強いナデ、底部：ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色粒子ごく少量 | 良好 | 70% | 破片 | |
| 33 | 391 | 立倉1東トレンチ | - | 336 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | - | - | - | 外面：ナデ?、ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | 内面：黒色処理 | |
| 33 | 392 | 立倉1東トレンチ | - | 337 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (13.0) | - | - | 外面：ナデ?、ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 393 | 立倉1東トレンチ | - | 335 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (13.2) | (9.0) | - | 口縁部：強いナデ、底部：ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色粒子・金葉角ごく少量 | 良好 | 40% | 破片 | 内面：黒色処理 |
| 33 | 394 | 立倉1東トレンチ | - | 339 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (14.6) | - | - | 口縁部：強いナデ、底部：ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色粒子 | やや軟 | 破片 | | |
| 33 | 395 | 立倉1東トレンチ | - | 336 | 土師器 | 杯 | 古墳後期 | (20.0) | - | - | 外面：強いナデ、底部：ケズリ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色・白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 396 | 立倉1東トレンチ | - | 347 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | - | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子・角閃石少量 | 良好 | 破片 | 内面：赤影 | |
| 33 | 397 | 立倉1東トレンチ | - | 341 | 土師器 | 甕 | 古墳 | (22.0) | - | - | 口縁部：強いナデ、底部：ハケナデ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色・白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 398 | 立倉1東トレンチ | - | 344 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外・内面ともにハケ | 褐色色 | 赤色・白色粒子少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 400 | 立倉1東トレンチ | - | 343 | 土師器 | 甕 | 古墳後期 | - | - | - | 外面：ハケナデ、内面：ナデ | 褐色色 | 赤色・白色粒子ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 401 | 立倉1東トレンチ | - | 342 | 土師器 | 甕? | ? | - | - | (6.0) | 外・内面ともに摩滅著しく不明 | 褐色色 | 白色粒子・金葉角ごく少量 | やや軟 | 破片 | | |
| 33 | 402 | 立倉1東トレンチ | - | 340 | 土師器 | 甕 | ? | - | - | (8.2) | 外面：ハケ、内面：ナデ | 褐色色 | 白色粒子・角閃石ごく少量 | 良好 | 破片 | | |
| 33 | 403 | 別表 | - | 352 | 磁器 | | | | | | | | | | | 別表 | |
| 33 | 404 | 別表 | - | 353 | 磁器 | | | | | | | | | | | 別表 | |
| 33 | 405 | 別表 | - | 346 | 陶器 | | | | | | | | | | | 別表 | |
| 33 | 406 | 別表 | - | 349 | 陶器 | | | | | | | | | | | 別表 | |
| 33 | 407 | 別表 | - | 348 | 磁器 | | | | | | | | | | | 別表 | |
| 33 | 408 | 別表 | - | 351 | 磁器 | | | | | | | | | | | 別表 | |
| 33 | 409 | 別表 | - | 350 | 磁器 | | | | | | | | | | | 別表 | |

第3章 自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）は、山梨県甲府市中央に所在し、後背の丘陵地から流下する相川が形成した扇状地扇端付近に立地している。本遺跡ではⅠ・Ⅱ区の2箇所で開催調査が実施され、Ⅰ区では地山とされる堆積物の削削と、その上位に水平堆積する堆積物が確認された。当地区は、甲府城二の堀の一部に該当する可能性も指摘されるため、上位に堆積する土層の年代や当時の古環境の検証が課題とされた。

本報告では、Ⅰ区で確認された堆積物の年代観および古植生復元、Ⅱ区の深堀で確認された泥炭とされる黒色の泥質土堆積時の古植生復元を目的として、放射性炭素年代測定および花粉分析を実施する。

第1節 放射性炭素年代測定および花粉分析

1. 試料

試料は、Ⅰ区1・7層、Ⅱ区6・11層から採取された土壌4点である。これらの試料の肉眼観察では、Ⅰ区1層は褐色砂質土、同7層は酸化鉄が発達する暗褐色を呈する泥質土、Ⅱ区11層は酸化鉄が発達する黒褐色を呈する泥質土、同16層は団粒化が認められる黒色を呈する泥質土である。なお、Ⅱ区の土壌試料は、深堀トレンチに認められた堆積物である（図1）。発掘調査所見によれば、下位より16～1層に分層され、最下位の16層は黒色粘土、15層は暗褐色粘質土、14層は暗褐色粘質土、13層は粗粒砂を少量含む橙褐色粘質土、12層は橙褐色粗粒砂混じり粘質土、11層は細礫、橙褐色土粒、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む黒褐色粘質土、10層は灰褐色シルト質土、5層は橙褐色粗粒砂、4層は黒褐色砂質土とされており、4層からは古墳時代の遺物が出土している。

分析調査は、上記の試料のうちⅠ区7層より抽出した炭化物2試料について放射性炭素年代測定を、Ⅰ区1・7層、Ⅱ区16層を対象に花粉分析を行う。なお、Ⅰ区1層については、試料の観察所見から微化石類の産状は不良と判断されたため、追加試料としてⅡ区11層も花粉分析試料に供している。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

本分析では、堆積物の年代観の検証が目的とされたことから、放射性炭素年代測定の対象試料候補とされたⅠ区7層、Ⅱ区11・16層より有機物（炭化物や植物遺体など）の抽出を行った。各試料の肉眼観察結果では、炭化物や植物遺体を確認できなかったため、各試料500cc（Ⅰ区7層：911.1g、Ⅱ区11層：885.78g、同16層：829.1g）について水洗選別法による試料の抽出を行った。その結果、Ⅰ区7層から炭化物・不明炭化植物遺体0.05g、Ⅱ区11層から炭化物0.03g、Ⅱ区16層から炭化物0.89gが確認されことから、調査担当者で打合せ結果に基づき、Ⅰ区7層炭化物（炭化材、不明炭化植物遺体）を放射性炭素年代測定試料に供した。

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N、水酸化ナトリウム1N、塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS-1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ

化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、I 区 7 層炭化物（炭化材）は 955 ± 20 BP、同試料炭化物（炭化植物遺体）は 930 ± 20 BP を示す（表 1）。また、暦年較正結果（測定誤差 σ ）は、炭化物（炭化材）は calAD 1,029-1,149、炭化物（炭化植物遺体）は calAD 1,042-1,117 である（表 2）。

なお、暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（ ^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位での表記が通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、本報告では 1 年単位で表記している。暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 花粉分析

結果を表 3 に示す。表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。いずれの試料も検出される花粉化石は少なく、定量分析に有効な個体数は得られなかった。また、わずかに検出された花粉化石の保存状態も不良であり、大部分は花粉外膜が破損・溶解している状態であった。以下に、各試料の産状を示す。

I 区 7・1 層は、イネ科がわずかに 1 個体ずつ検出されたのみである。II 区 16 層は、木本花粉ではツガ属やマツ属、スギ属が、草本花粉ではイネ科、ヨモギ属、タンポポ科が 1～3 個体検出されるのみである。II 区 11 層は、木本花粉ではモミ属やツガ属、スギ属、ニレ属-ケヤキ属が、草本花粉ではイネ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク科が 1～7 個体検出される。

表 1. 放射性炭素年代測定結果

| 地区名 | 層位 | 試料の質 | 補正年代 BP | $\delta^{13}\text{C}$ (‰) | Code No. | 測定機関番号 |
|-----|-----|------|--------------|---------------------------|----------|----------|
| I 区 | 7 層 | 炭化材 | 955 ± 20 | -26.69 ± 0.16 | 9713-1 | PLD-8638 |
| | | 炭化物 | 930 ± 20 | -26.59 ± 0.17 | 9713-2 | PLD-8639 |

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。

2) BP 年代値は、1,950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ （測定値の 68% が入る範囲）を年代値に換算した値。

表 2. 暦年較正結果

| 地区名 | 層位 | 補正年代 (BP) | 暦年較正年代 (cal) | | 相対比 | | 相対比 | Code No. |
|-----|--------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------|-------|--------|----------|
| I 区 | 7 層 | 953 ± 18 | σ | cal AD 1,029 - cal AD 1,047 | cal BP 921 - 903 | 0.294 | 9713-1 | |
| | | | | cal AD 1,089 - cal AD 1,121 | cal BP 861 - 829 | 0.550 | | |
| | | 2σ | cal AD 1,139 - cal AD 1,149 | cal BP 811 - 801 | 0.156 | | | |
| | | | cal AD 1,023 - cal AD 1,057 | cal BP 927 - 893 | 0.298 | | | |
| | 931 ± 18 | σ | cal AD 1,076 - cal AD 1,154 | cal BP 874 - 796 | 0.702 | | | |
| | | | cal AD 1,042 - cal AD 1,054 | cal BP 908 - 896 | 0.153 | | | |
| | | cal AD 1,078 - cal AD 1,107 | cal BP 872 - 843 | 0.375 | | | | |
| | | cal AD 1,117 - cal AD 1,117 | cal BP 833 - 833 | 0.472 | | | | |
| | | 2σ | cal AD 1,036 - cal AD 1,156 | cal BP 914 - 794 | 1.000 | | | |

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and P.J. Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

4. 考察

I区7層から抽出された炭化物は、いずれも11～12世紀中頃の年代を示した。本分析結果を参考とすると、7層より下位に認められた地山はそれ以前の堆積物と推定される。

花粉分析の結果、11～12世紀頃の堆積物と考えられるI区7層を含む4試料は、いずれも花粉化石の産出状況は不良であり、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。

花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という要因が考えられる。一般的に、花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。検出された花粉化石の保存状態を考慮すると、土層中に取り込まれた花粉・シダ類胞子は、その後の経年変化により分解・消失したと推定される。

なお、II区試料は、I区と比べやや多くの花粉化石が検出された。古植生を検討するまでは至らないが、検出された種類から周辺にモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、ニレ属-ケヤキ属等の木本類、イネ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科等の草本類の生育が窺われる。本遺跡東方に所在する大坪遺跡(甲府市横根町)の古墳時代中期～古代の堆積物の花粉分析結果では、スギを主体にヒノキ類、モミ属、ツガ属を交えた温帯性針葉樹や、コナラ属コナラ亜属等の落葉広葉樹が周辺丘陵部に優勢であり、低地部にはイネ科を主体とした沼沢地環境が広がり、比較的乾いたところにカヤツリグサ科、クワ科、アカザ科-ヒユ科、ヨモギ属等が生育していたとされている(鈴木,2002)。II区11・16層は古墳時代以前の堆積物と推定され、上記した事例とやや時代が異なるが、今回検出された種類は、後背の丘陵・山地部や低地部等の植生を反映している可能性がある。

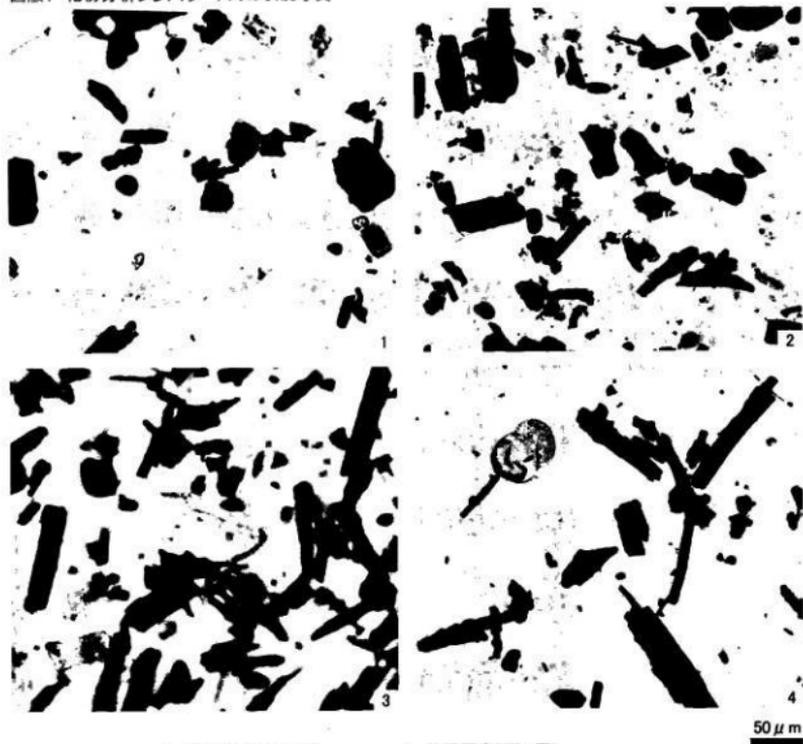
引用文献

- 三宅 尚・中越 信和,1998,森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態,植生史研究,6,15-30.
 中村 純,1967,花粉分析,古今書院,232p.
 鈴木 茂,2002,大坪遺跡東区の花化石,大坪遺跡-平成12年度調査地点の報告-,社会福祉法人 清翔会・大坪遺跡発掘調査会,34-39
 徳永 重元・山内 輝子,1971,花粉・胞子,化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

表 3. 花粉分析結果

| 種 類 | I 区 | | II 区 | | |
|-----------|-----|----|------|----|-----|
| | 層位 | 1層 | 7層 | 6層 | 11層 |
| 木本花粉 | | | | | |
| モミ属 | - | - | 2 | - | |
| ツガ属 | - | - | 3 | 1 | |
| マツ属 | - | - | - | 3 | |
| スギ属 | - | - | 1 | 1 | |
| ニレ属-ケヤキ属 | - | - | 1 | - | |
| 草本花粉 | | | | | |
| イネ科 | 1 | 1 | 5 | 1 | |
| ナデシコ科 | - | - | 2 | - | |
| ヨモギ属 | - | - | 7 | 1 | |
| キク亜科 | - | - | 1 | - | |
| タンポポ科 | - | - | - | 1 | |
| 不明花粉 | - | - | 3 | - | |
| シダ類胞子 | | | | | |
| イノモトソウ属 | - | - | 1 | - | |
| 他のシダ類胞子 | 1 | 3 | 49 | 26 | |
| 合 計 | | | | | |
| 木本花粉 | 0 | 0 | 7 | 5 | |
| 草本花粉 | 1 | 1 | 15 | 3 | |
| 不明花粉 | 0 | 0 | 3 | 0 | |
| シダ類胞子 | 1 | 3 | 50 | 26 | |
| 総計(不明を除く) | 2 | 4 | 72 | 34 | |

図版1 花粉分析プレパラート内の状況写真



1. 状況写真(I区:1層)

3. 状況写真(II区:11層)

2. 状況写真(I区:7層)

4. 状況写真(II区:16層)

第5章 まとめ

第1節 I区

1. 遺構

I区では明確な遺構は見られなかったが、「二の堀」確認のためI区全体の土層観察で見られた、地山が切られた土層について考えてみたい。これは、甲府地方裁判所地点から南へ750mほどのところにある中央1丁目188番地地点の調査で「二の堀」跡が確認されたことから、今回の調査地点にも「二の堀」がかかる可能性があったため、調査の目的となったことは先述したとおりである。

まず両者の土層状況を比較してみると、中央1丁目188番地地点の「二の堀」跡内土層堆積を見ると、しまりの度合いが異なる土がランダムに重なる状況を示しており、I区の水平堆積の状況とは大きく異なっている。また中央1丁目188番地地点の堀跡内からは陶磁器や木製品などの遺物が多く出土しており、I区では遺物の出土が全く見られないという点と比べても大きく異なっている。

江戸時代において「二の堀」はその内側の武家地と外側の町人地を分けていたとされるが、明治時代に至ると管理が行き届きとなり物が投げ入れられたり、その結果堀内の水が汚れて腐敗臭が漂ったりした。また藤村県令による「前時代的な構造物を排除し近代的な街並みを作り上げていく」という動きの中で、通行の妨げとなる「二の堀」は埋め立てられた。その一部は側溝のような形で昭和45年頃まで残されていた部分もあったという。このように、明治初期にかなりの部分が人力によって一気に埋められたと考えられるが、I区の土層堆積からはそのような埋め立ての状況は観察されなかった。しかしながらある段階でもともとあった地山が切り取られて、そのあとに砂や土、粘土などが堆積したことは明らかであった。これがもし堀の堆積だと考えるのならば、底に近い位置で厚さ25cmほどの砂の堆積がみられることから堀内の流れは、例えば川のようにある程度の流れをともなったものになる(註1)。堀が甲府城を中心にくぐっていたものであると考えれば、そこは水が閉ざされた場所であり、堀の中で水がごうごうと音をたてて流れていた状況は想像しがたい。また中層あたりで若干土壌化した堆積層が見られるが、これが堀の中だったとすると、一時的に堀内が干上がっていた時期があったことになる(註2)。さらにこの土壌化した堆積層に含まれる炭化物2点について¹⁴C年代測定を行なったところ、2点ともに11～12世紀中頃にあたる年代値が得られている。今回I区で確認された土層は中央1丁目188番地地点における「二の堀」跡の土層堆積とは大きく異なっており、また先の調査で見つかったような近代の側溝となった堀の名残も発見されなかった。

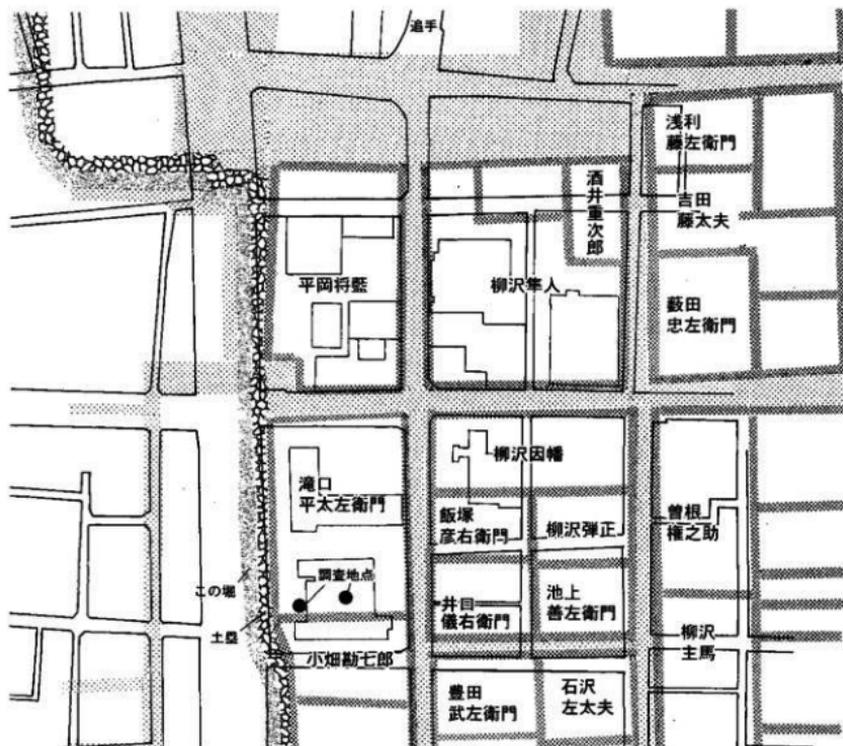
現在の地形図(2万5千分の一)に、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった時代を描いた絵図を重ね合わせてみると(第43図)、「二の堀」は今回の調査区付近では、ほぼ平和通りを走っていたことになる。また幕末に描かれた「懷宝甲府絵図」によれば、南北方向に走っている「二の堀」は調査地周辺で若干西に振れている様子が描かれており、これからすればI区よりもっと西側の平和通りに寄った位置にある可能性が大きいであろう。また「写真集 甲府物語」によると、甲府地方裁判所のビルよりもかなり西側に小さな堀が映し出されている写真があり、これからするとやはり今の歩道がある辺りにこの「二の堀」の名残である小さな堀があったものと思われる。以上の状況を考え併せると、やはり甲府地方裁判所地点のあたりでは「二の堀」は裁判所敷地内を通らずにもっと西寄りを、つまりほぼ平和通りに沿う形で南北に延びていたと考えられる。そしてI区で見られた地山が切られた状況を示す土層は、旧河道である可能性が大きいのではないだろうか。

(註1)(註2)

帝京大学山梨文化財研究所 河西学氏のご教示による

2. 遺物

I区では上層で陶磁器類の出土が見られた。遺物集中区より発見されたものは幕末～明治時代の所産と考えら



第42図 調査地点周辺の江戸時代中頃における土地利用

れるが、中には小倉焼（こぐえやき）と呼ばれる県内窯の焼き物も含まれていた。小倉焼は北杜市須玉町小倉地区で生産されていた焼き物で、明治時代初期に生産が始まった。当初は素焼きの焼き物であったが、明治27年頃に奥田信斎が移り住んでからは釉薬を掛けた陶器が生産されるようになった。今回I区から出土したものは釉薬が掛かっているため、この時期以降につくられたものと考えられる。

また遺物集中区からではないが、同じくI区から単独で出土した志野焼の鉢は底面見込み部に「春岱」の銘があり、これによって尾張の陶工「加藤春岱」による作品であることが明らかとなった。「春岱」銘のある陶器片は「加藤春岱」が活躍した赤津焼のお膝元、愛知県瀬戸市に所在する鳳山屋敷遺跡でも見つかっているが、発掘調査での名のある陶工による作品の出土は稀な例であると言える。

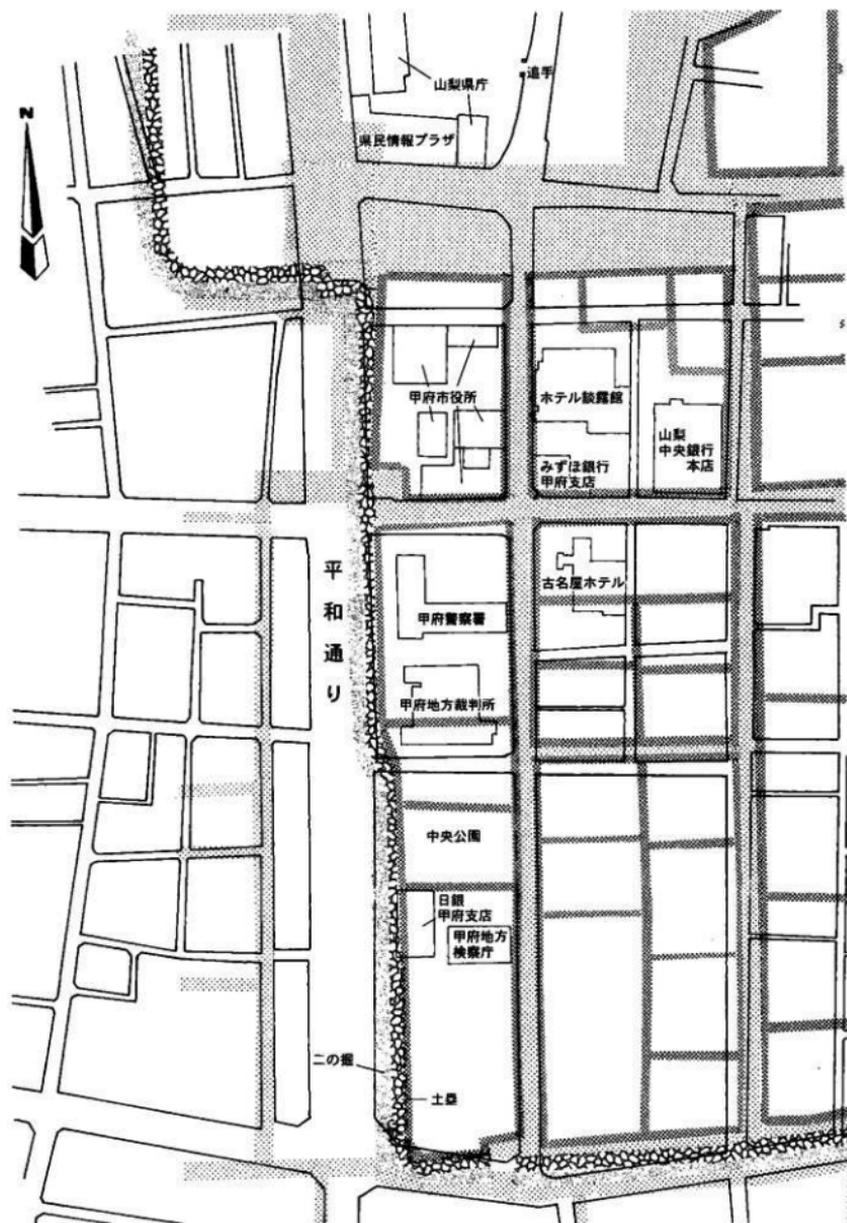
第2節 II区

1. 遺構

江戸時代（2面）

調査区北側で溝が4条検出されているのみで、他に遺構は発見されなかった。

「甲府御城下絵図」（柳沢文庫蔵）によれば調査地周辺は、江戸時代中期、柳沢吉保・吉里が甲府城主だった頃、その家臣で家老の「滝口平太左衛門」の屋敷地の南端から、同じく御寄合の「小畑勘七」の屋敷地の北端にかか



第 43 図 「甲府御城下絵図」の地区割りと現在の町並み

る辺りであると推定される。屋敷地の地境の溝などが検出される可能性もあったが、場所的にも屋敷地のはずれにあたるため、また調査対象地がごく狭い範囲であったため明確な遺構が検出されなかったものとみられる。

また幕末に描かれた絵図によると「御茶園」があった場所にあたり、それまでの武家屋敷地としての土地利用とは大きく変わっているため、今回明確な遺構が発見されなかったのには、その後の土地改変が大きかったこともひとつの要因として考えられるのではないだろうか。

古墳時代（3面）

地表面下1mほどの黒褐色土から、弥生時代末～平安時代の土器片が多く出土した。時期的には古墳時代を中心としている。この土を掘り下げていったところ、竪穴状遺構4基とピット4基が検出された。遺構の性格については不明であるが焼土なども検出されていることから、近くに生活の主体があった可能性もある。特に、立会い調査を行なったⅡ区西側の東トレンチでは、焼土粒や炭化物粒を多く含んだ土層中から、摩滅していない坏類が出土していることもこれを裏付けている。

周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城下町遺跡」から、このような遺構を伴った城下町以前の遺跡が見つかる事は稀であるが、今回の調査地点に近い百人町の立会い調査などでは地表面下1mの黒褐色土層中から土師器の壺も確認されていることから、今回の調査地点一帯には城下町形成以前の古い遺跡が眠っている可能性も大きいにある。

2. 遺物

江戸時代（2面）

溝や2面から陶磁器類の出土が見られたが、いずれも破片であり主体的なものではなかった。

古墳時代（3面）

先に述べたように、若干の江戸時代遺物の混在もあるが、3面からは弥生時代末～平安時代の遺物がバックされた状態で出土した。その多くが古墳時代の土師器片であるが、中には完形に近い古墳時代前期の台付甕や甕なども含まれていた。弥生時代末～古墳時代前期の口縁部に刻みをもつ甕の破片も何点か見られるが、S字状口縁をもつ甕は小さな破片も含め全く見られなかった。後期では坏や須恵器・甕の破片や須恵器・無蓋高坏の破片も見られた。また破片ではあるものの、赤彩されたものも比較的目的にあった。日常的に使われる甕や壺などの器種とともに、非日常的な器種である須恵器・甕や高坏が含まれていることは特筆される。特に須恵器・無蓋高坏は長脚の無蓋高坏と考えられ、一般的な集落からの出土はあまり見られない器種であり、近くに後期古墳などが存在した可能性も否めない。

第3節 おわりに

今回の調査地点は「甲府城下町遺跡」の一角でありながらも、甲府城下町に関わる遺構は「二の堀」を含めてほとんど発見されなかった。しかしながら、今回の調査により「二の堀」は甲府地方裁判所のあたりではほぼ平和通りを走っていること、柳沢時代の町並みを描き写した「甲府御城下絵図」の距離感やその位置関係はほぼ正確であることが明らかとなった。

また著しい開発の歴史を持つ甲府市中心部に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」において、はるか城下町以前である弥生時代末～平安時代の遺物や遺構が発見されたことは大きな成果であった。今後「甲府城下町遺跡」内の調査を行う際には、先入観にとらわれず、城下町以前の土層確認を行ないながら調査を進めていく必要がある。

写真図版



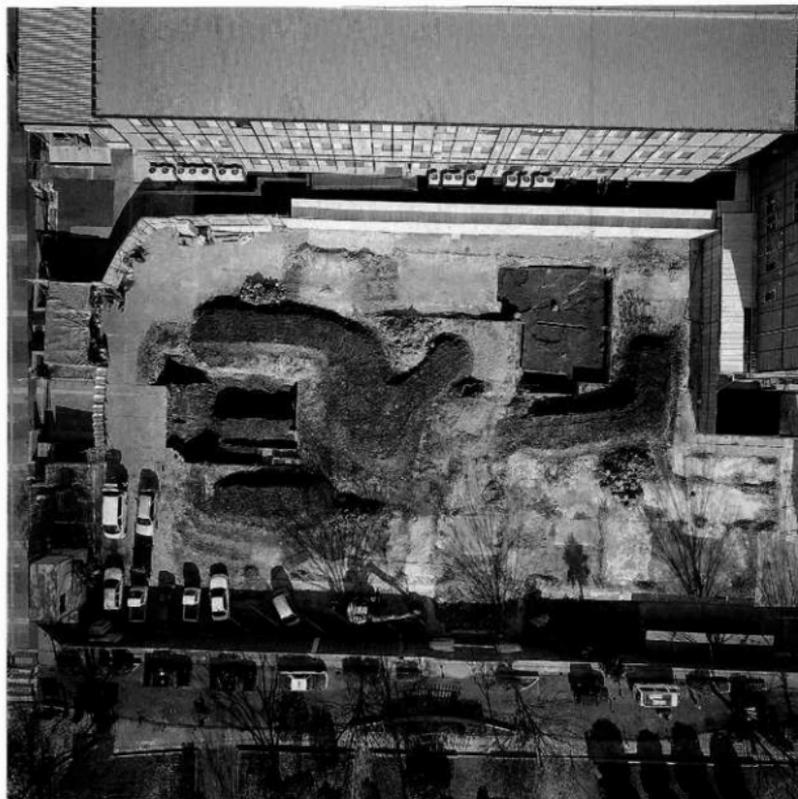
調査区全景：南から北をのぞむ



調査区全景：II区

写真図版目次

- 図版 1 調査区全景、調査区配置図
- 図版 2 I 区（真上から）
II 区（真上から）
- 図版 3 I 区西側土層
調査風景（I 区）
表土剥ぎの様子（II 区）
II 区 1 面全体
- 図版 4 坏出土状況：報告 No. 277（II 区 1 面）
調査風景（II 区）
溝（II 区 2 面）
竪穴状遺構 1 完掘状況（II 区 3 面）
- 図版 5 竪穴状遺構 1 内 礫集中
台付甕出土状況 1
台付甕出土状況 2
台付甕出土状況 3
- 図版 6 遺物出土状況 1
遺物出土状況 2
甕出土状況
須恵器片出土状況
- 図版 7 無蓋高坏破片出土状況
竪穴状遺構 2 遺物出土状況 1
竪穴状遺構 2 完掘状況
竪穴状遺構 2 内 遺物出土状況 2
- 図版 8 竪穴状遺構 2 内 甕出土状況
調査風景（II 区）
竪穴状遺構 3 完掘状況（上から）
竪穴状遺構 3 完掘状況（東から）
- 図版 9 竪穴状遺構 3 内 遺物出土状況
竪穴状遺構 3 内 焼土出土状況
竪穴状遺構 1・2・3・4 完掘状況
高坏脚部出土状況
- 図版 10 底部出土状況
ビット 土層の様子
ビット 完掘状況
調査区北壁 土層の様子
- 図版 11 調査区西壁 土層の様子 1
調査区西壁 土層の様子
立会い調査 西トレンチ（II 区西側）
立会い調査 東トレンチ（II 区西側）
- 図版 12 立会い調査 土層調査の様子（I 区南側）
立会い調査 井戸（手前カラーコーン部）
立会い調査 井戸（真上から）
立会い調査 井戸の木枠の様子



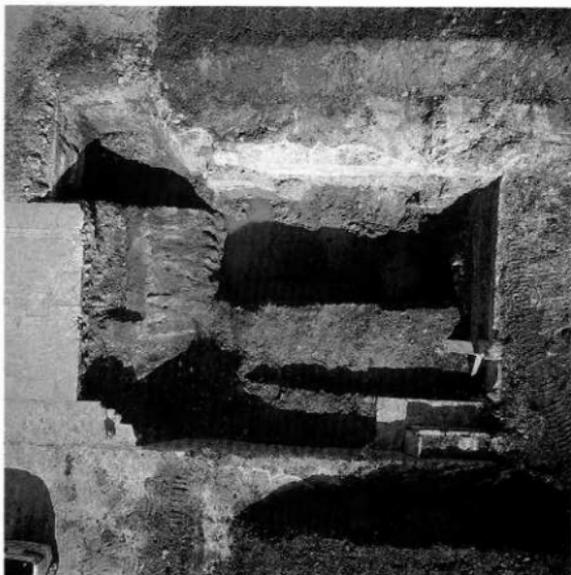
調査区全景

調査対象地は、旧裁判所庁舎が建っていた場所であったため、その建物基礎が入っていない部分を選んで調査区を設定した。

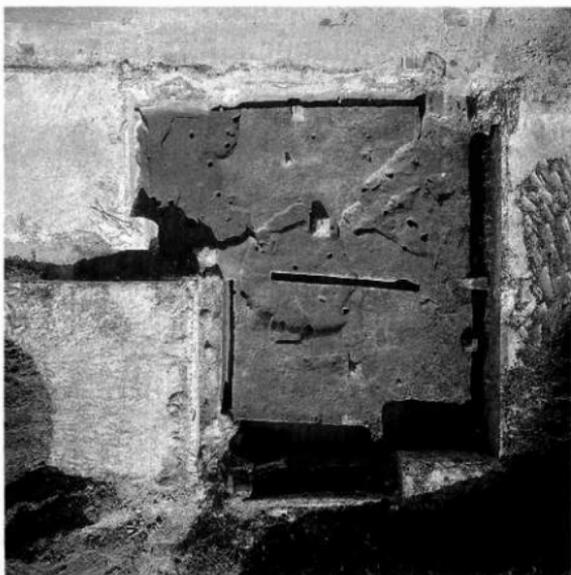
I区は旧庁舎の正面玄関部分、II区は同じく中庭部分にあたる場所である。



調査区配置図



I区：真上から（左が平和通り側）



II区：真上から（3面の様子）



I区：調査区西側土層



I区：調査風景



II区：表土剥ぎの様子



II区：1面



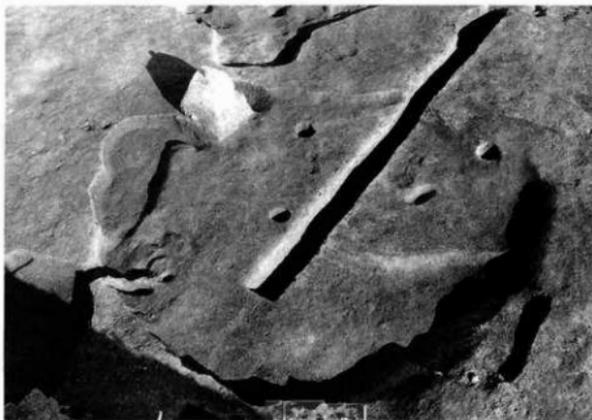
II区1面：遺物出土状況



II区：調査風景



II区2面：溝3完掘状況



II区3面：竪穴状遺構1 完掘状況



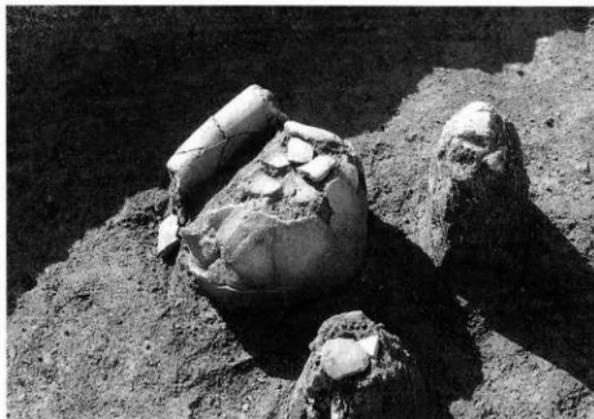
II区3面：竪穴状遺構1内 集石



II区3面：竪穴状遺構1内 遺物出土状況



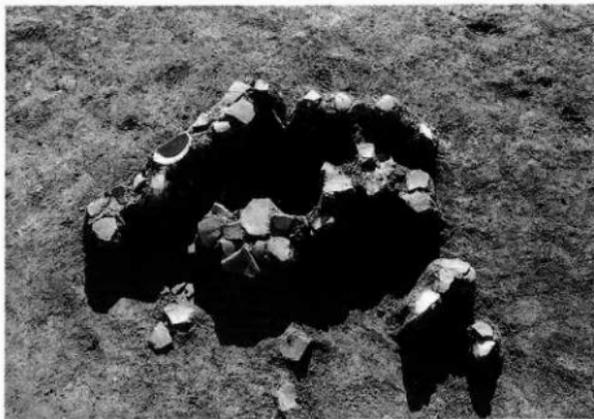
II区3面：竪穴状遺構1内 台付甕 出土状況(1)



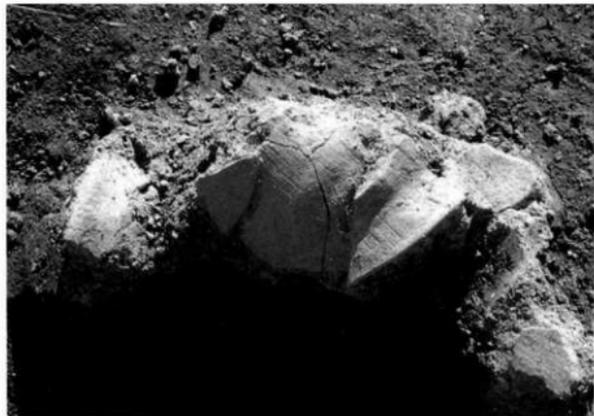
II区3面：竪穴状遺構1内 台付甕 出土状況(2)



II区3面：遺物出土状況(1)



II区3面：遺物出土状況(2)



II区3面：礎出土状況



II区3面：須恵器片出土状況



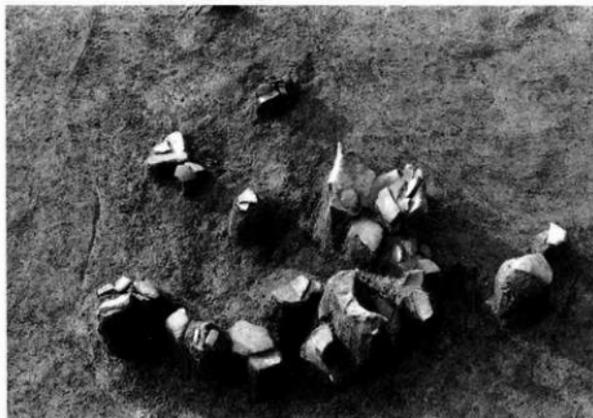
II区3面：須恵器 無蓋高坏 坏部 出土状況



II区3面：竪穴状遺構2 遺物出土状況(1)



II区3面：竪穴状遺構2 完掘状況



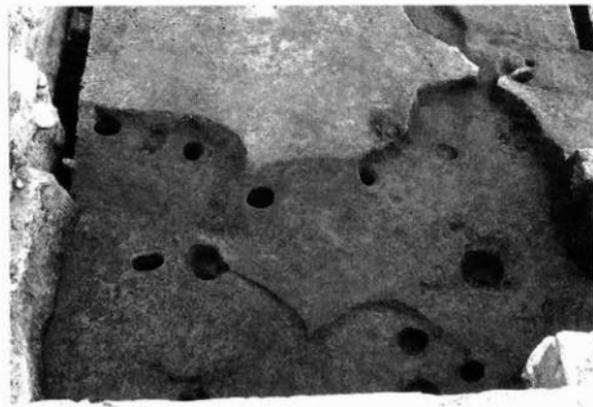
II区3面：竪穴状遺構2内 遺物出土状況(2)



II区3面：竪穴状遺構2内 遺物出土状況[2]アップ



II区3面：調査風景



II区3面：竪穴状遺構3・4 完掘状況



II区3面：竪穴状遺構3・4 完掘状況(東から)



II区3面：竪穴状遺構4内 遺物出土状況



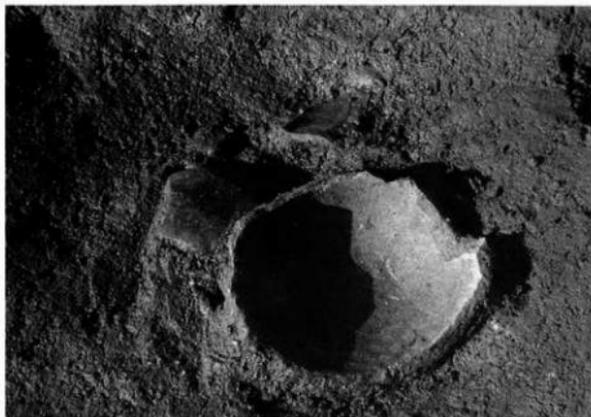
II区3面：竪穴状遺構3内 焼土検出状況



II区3面：竪穴状遺構1・2（東から）



II区3面：高坏脚部 出土状況



II区3面：底部出土状況



II区3面：ビット4 土層



II区3面：ビット4 完掘状況



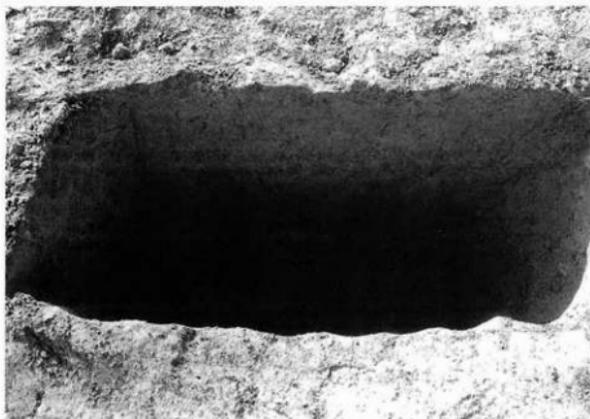
II区：調査区北壁土層



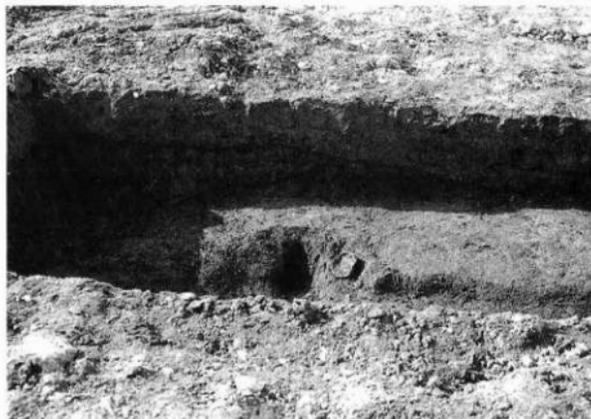
II区：調査区 西壁 土層



II区：調査区 西壁 土層（調査区拡張後）



立会い調査（II区西側部分）：西トレンチ 土層



立会い調査（II区西側部分）：東トレンチ 土層



立会い調査（I区南側部分）：調査風景



立会い調査（井戸）：井戸の発見状況（手前カラーコーン内が井戸）



立会い調査（井戸）：井戸の状況（上から）



立会い調査（井戸）：井戸の状況（井戸枠のアップ）

報告書抄録

| | |
|--------|------------------------------------------|
| ふりがな | こうふじょうかまちいせき (こうふちほうさいばんしよちてん) |
| 書名 | 甲府城下町遺跡 (甲府地方裁判所地点) |
| 副書名 | 甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第249集 |
| 著者名 | 野代恵子・鶴田博 |
| 編集機関 | 山梨県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL:055-266-3016 |
| 発行者 | 山梨県教育委員会・国土交通省 |
| 発行日 | 2007(平成19)年12月25日 |

| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東緯 | 調査機関 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
|------------------------------------------------|-----------------------------------|-------|------|-----|------|-------------------------------------|-------------|--------------------------------------|
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| こうふじょうか まちいせき (こ うふちほうさい ばんしよちて ん) | やまなしけん こうふし ちゅうおう いっちょうめ | 19201 | 253 | 35° | 138° | 2006(平成 18)年 11月1日～ 12月25日 | 510㎡ | 甲府地方 裁判所庁 舎新営工 事に伴う 発掘調査 |
| 甲府城下町遺跡 (甲府地方裁判 所地点) | 山梨県 甲府市中央1 丁目 | | | 39° | 33° | | | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|----------------------------|--------------|--------------|----------------|----------------------|------------------------------|
| 甲府城下町遺跡 (甲府地方裁判 所地点) | 遺物散布地 城下町 | 古墳時代 江戸時代 | 竪穴状遺構 ピット、溝 | 土師器 (坏・甕) 陶磁器類 | 古墳時代～平安時代にか けての遺物が多数出土した。 |

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第249集

甲府城下町遺跡 (甲府地方裁判所地点)

甲府地方裁判所庁舎新営工事に伴う発掘調査報告書

| | |
|-----|-----------------------------------------------|
| 印刷日 | 2007(平成19)年12月20日 |
| 発行日 | 2007(平成19)年12月25日 |
| 編集 | 山梨県埋蔵文化財センター 山梨県甲府市下曾根923 TEL:055-266-3016 |
| 発行 | 山梨県教育委員会・国土交通省 |
| 印刷 | 株式会社 峽南堂印刷所 |